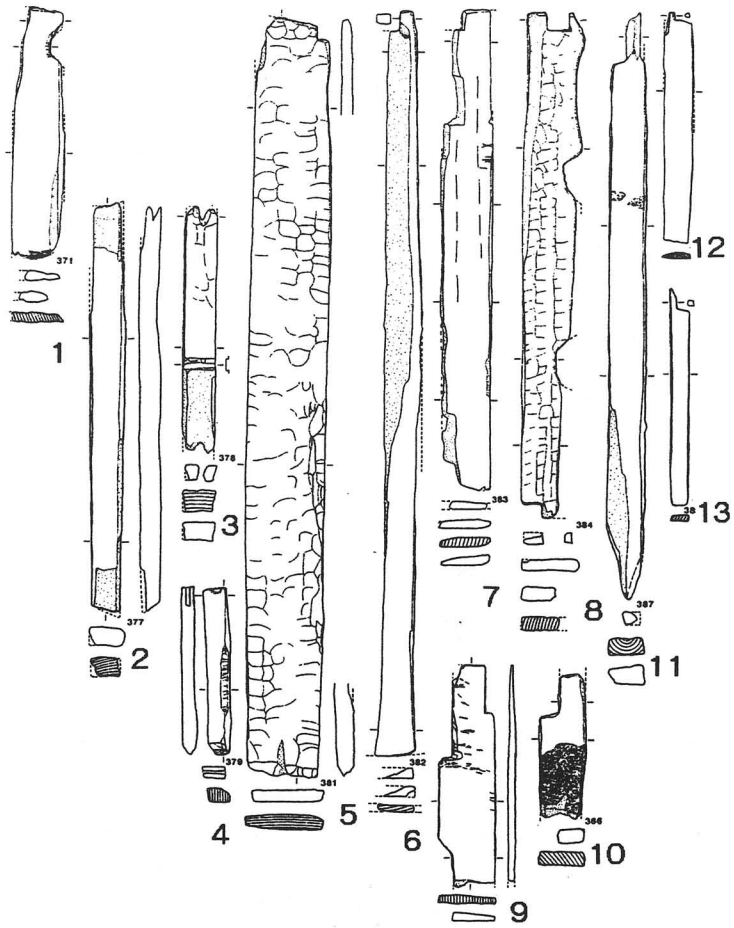
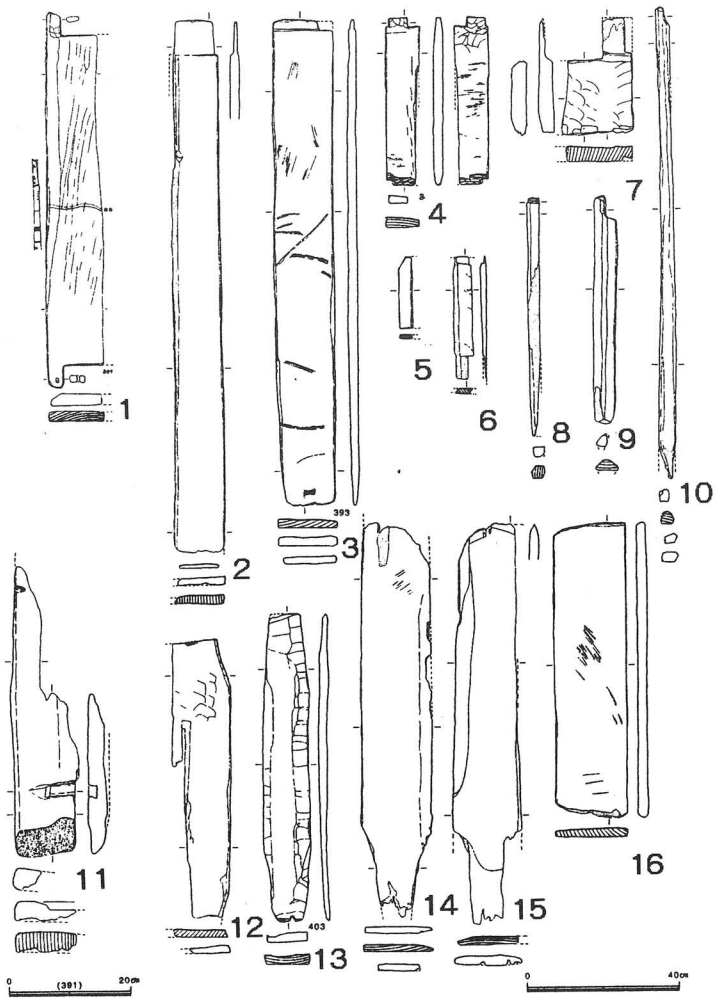
遺跡名	恒武西浦遺跡	時代・時期	古墳時代中期
所在地	静岡県浜松市恒武町		
文献	『恒武西宮・西浦遺跡』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　2000.3.31		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	欠込のある材	ヒノキ	古墳時代中期	66.7	13.7	3.1	1/20
2	欠込のある材	ヒノキ	古墳時代中期	108.8	9.2	5.3	1/20
3	欠込のある材	ヒノキ	古墳時代中期	65.6	8.6	5.9	1/20
4	欠込のある材	サカキ	古墳時代中期	44.5	6.5	3.9	1/20
5	欠込のある材	ヒノキ	古墳時代中期	202.1.	20.6	5.0	1/20
6	欠込のある材	ヒノキ	古墳時代中期	197.7	10.6	2.9	1/20
7	欠込のある材	ヒノキ	古墳時代中期	127.5	14.0	2.6	1/20
8	欠込のある材	ヒノキ	古墳時代中期	134.4	15.2	3.8	1/20
9	欠込のある材	ヒノキ	古墳時代中期	58.6	15.4	2.4	1/20
10	欠込のある材	ヒノキ	古墳時代中期	38.4	12.3	3.8	1/20
11	出枘のある材	ヒノキ	古墳時代中期	156.2	9.8	5.4	1/20
12	出枘のある材	ヒノキ	古墳時代中期	61.4	7.8	1.7	1/20
13	出枘のある材	モミ属	古墳時代中期	57.6	5.2	1.8	1/20

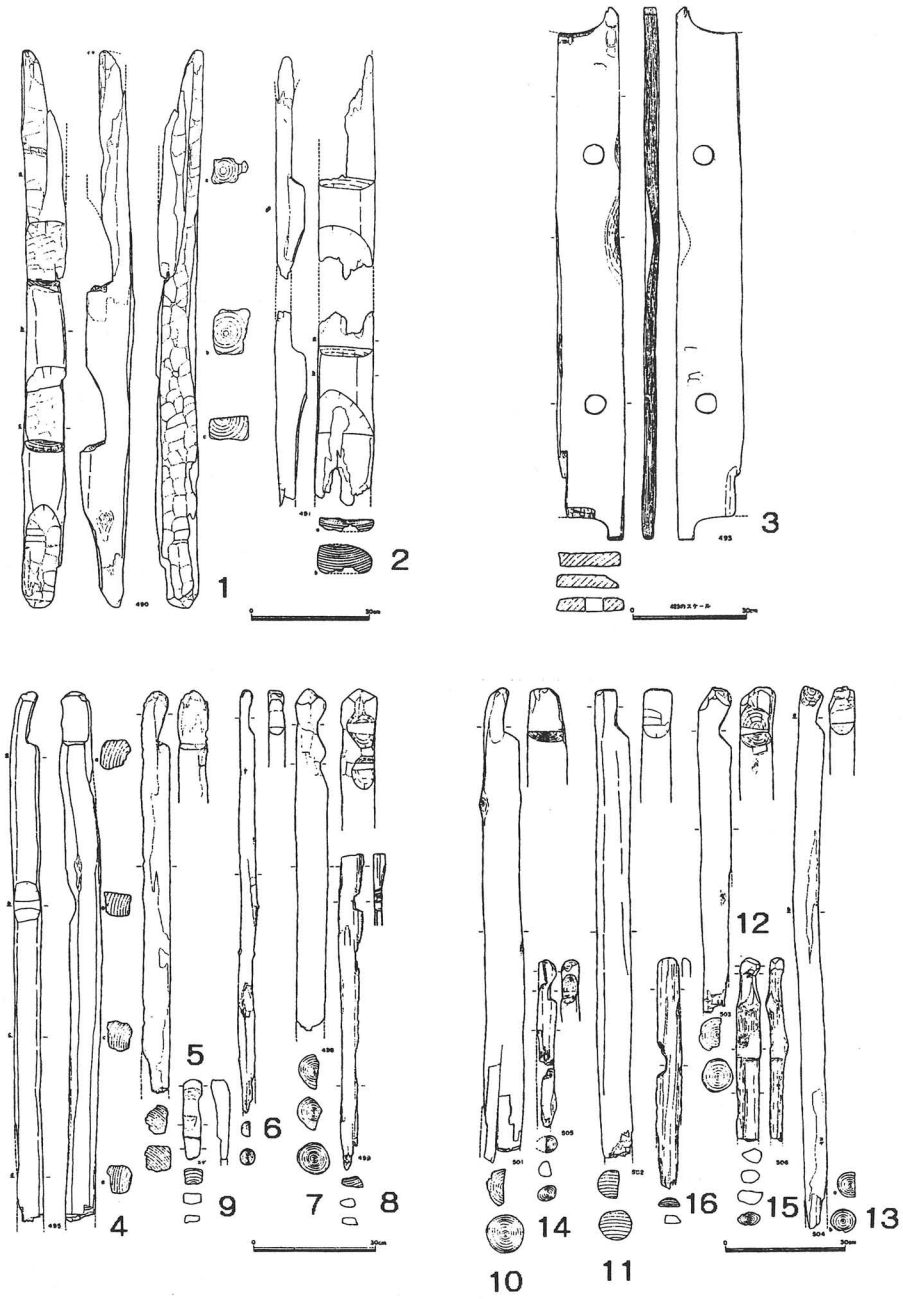
遺跡名	恒武西浦遺跡	時代・時期	古墳時代中期
所在地	静岡県浜松市恒武町		
文献	『恒武西宮・西浦遺跡』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　2000.3.31		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	出枘のある材	ヒノキ	古墳時代中期	99.3	15.4	3.1	1/20
2	出枘のある材	ヒノキ	古墳時代中期	140.2	13.4	2.5	1/20
3	出枘のある材	ヒノキ	古墳時代中期	128.0	16.0	2.9	1/20
4	出枘のある材	ヒノキ	古墳時代中期	44.4	9.1	2.6	1/20
5	板材	ヒノキ	古墳時代中期	18.8	3.6	1.2	1/20
6	板材	ヒノキ	古墳時代中期	32.4	5.0	1.6	1/20
7	欠込のある材	ヒノキ	古墳時代中期	31.2	19.0	4.1	1/20
8	棒材	ヒノキ	古墳時代中期	62.6	3.4	3.3	1/20
9	棒材	モミ属	古墳時代中期	59.8	6.2	3.1	1/20
10	棒材	ヒノキ	古墳時代中期	124.0	4.6	3.4	1/20
11	欠込のある材	ヒノキ	古墳時代中期	76.2	17.2	5.7	1/20
12	板材	ヒノキ	古墳時代中期	72.9	15.4	2.2	1/20
13	板材	ヒノキ	古墳時代中期	80.8	12.3	2.8	1/20
14	板材	ヒノキ	古墳時代中期	103.7	18.5	2.0	1/20
15	板材	ヒノキ	古墳時代中期	105.4	17.9	2.9	1/20
16	板材	スギ	古墳時代中期	77.7	19.1	2.5	1/20

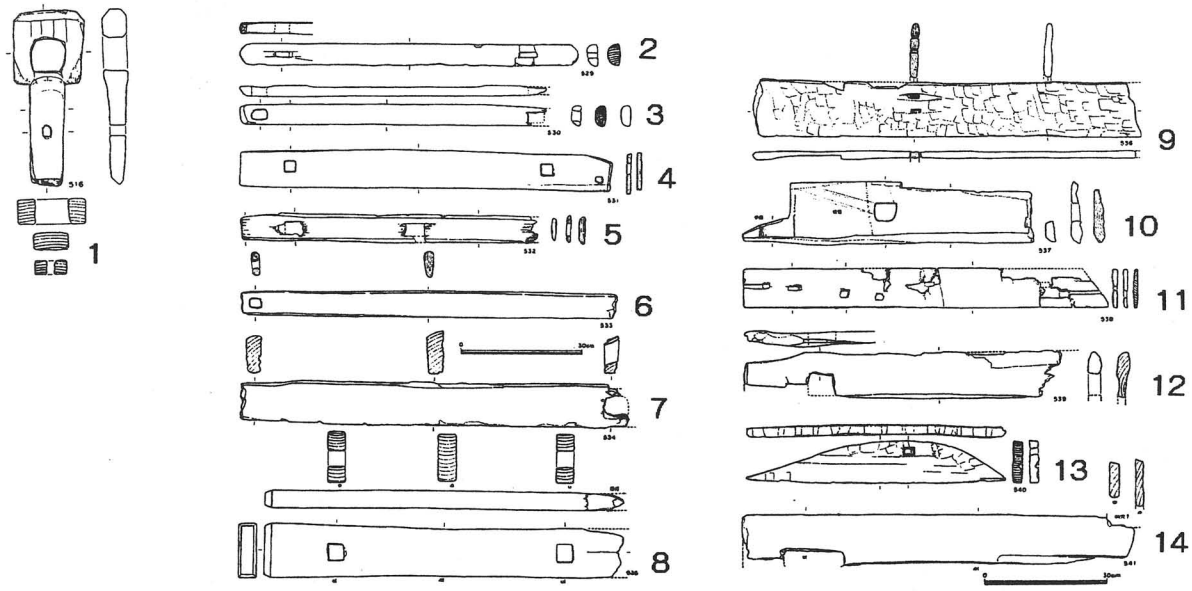
遺跡名	山ノ花遺跡	時代・時期	古墳時代中期
所在地	静岡県浜松市恒武町		
文献	『山ノ花遺跡 木器編（図版）』財団法人浜松市文化協会　1998.3		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	梯子	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	144.2	10.3	12.3	1/20
2	梯子	モミ属	古墳時代中期（5世紀）	108.2	14.0	7.8	1/20
3	まぐさ	サワラ	古墳時代中期（5世紀）	143.0	18.0	3.9	1/20
4	垂木	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	132.5	8.4	7.0	1/20
5	垂木	クリ	古墳時代中期（5世紀）	100.5	7.2	6.8	1/20
6	垂木	モミ属	古墳時代中期（5世紀）	105.5	径4.0	—	1/20
7	垂木	アカガシ亜属	古墳時代中期（5世紀）	86.6	径8.7	—	1/20
8	垂木	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	79.1	6.0	2.8	1/20
9	垂木	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	20.2	4.7	4.0	1/20
10	垂木	マキ属	古墳時代中期（5世紀）	118.5	径9.5	—	1/20
11	垂木	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	115.9	径8.5	—	1/20
12	垂木	モミ属	古墳時代中期（5世紀）	81.4	径8.3	—	1/20
13	垂木	モミ属	古墳時代中期（5世紀）	135.8	径6.5	—	1/20
14	垂木	散孔材	古墳時代中期（5世紀）	42.7	4.8	4.2	1/20
15	有頭棒	ツブラジイ	古墳時代中期（5世紀）	46.4	6.2	3.4	1/20
16	垂木	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	58.0	6.5	2.1	1/20

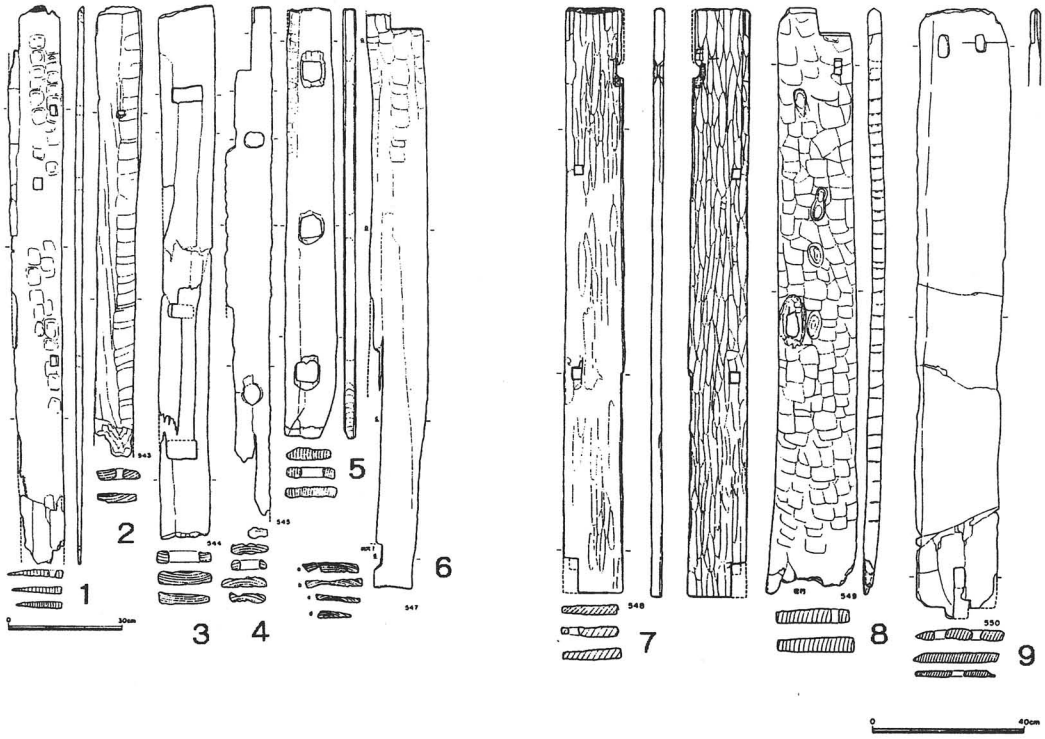
遺跡名	山ノ花遺跡	時代・時期	古墳時代中期、奈良時代
所在地	静岡県浜松市恒武町		
文献	『山ノ花遺跡 木器編（図版）』財団法人浜松市文化協会　1998.3		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	栓	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	23.2	9.0	3.3	1/10
2	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	84.8	5.5	3.0	1/20
3	貫穴のある材	スギ	古墳時代中期（5世紀）	76.6	5.2	2.8	1/20
4	貫穴のある材	ヒノキ科	古墳時代中期（5世紀）	93.4	9.6	1.1	1/20
5	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	74.8	7.3	1.5	1/20
6	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	94.5	6.5	2.5	1/20
7	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	97.2	11.0	4.2	1/20
8	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	90.9	13.8	4.5	1/20
9	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	96.8	14.5	2.0	1/20
10	貫穴のある材	ヒノキ	8世紀	73.9	16.0	2.8	1/20
11	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	92.1	10.0	1.1	1/20
12	貫穴のある材	モミ属	古墳時代中期（5世紀）	80.0	12.0	3.2	1/20
13	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	65.5	10.6	2.7	1/20
14	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	98.7	12.8	2.1	1/20

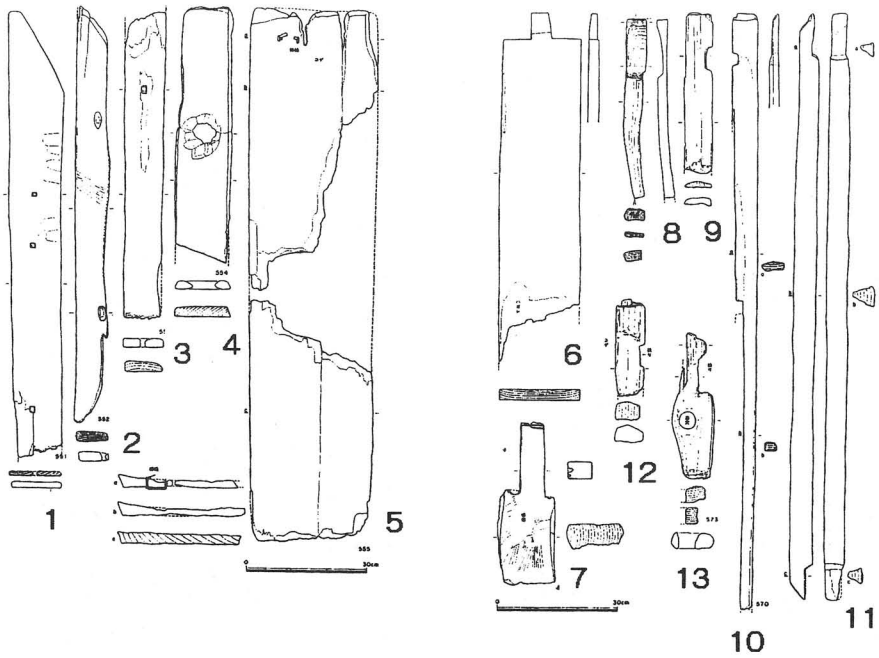
遺跡名	山ノ花遺跡	時代・時期	古墳時代中期
所在地	静岡県浜松市恒武町		
文献	『山ノ花遺跡 木器編（図版）』財団法人浜松市文化協会　1998.3		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	147.5	14.3	2.0	1/20
2	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	118.5	12.0	3.2	1/20
3	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	138.9	14.0	3.5	1/20
4	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	136.0	12.0	2.8	1/20
5	貫穴のある材	モミ属	古墳時代中期（5世紀）	112.2	13.0	3.3	1/20
6	貫穴のある材	モミ属	古墳時代中期（5世紀）	150.0	15.2	2.6	1/20
7	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	155.2	15.5	2.7	1/20
8	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	154.8	20.1	4.0	1/20
9	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	161.0	24.6	3.0	1/20

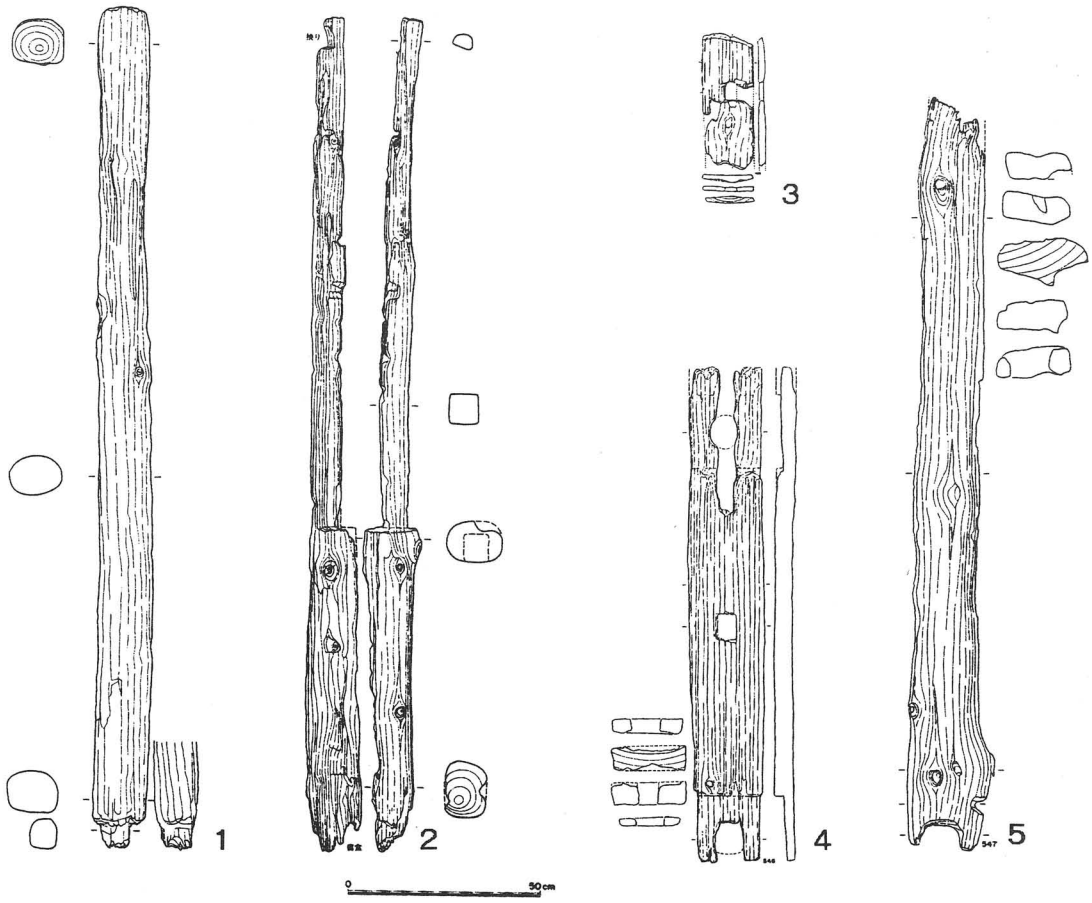
遺跡名	山ノ花遺跡	時代・時期	古墳時代中期
所在地	静岡県浜松市恒武町		
文献	『山ノ花遺跡 木器編（図版）』財団法人浜松市文化協会　1998.3		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	113.7	13.6	1.5	1/20
2	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	104.2	8.5	2.6	1/20
3	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	77.7	10.5	2.6	1/20
4	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	65.0	14.0	2.6	1/20
5	貫穴のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	133.0	31.6	3.2	1/20
6	出枘材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	88.8	20.2	2.6	1/20
7	出枘材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	41.5	14.5	6.3	1/20
8	挟入のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	45.4	5.1	3.0	1/20
9	挟入のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	40.9	7.0	2.0	1/20
10	挟入のある材	サワラ	古墳時代中期（5世紀）	149.0	6.3	2.4	1/20
11	挟入のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	147.8	5.5	5.5	1/20
12	挟入のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	24.4	7.2	4.4	1/20
13	挟入のある材	ヒノキ	古墳時代中期（5世紀）	36.8	10.6	4.2	1/20

遺跡名	中村遺跡	時代・時期	奈良時代
所在地	静岡県浜松市南伊場町		
文献	『中村遺跡(南伊場地区) 井戸・木製品編』浜松市博物館編　2004.3.15		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	柱	広葉樹	7~8世紀	221.3	13.5	11.0	1/20
2	柱	ヒノキ	7~8世紀	219.6	15.2	14.0	1/20
3	枘穴材	―	8世紀	35.2	13.0	1.8	1/20
4	抉入部材	ヒノキ	8世紀	130.3	16.2	6.4	1/20
5	枘穴部材	ヒノキ	8世紀	197.9	22.7	12.4	1/20

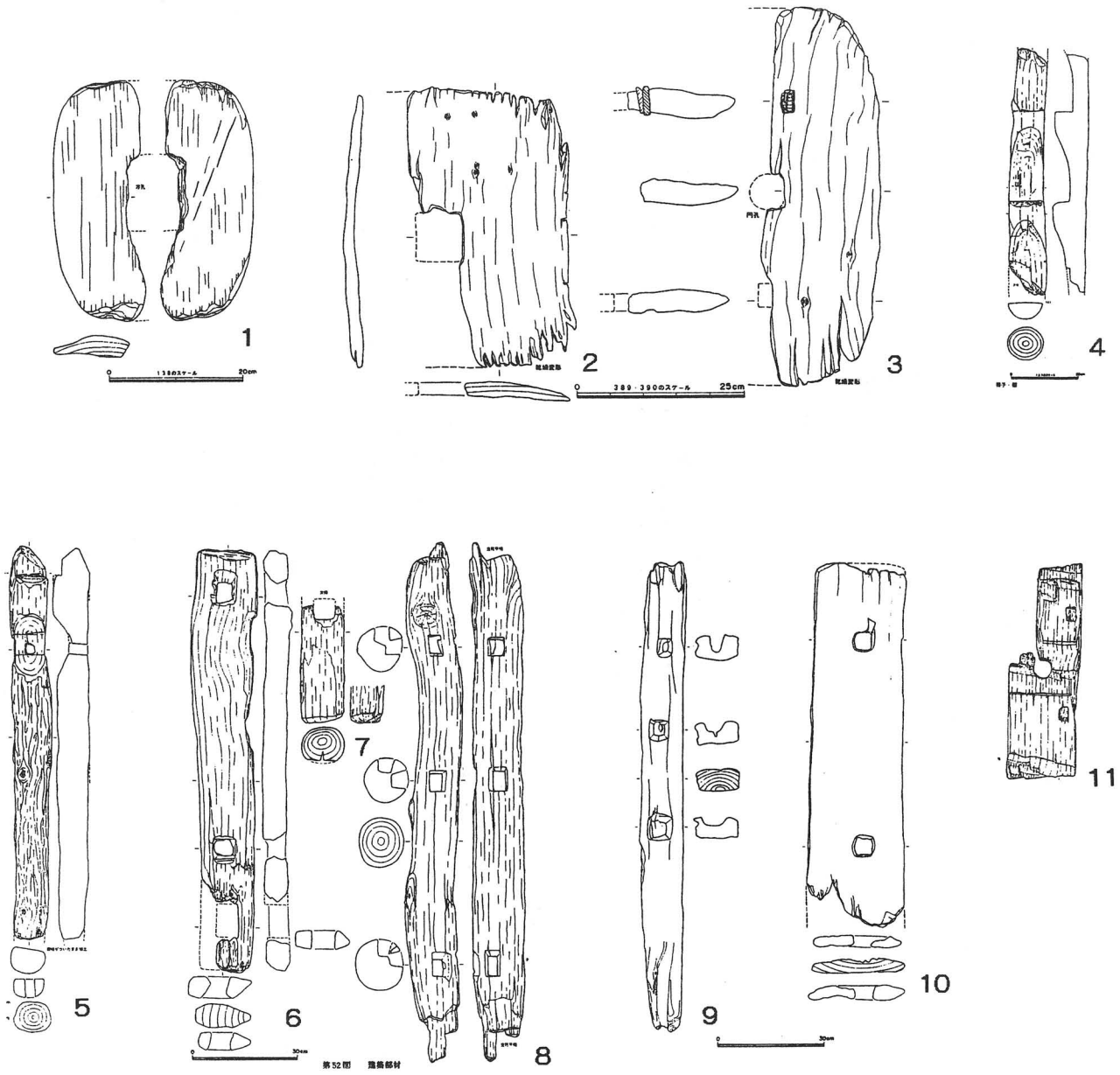
遺跡名	城山遺跡	時代・時期	奈良時代
所在地	静岡県浜名郡可美村（現浜松市東若林町）		
文献	『城山遺跡調査報告書』浜松市博物館編　可美村教育委員会発行　1981.3.25		

1

法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	隆起部のある材	―	奈良時代	―	―	―	1/20

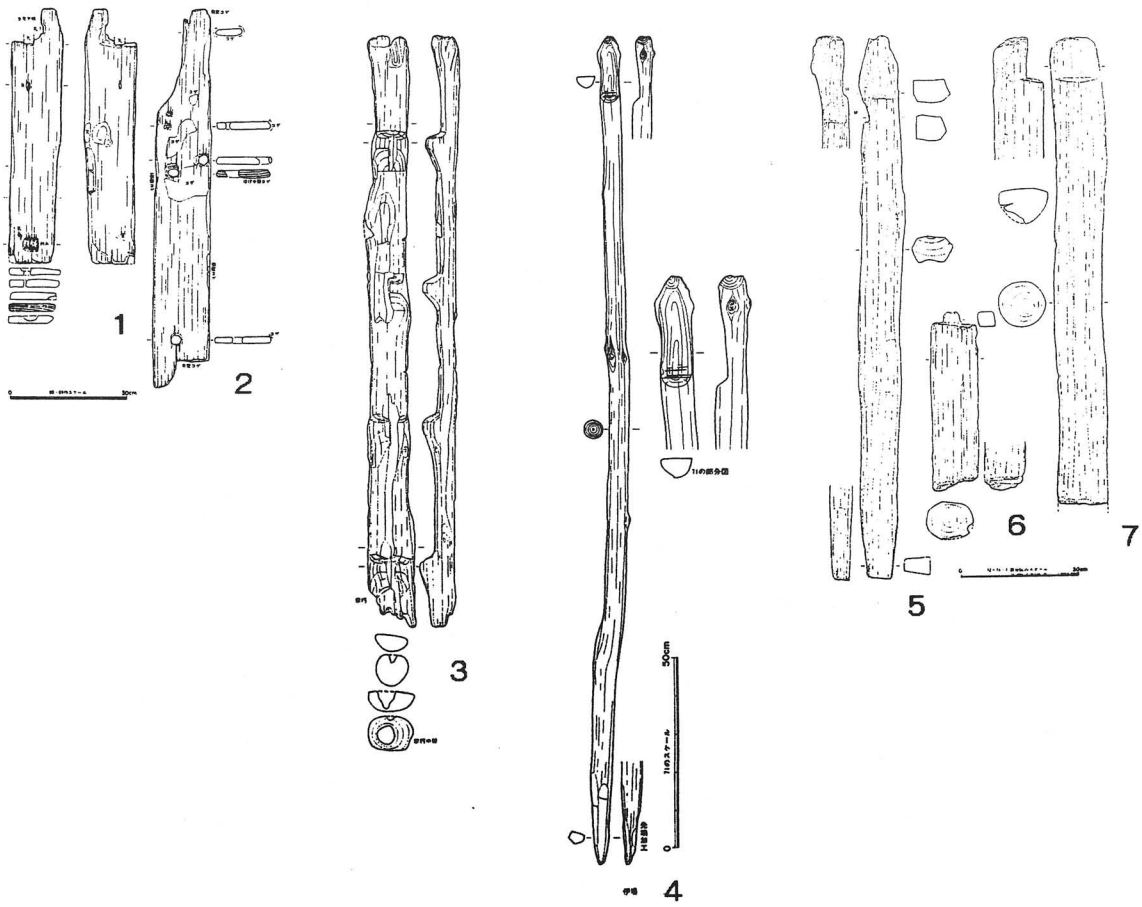
遺跡名	伊場遺跡	時代・時期	奈良時代
所在地	静岡県浜松市東伊場二丁目22・草若林町		
文献	『伊場遺跡 遺物編8(木製品Ⅱ・金属器・骨角器)』浜松市博物館編　2002.3.10		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	鼠返し	ヒノキ	7～8世紀	35.7	11.1	2.9	1/10
2	鼠返し	―	7～8世紀	41.5	24.3	2.6	1/10
3	鼠返し	―	7世紀	57.0	17.4	3.8	1/20
4	梯子	スギ	7～8世紀	74.4	10.4	9.8	1/20
5	抉入のある材	カシ類？	7～8世紀	116.1	径11.6	―	1/20
6	貫穴のある材	ヒノキ	7～8世紀	124.1	18.6	7.8	1/20
7	貫穴のある材	クヌギ？	7～8世紀	33.7	径12.1	―	1/20
8	貫穴のある材	クヌギ？	7～8世紀	152.7	径14.0	―	1/20
9	抉入のある材	広葉樹	7～8世紀	135.7	12.1	6.7	1/20
10	貫穴のある材	ヒノキ	7～8世紀	105.0	27.5	4.5	1/20
11	貫穴のある材	ヒノキ	―	71.4	20.7	7.6	1/20
	(礎版へ転用)						

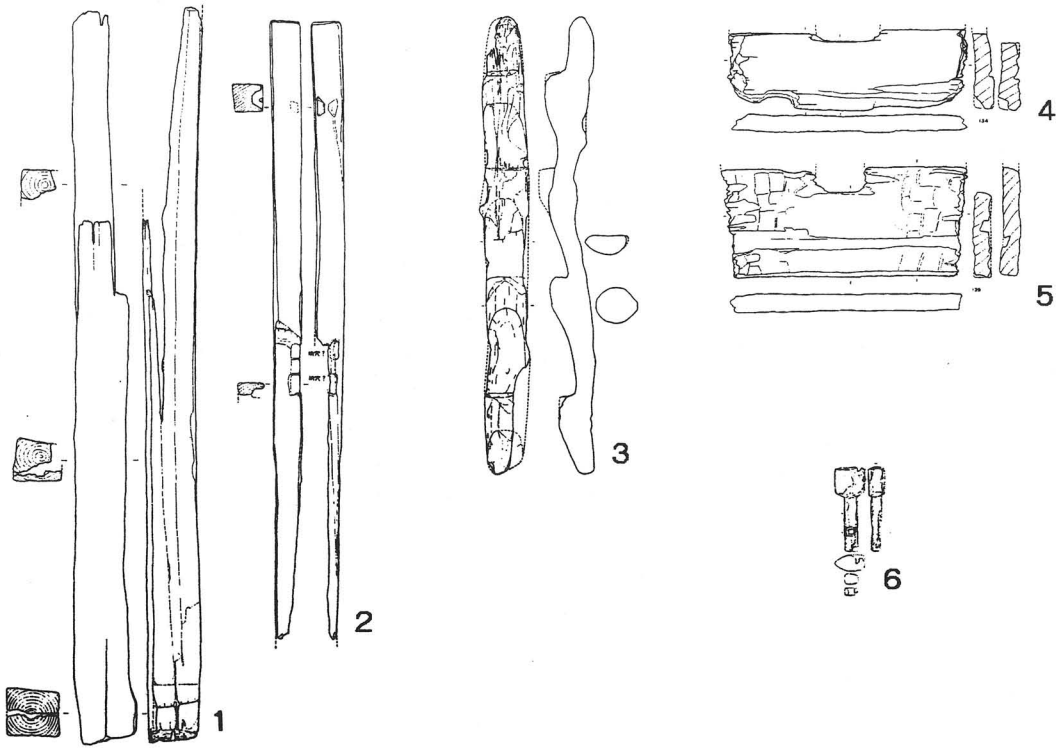
遺跡名	梶子遺跡　６次	時代・時期	弥生時代中期中葉、奈良時代
所在地	静岡県浜松市南伊場町４		
文献	『伊場遺跡 遺物編８（木製品Ⅱ・金属器・骨角器）』浜松市博物館編　2002.3.10		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	貫穴、抉入のある材	モミ	弥生時代中期中葉	66.6	12.8	2.1	1/20
2	貫穴のある材	サクラ	弥生時代中期中葉	100.5	14.9	2.1	1/20
3	梯子	クリ	弥生時代中期中葉	156.2	12.2	9.0	1/20
4	垂木	ヒノキ？	７世紀	217.2	径 5.4	—	1/20
5	垂木	ヒノキ	７世紀	144.6	12.0	7.0	1/20
6	出枘のある材	ヒノキ？	７世紀	46.3	径 12.1	—	1/20
7	垂木	カシ類？	７世紀	123.9	径 13.0	—	1/20

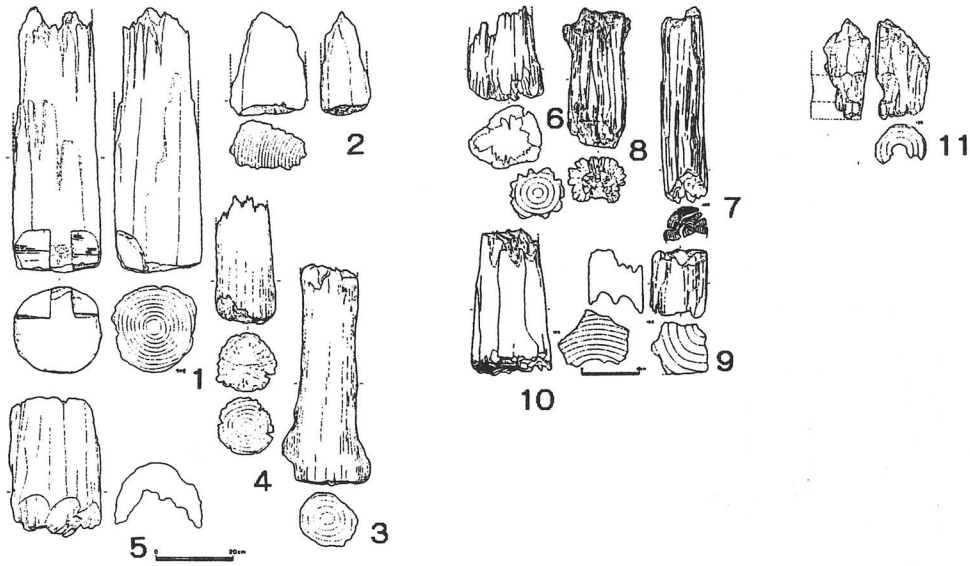
遺跡名	梶子北遺跡	時代・時期	弥生時代中期～古墳時代前期、奈良、平安時代
所在地	静岡県浜松市南伊場町		
文献	『梶子北遺跡　木器編』財団法人浜松市文化協会　1997.3.28		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	柱	ヒノキ	平安時代（10世紀代）	194.1	14.0	13.0	1/20
2	柱	ヒノキ	平安時代（10世紀代）	164.0	7.9	7.7	1/20
3	梯子	クリ	弥生時代中期	121.3	13.0	11.2	1/20
4	鼠返し	ヒノキ	奈良・平安時代	61.0	20.0	5.0	1/20
5	鼠返し	ヒノキ	奈良・平安時代	61.0	28.0	5.0	1/20
6	栓	クヌギ	弥生時代中期	22.2	8.0	4.2	1/20

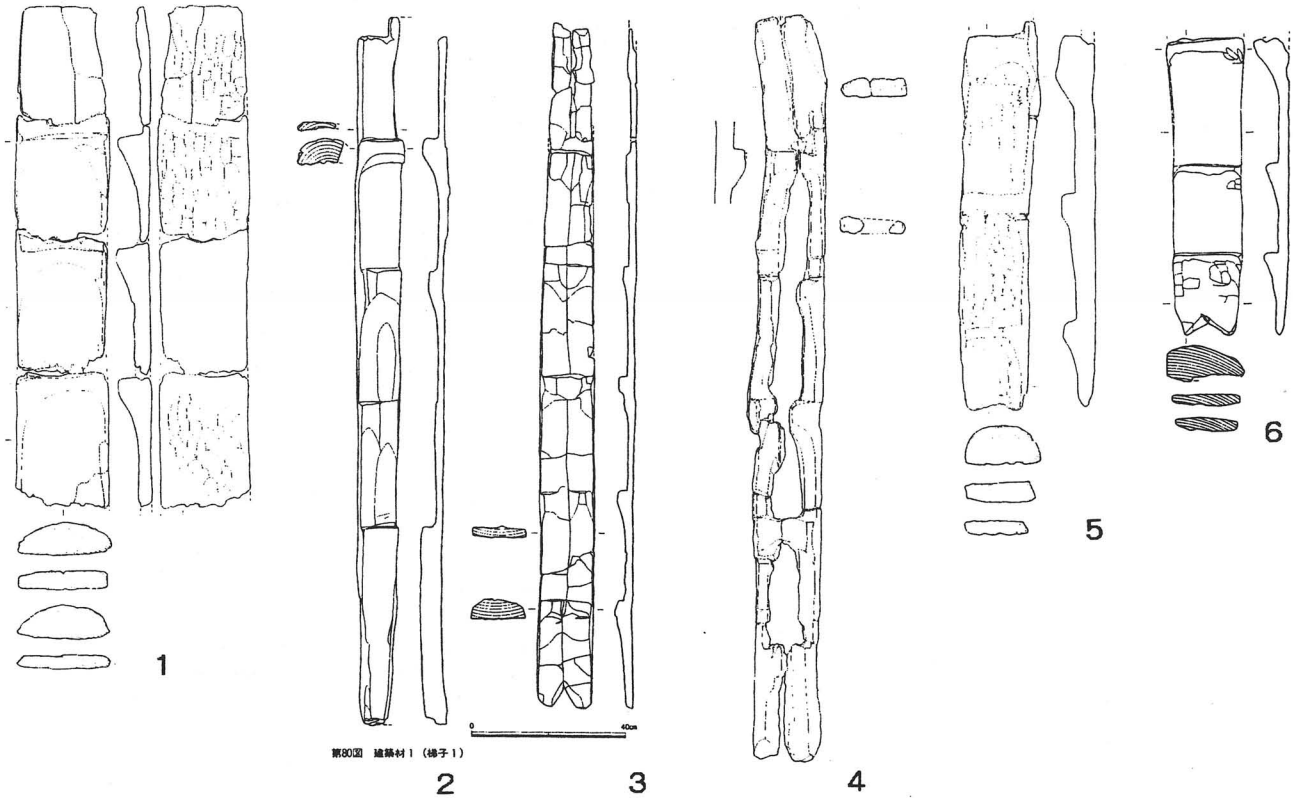
遺跡名	梶子北遺跡	時代・時期	弥生時代中期～古墳時代前期、奈良、平安時代
所在地	静岡県浜松市南伊場町		
文献	『梶子北遺跡　木器編』財団法人浜松市文化協会　1997.3.28		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	柱	クヌギ	8世紀？	68.9	径22.5	—	1/20
2	柱	ヒノキ	8世紀？	26.6	19.7	12.5	1/20
3	柱	クリ	9～10世紀	55.0	20.0	12.0	1/20
4	柱	クリ	9～10世紀	32.0	径15.0	—	1/20
5	柱	クリ	9～10世紀	35.0	23.0	5.0	1/20
6	柱	クリ	9～10世紀	23.0	径15.0	—	1/20
7	柱	クリ	9～10世紀	52.0	11.0	8.0	1/20
8	柱	ヒノキ	9～10世紀	35.0	15.0	14.0	1/20
9	柱	ヒノキ	9～10世紀	55.0	20.0	12.0	1/20
10	柱	ヒノキ	9～10世紀	37.0	20.0	15.0	1/20
11	柱(抉入)	クリ	9～10世紀	26.0	14.0	10.0	1/20

遺跡名	角江遺跡	時代・時期	弥生時代中期～弥生時代後期
所在地	静岡県浜松市入野町		
文献	『角江遺跡 遺物編２ 木製品』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　1996.3.31		

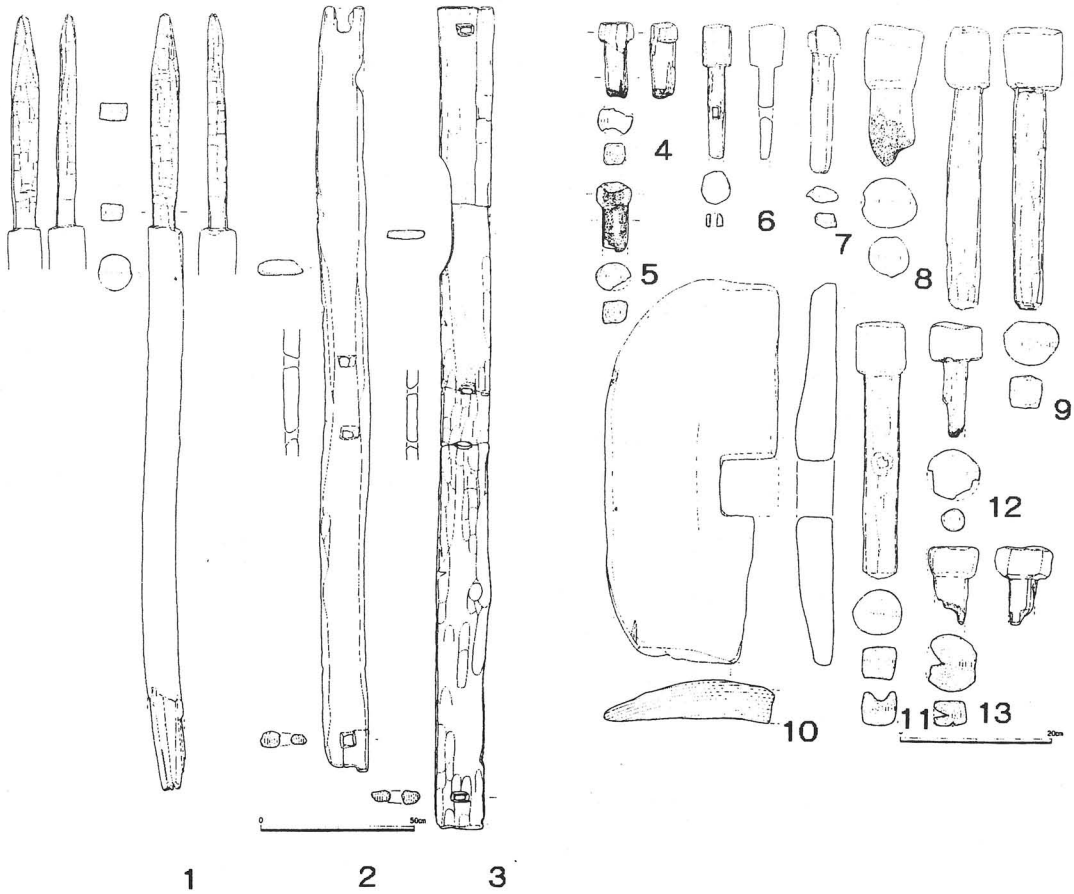


第80図　建築材１（梯子１）

法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	梯子	クリ	弥生時代	132.8	24.2	8.9	1/20
2	梯子	クリ	弥生時代中期	187.5	13.0	7.0	1/20
3	梯子	ユズリハ属	弥生時代中期	181.4	14.6	4.7	1/20
4	梯子	クリ	弥生時代	197.2	20.4	8.6	1/20
5	梯子	二葉松類	―	102.8	21.2	10.4	1/20
6	梯子	クリ	弥生時代後期	78.6	20.4	9.5	1/20

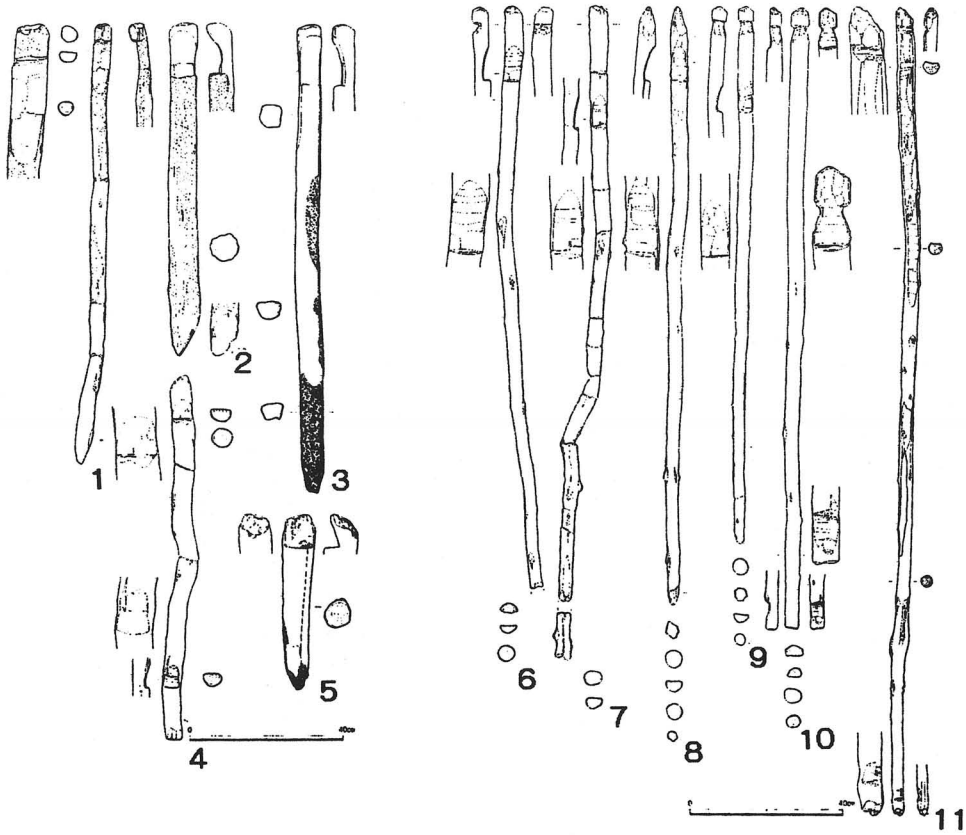
遺跡名	角江遺跡	時代・時期	縄文時代～弥生時代、中世、近世
所在地	静岡県浜松市入野町		
文献	『角江遺跡Ⅱ 遺物編２ 木製品』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　1996.3.31		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	柱	イヌマキ	弥生時代中期	256.6	13.4	12.0	1/20
2	台輪	クリ	弥生時代後期	253.4	15.6	6.0	1/20
3	台輪	コジイ	弥生時代後期	272.0	15.8	4.6	1/20
4	栓	イヌマキ	弥生時代中期	9.95	4.8	3.4	1/10
5	栓	クリ	弥生時代中期	9.2	4.8	3.6	1/10
6	栓	イヌマキ	弥生時代中期	17.8	3.8	4.5	1/10
7	栓	ヒサカキ	弥生時代中期	19.4	3.7	2.1	1/10
8	栓	カヤ?	弥生時代中期	18.65	9.1	6.6	1/10
9	栓	ネジキ	弥生時代中期	37.3	7.95	5.9	1/10
10	鼠返し	クリ	弥生時代後期	50.8	23.45	5.7	1/10
11	栓	イヌマキ	弥生時代後期	34.0	6.6	5.9	1/10
12	栓	イヌマキ	弥生時代	15.05	6.9	6.6	1/10
13	栓	ネジキ	弥生時代後期	10.4	7.8	7.5	1/10

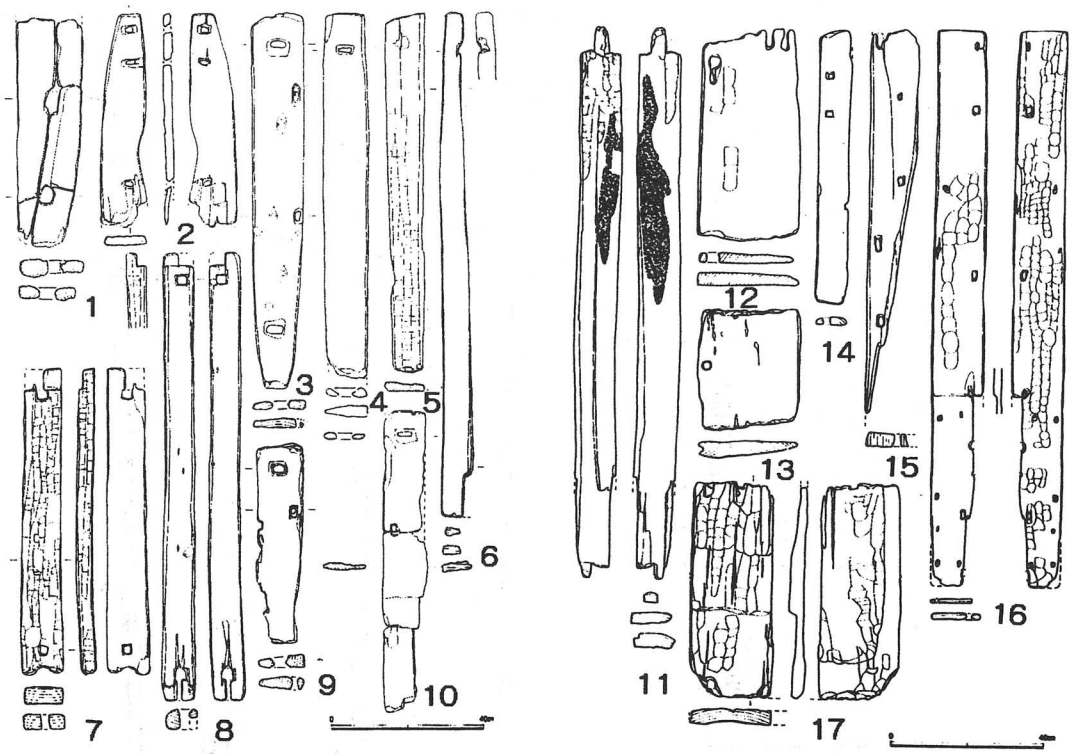
遺跡名	角江遺跡	時代・時期	弥生時代中期～弥生時代後期
所在地	静岡県浜松市入野町		
文献	『角江遺跡Ⅱ 遺物編２ 木製品』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　1996.3.31		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1	垂木	シャシャンボ	弥生時代中期	116.3	9.5	4.4	1/20
2	垂木	コナラ節	弥生時代後期	87.6	8.4	7.4	1/20
3	垂木	クロベ	弥生時代後期	123.4	7.6	5.8	1/20
4	垂木	シャシャンボ	弥生時代後期	96.3	5.5	5.0	1/20
5	垂木	―	弥生時代後期	46.1	8.7	8.8	1/20
6	垂木	イヌマキ	弥生時代後期	153.8	4.6	4.3	1/20
7	垂木	エゴノキ属	弥生時代後期	157.2	4.7	3.7	1/20
8	垂木	イヌマキ	弥生時代後期	158.2	4.4	4.6	1/20
9	垂木	イヌマキ	弥生時代後期	141.6	3.8	4.2	1/20
10	垂木	イヌマキ	弥生時代後期	164.0	4.8	3.8	1/20
11	垂木	イヌマキ	弥生時代後期	266.9	5.7	4.4	1/20

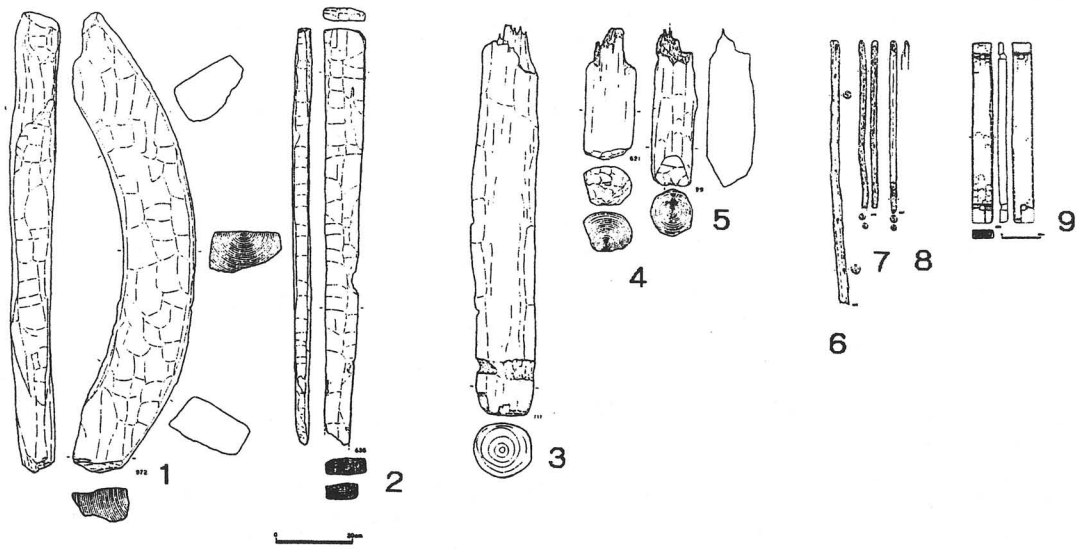
遺跡名	角江遺跡	時代・時期	弥生時代中期～弥生時代後期
所在地	静岡県浜松市入野町		
文献	『角江遺跡Ⅱ 遺物編２ 木製品』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所　1996.3.31		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1		クリ	弥生時代後期	60.1	17.5	4.9	1/20
2		スギ	弥生時代後期	56.15	12.25	2.65	1/20
3		スギ	弥生時代後期	99.4	13.4	2.5	1/20
4		ヒノキ	弥生時代後期	96.7	12.0	3.2	1/20
5		モミ属	弥生時代後期	95.0	10.3	2.4	1/20
6		ヒノキ	弥生時代後期	133.2	7.9	2.8	1/20
7		イヌマキ	弥生時代後期	80.6	11.0	4.4	1/20
8		ヒノキ	弥生時代後期	118.2	9.0	5.2	1/20
9		モミ属	弥生時代後期	52.2	12.2	3.6	1/20
10		クリ	弥生時代後期	79.3	11.6	1.9	1/20
11		ヒノキ	弥生時代後期	145.8	12.0	4.4	1/20
12		スギ	弥生時代後期	55.45	26.2	3.5	1/20
13		ヒノキ	弥生時代後期	31.8	26.3	4.1	1/20
14		スギ	弥生時代後期	72.8	8.6	2.3	1/20
15		スギ	弥生時代後期	101.3	12.8	3.9	1/20
16	壁板？	ヒノキ	弥生時代後期	146.0	13.8	2.2	1/20
17		ヒノキ	弥生時代後期	57.2	21.4	4.4	1/20

遺跡名	東前遺跡	時代・時期	古墳時代中期後葉～後期、奈良時代～中世
所在地	静岡県浜松市志都呂		
文献	『東前遺跡 付 坊ヶ跡遺跡・中脇遺跡・西脇遺跡』財団法人浜松市文化協会　2002.3.10		



法量

	名称	樹種	時代	長さ	幅	厚さ	縮尺
1		クヌギ節	古墳時代中期後葉～後期	121.2	18.9	12.6	1/20
2		アカガシ亜属	古墳時代中期後葉～後期	109.8	11.4	45.0	1/20
3	柱	―	古墳時代中期後葉～後期	102.9	16.8	14.4	1/20
4	柱	―	古墳時代中期後葉～後期	34.8	12.9	10.2	1/20
5	柱	―	古墳時代中期後葉～後期	42.0	10.8	12.6	1/20
6	垂木	ヒノキ	古墳時代中期後葉～後期	69.3	2.55	2.55	1/20
7	垂木	―	古墳時代中期後葉～後期	44.25	1.8	1.65	1/20
8	垂木	―	古墳時代中期後葉～後期	45.45	1.95	1.95	1/20
9		アスナロ	古墳時代中期後葉～後期	47.6	5.5	2.2	1/20

愛知県の概要

樋上　昇

愛知県内出土の建築部材は、縄文時代～弥生時代前期の出土例がなく、弥生時代中期以降しか認められない。また尾張低地部では、森林資源に乏しいためか、他地域に較べて太径材をもちいた柱・梁・桁材や、屋根・壁・床材とおもわれる板材も極端に少ない傾向がある。

弥生中期

尾張では清洲町朝日遺跡・甚目寺町阿弥陀寺遺跡、三河では西尾市岡島遺跡・豊田市川原遺跡から建築部材が出土している。

朝日遺跡からは直径が20cmを超える大型建物の柱根（1）のほか、柱材（2・3）・壁床材（4・5）・横架材（12・13）・梯子（6～11）・栓（14～30）などがある。うち、5・12・14～21・24～26・30には貫通穴が、13にはほぞが認められる。また、4にはひぶくらはぎとそぎ接ぎの痕跡が確認できる。使用樹種はさまざまだが、栓にはイヌマキとヒノキがめだつ。また朝日遺跡の木製品全体を通してみると、広葉樹にはアカガシ亜属、針葉樹にはスギを多用する傾向がある。

阿弥陀寺遺跡からは梯子（1）とほぞをもつ材（2）が、岡島遺跡からは垂木とおもわれる括れをもつ材（1）と梯子（2）、川原遺跡からは梯子（1）がそれぞれ出土している。

弥生後期～古墳前期

愛知県内では、2～3世紀代の木製品が多いのに対して、4世紀代の木製品が少ないため、ここでは、弥生後期～古墳初頭と古墳前期は一括して記述する。この時期の建築部材は、尾張では朝日遺跡・一宮市八王子遺跡・同南木戸遺跡・春日井市勝川遺跡、三河では豊田市川原遺跡・同本川遺跡・安城市中狭間遺跡・同釈迦山遺跡から出土している。

朝日遺跡からは横架材とみられる貫通穴のある板材が2点あり、うち1点はスギの柾目材をもちいている（2）。

八王子遺跡からは掘立柱建物に使用されたと考えられる建築部材が比較的多く出土している。なかでも、相欠と貫通穴をもつ横架材（2）や蟻溝をほどこす板（4）、壁床材とおもわれる大型の板材（5～7）、3ヶ所の貫通穴をもち全長が64.7cmもある大型の留め具（8）などは注目される。また、古墳前期には貫通穴とそぎ接ぎのある壁床材なども出土している。建築部材のなかで樹種が判明しているものは少ないが、木製品全体ではヒノキが多い。土木部材では井泉の木組みに使用された大型の枠木はクスノキの太径材で、杭材の半数にはヤナギがもちいられていた。

八王子遺跡の南約1kmにある南木戸遺跡からは貫通穴をもつ横架材が2点（1・2）と蟻溝をもつ床材が1点（3）が出土している。樹種は横架材がカヤで床材はスギである。八王子遺跡と南木戸遺跡はいずれも一宮市南部の日光川左岸に位置し、南北3km、東西2kmにおよぶ巨大集落群である萩原遺跡群の一角を占めている。

勝川遺跡からは蟻溝をもつ横架材（1）と垂木2点（2・3）が認められる。これらの樹種は不明だが、木製品全体ではブナ科の広葉樹がおよそ4分の3を占め、なかでもコナラ節が半数近くにおよぶ。この遺跡は尾張低地部にある他の集落とは異なり、尾張平野部縁辺の洪積台地（鳥居松段丘）に位置することから、ブナ彼の広葉樹材を潤沢に利用できたと考えられる。

川原遺跡からは梯子3点（2～4）と又受け直柱（5）が出土している。樹種は2がクリで、3・4はヤマグワである。この遺跡は矢作川右岸の狭い沖積微高地上にあり、弥生後期～古墳初頭には大型墳丘墓6基と川岸に掘られた大溝のみで構成されている。柱の用途は不明だが、梯子は大溝の昇降に使用された可能性が高い。

本川遺跡からはモミ属の垂木1点のみがこの時期に属する。また、同時期の杭材のうち、4分の3はクリが占めている。

中狭間・釈迦山遺跡はいずれも矢作川中流域右岸の碧海台地縁辺部に位置する巨大集落群である古井遺跡群内の一角を占めている。中狭間遺跡には両開きのマグサあるいは蹴放し材（1）、ネズミ返しとおもわれる貫通穴をもつ材（2）、垂木（3）、貫通穴と欠込をもつ横架材（4）、貫通穴と相欠をもつ横架材あるいは柱材（5）など、掘立柱建物の建築部材が揃っている。釈迦山遺跡

からは蟻溝をもつ床材とみられる板（1）のほか、梯子3点（2～3）が出土している。

古墳中期

尾張ではこの時期の建築部材はなく、三河の豊田市水入遺跡と本川遺跡からの出土例がある。

水入遺跡は矢作川が三河山間部から沖積低地に流れ出す岡崎平野の北端部に位置している。木製品は一部が公表されているに過ぎないため、全貌は不明だが、掘立柱建物の部材が認められる。「屋根型木製品」とよばれる扉関連部材（1）、扉の把手（2）のほか、貫通穴のある壁床材とみられる部材が出土している。樹種は1がクリで、2はヒノキである。

本川遺跡からは竪穴住居の柱や建築部材が多数出土している。うち、組仕口をもつ部材には、又受け直柱2点（2・3）と欠込をもつ柱（4）、貫通穴をもつ材2点（5・6）がある。樹種は3がミズキ属、4がクヌギ節、5がヒノキ、6がアスナロである。柱材全体ではコナラ節・クヌギ節・クリなどの広葉樹材が半数以上を占めるのに対し、その他の建築部材ではヒノキ・サワラ・クロベなどヒノキ科の針葉樹材が8割以上を占めている。また、同時期の杭材のうち半数以上がクリで、広葉樹材が9割におよぶ。

古墳後期

古墳後期に属する建築部材は尾張で勝川遺跡と名古屋市志賀公園遺跡がある。

勝川遺跡からは梯子（4・5）のほか、貫通穴と蟻溝をもつ板（6）と貫通穴・相欠・欠込をもつ横架材（7）が出土している。

志賀公園遺跡では壁床材とおもわれる非貫通穴をもつ長大な板材（1）と3ヶ所の貫通穴をもつ留め具（2）が認められる。

飛鳥・藤原時代

この時期の建築部材は尾張で志賀公園遺跡、三河では田原市山崎遺跡から出土している。

志賀公園遺跡では、掘立柱建物の柱（3・4）、垂木（5）、マグサあるいは蹴放し材（6）、貫通穴をもつ横架材（7～9）、3ヶ所の貫通穴をもつ留め具（10～12）、栓（13）と、貫通穴をもつ部材（14～18）、非貫通穴をもつ部材（19）がある。樹種は3がアカマツ、9・18がスギで、他はすべてヒノキ科である（6は樹種不明の針葉樹材）。建築部材以外の木製品も掘削具や農具の一部を除けばほとんどがヒノキ科の材をもちいている。

山崎遺跡は時期的に古墳後期も含むが主体はこの時期に属する。建築部材には蹴放し材とおもわれる貫通穴をもつ材（1）、垂木（2～7）、欠込・括れをもつ材（8）がある。樹種は不明。

文献一覧

愛知県埋蔵文化財センター1990『阿弥陀寺遺跡』
愛知県埋蔵文化財センター1990『岡島遺跡』
愛知県埋蔵文化財センター1992『勝川遺跡IV』
愛知県埋蔵文化財センター1992『朝日遺跡III』
愛知県埋蔵文化財センター2001『志賀公園遺跡』
愛知県埋蔵文化財センター2001『川原遺跡』
愛知県埋蔵文化財センター2001『八王子遺跡』
愛知県埋蔵文化財センター2003『本川遺跡』
愛知県埋蔵文化財センター2004『志賀公園遺跡II』
安城市教育委員会1999『中狭間遺跡』
安城市教育委員会2001『釈迦山遺跡』
一宮市史編さん室1967「南木戸遺跡」『一宮市史　資料編二　弥生時代』
田原町教育委員会1993『山崎遺跡』
樋上　昇・永井邦仁・木川正夫2000「豊田地区出土の木製品について」『研究紀要』第1号　愛知県埋蔵文化財センター
樋上　昇2002「樹種からみた尾張地域の木製品」『考古学フォーラム』15
樋上　昇2003「春日井市勝川遺跡出土木製品の再検討」『研究紀要』第3号　愛知県埋蔵文化財センター

1．仕口・接ぎ一覧表

時　代	貫　穴	相　欠	ほ　ぞ	欠　込	蟻　溝	そぎ接ぎ	ひぶくらはぎ
弥生中期	◎	△	○	○	△	○	○
弥生後期～古墳初期	◎	○	△	○	○	△	△
古墳前期	◎	△	○	○	△	○	△
古墳中期	◎	△	△	○	△	△	△
古墳後期～飛鳥・藤原	◎	○	△	○	○	△	△

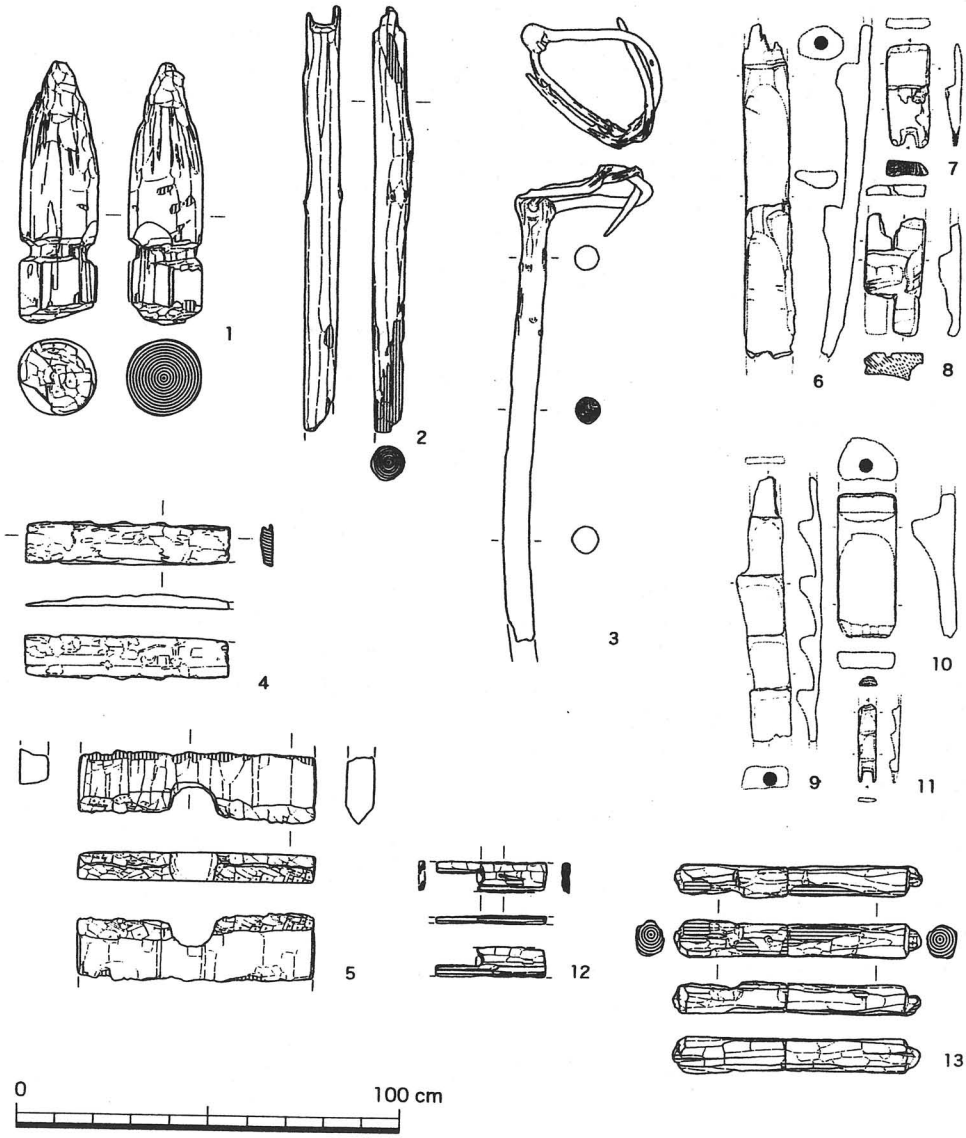
2．柱一覧表

時　代	又受け柱	凹受け直柱	仕口受け直柱	枝部環状利用	縄掛け溝	欠込	貫通穴	括れ
弥生中期	△	○	△	○	○	△	△	△
弥生後期～古墳初期	○	△	△	△	△	△	△	△
古墳前期	△	△	△	△	△	△	△	△
古墳中期	○	△	△	△	△	○	△	△
古墳後期～飛鳥・藤原	△	△	△	△	△	△	○	○

3．特定部位材一覧表

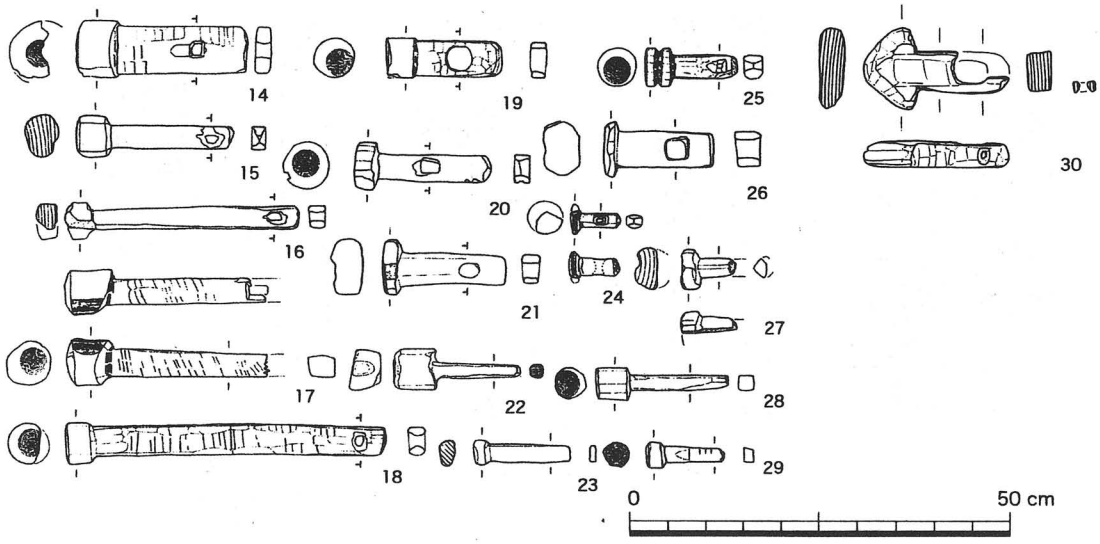
時　代	横架材	壁板材	垂木材	扉関連材	ネズミ返し	窓材	梯子	栓・留め具
弥生中期	○	○	○	△	△	△	○	○
弥生後期～古墳初期	○	○	○	○	○	△	○	○
古墳前期	△	○	△	△	△	△	○	△
古墳中期	○	○	△	○	△	△	△	△
古墳後期～飛鳥・藤原	○	○	○	○	△	△	○	○

遺跡名：朝日遺跡　所在地：愛知県清州町ほか　VII期（弥生時代中期）



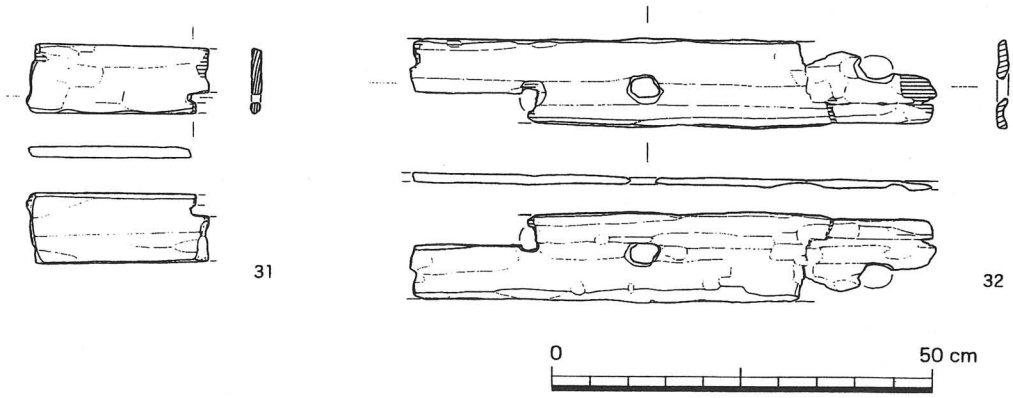
1. 縄掛け溝のある柱（長69.5cm、径20.5cm、スギ）
2. 凹受け直柱？（長112.5cm、径9.3cm、マキ属）
3. 枝部を環状に利用した柱（長117.4cm、径6.7cm、イチイ）
4. ひぶくらはぎ・そぎ接ぎのある板（壁床材?、長53.0cm、幅11.3cm、厚3.1cm、アカガシ亜属）
5. 貫通穴のある板（床材？、長18.0cm、幅61.4cm、厚7.5cm、スギ）
6. 梯子（長88.6cm、幅11.2cm、厚9.8cm、ヒノキ属）
7. 梯子（長27.1cm、幅10.5cm、厚4.3cm、ヤマハゼ）
8. 梯子（長30.5cm、幅12.3cm、厚5.3cm）
9. 梯子（長140.4cm、幅24.4cm、厚11.6cm）
10. 梯子（長37.7cm、幅14.9cm、厚10.4cm、針葉樹）
11. 梯子（長20.1cm、幅4.5cm、厚2.3cm、ネズコ?）
12. 貫通穴のある材（横架材、長29.2cm、幅7.9cm、厚2.1cm）
13. ほぞのある材（横架材、長42.7cm、幅8.4cm、厚3.3cm、カキ属）

遺跡名：朝日遺跡　所在地：愛知県清州町ほか　VII期（弥生時代中期）



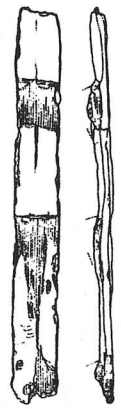
14. 貫通穴のある栓、長22.2cm、幅7.5cm、厚4.8cm
15. 貫通穴のある栓、長20.3cm、幅5.2cm、厚4.2cm
16. 貫通穴のある栓、長30.3cm、幅3.2cm、厚2.5cm
17. 貫通穴のある栓、長26.2cm、幅5.8cm、厚5.8cm
18. 貫通穴のある栓、長41.8cm、幅5.2cm、厚4.1cm
19. 貫通穴のある栓、長15.0cm、幅5.1cm、厚5.3cm、イヌマキ
20. 貫通穴のある栓、長18.5cm、幅6.0cm、厚5.7cm
21. 貫通穴のある栓、長16.0cm、幅7.6cm、厚3.9cm
22. 栓、長16.3cm、幅5.3cm、厚3.8cmヒノキ
23. 栓、長12.5cm、幅3.2cm、厚2.0cm
24. 貫通穴のある栓、長6.5cm、幅3.2cm、厚0.9cm
25. 貫通穴のある栓、長11.9cm、幅4.7cm、厚4.7cm、ヒノキ？
26. 貫通穴のある栓、長14.5cm、幅7.0cm、厚4.8cm、イヌマキ
27. 栓、長6.8cm、幅5.1cm、厚2.5cm
28. 栓、長17.3cm、幅4.2cm、厚4.0cm、ヒノキ
29. 栓、長10.3cm、幅3.3cm、厚3.2cm
30. 貫通穴のある栓、長19.5cm、幅10.7cm、厚3.5cm、スギ

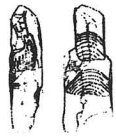
遺跡名：朝日遺跡　所在地：愛知県清州町ほか　VIII期（弥生時代後期～古墳時代初頭）



31. 貫通穴のある材（横架材、長24.0cm、幅9.2cm、厚1.5cm）
32. 貫通穴のある材（横架材、長68.9cm、幅11.7cm、厚1.4cm、スギ）

遺跡名：阿弥陀寺遺跡　所在地：愛知県甚目寺町　VII期（弥生時代中期）

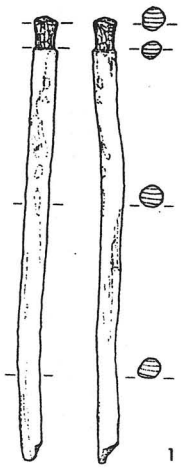


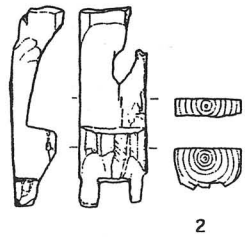


1. 梯子（長104.0cm、幅12.0cm、厚6.0cm）
2. ほぞのある材（長33.5cm、幅12.5cm、厚8.5cm）

0　100 cm

遺跡名：岡島遺跡　所在地：愛知県西尾市　VII期（弥生時代中期）

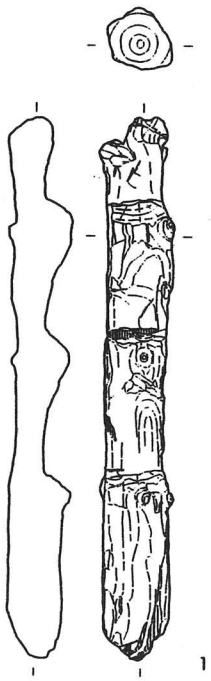




1. 括れのある材（垂木？、長117.4cm、径6.4cm、マキ属）
2. 梯子（長52.8cm、幅18.0cm、厚11.6cm、マキ属）

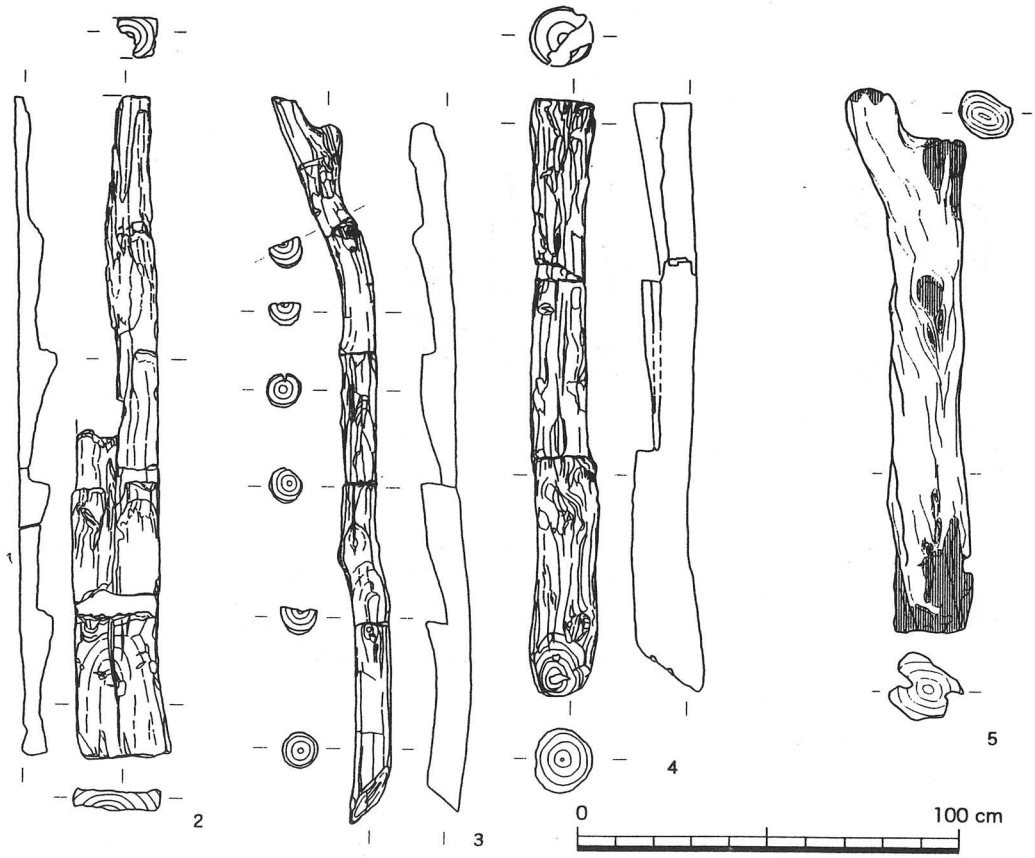
0　100 cm

遺跡名：川原遺跡　所在地：愛知県豊田市　VII期（弥生時代中期）

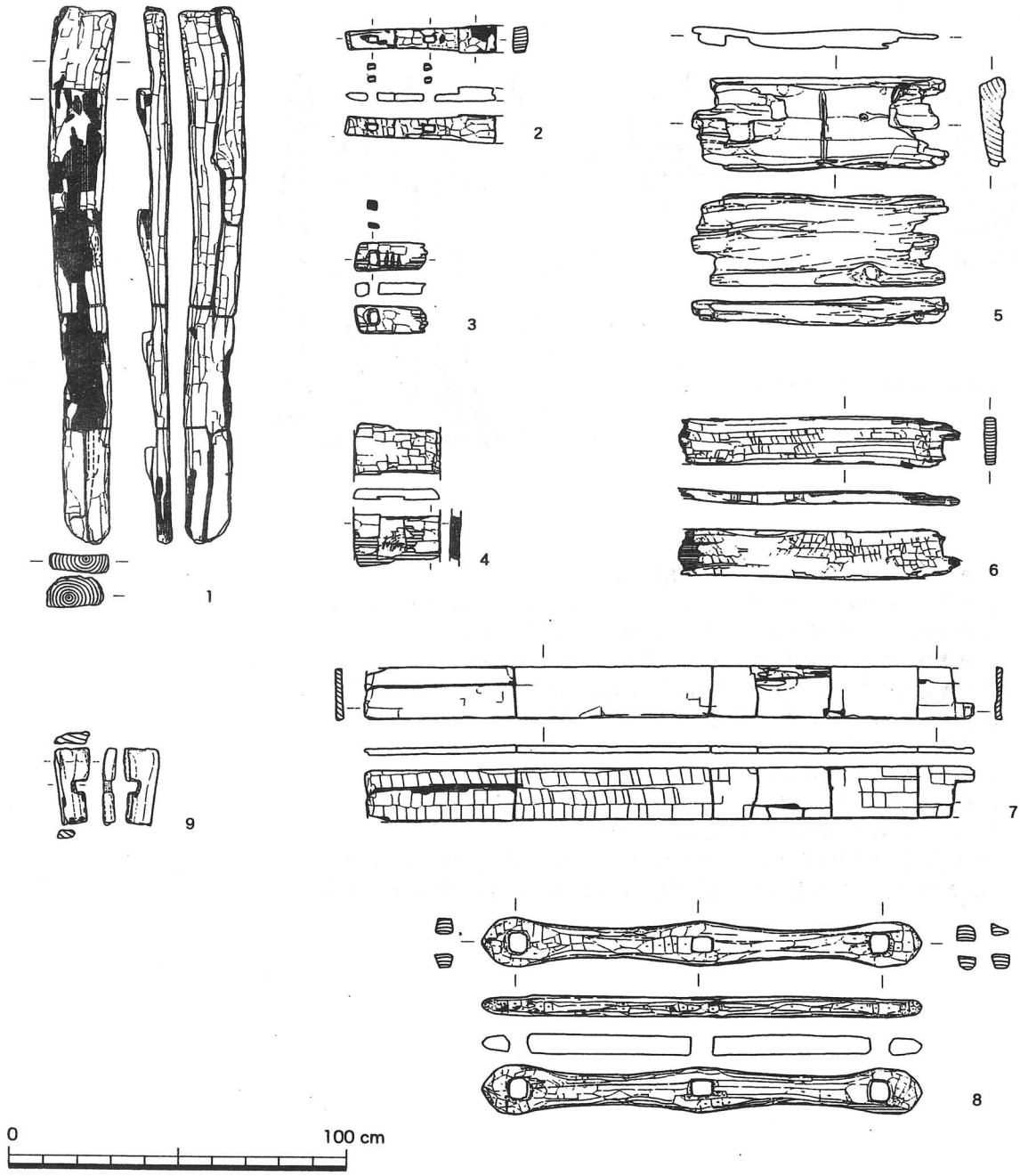


1. 梯子（長141.7cm、幅19.6cm、厚16.5cm、モミ属）
2. 梯子（長173.0cm、幅24.2cm、厚10.0cm、クリ）
3. 梯子（長189.5cm、幅15.0cm、厚9.4cm、ヤマグワ）
4. 梯子（長155.4cm、幅17.4cm、厚17.0cm、ヤマグワ）
5. 又受け直柱（長141.5cm、幅30.0cm、厚18.4cm）

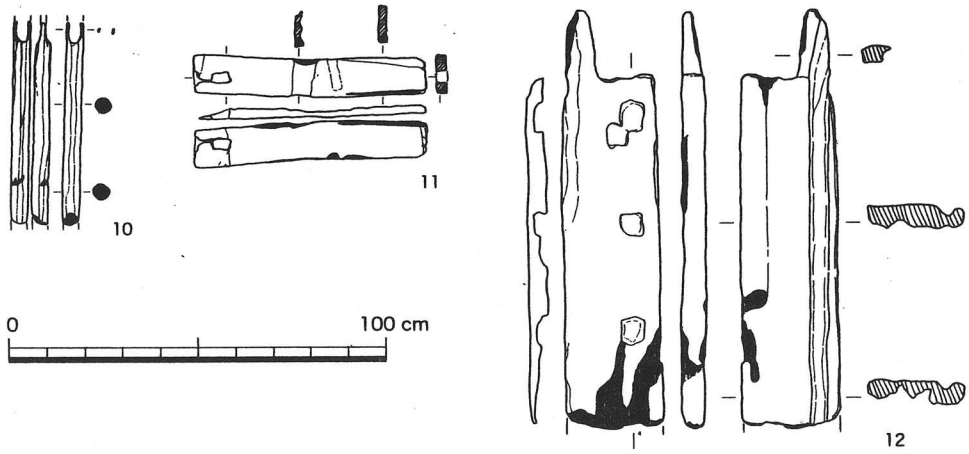
遺跡名：川原遺跡　所在地：愛知県豊田市　VIII期（弥生時代後期～古墳時代初頭）



遺跡名：八王子遺跡　所在地：愛知県一宮市　VIII期（弥生時代後期～古墳時代初頭）

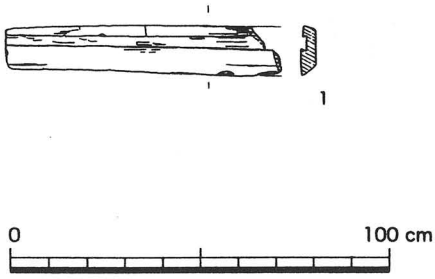


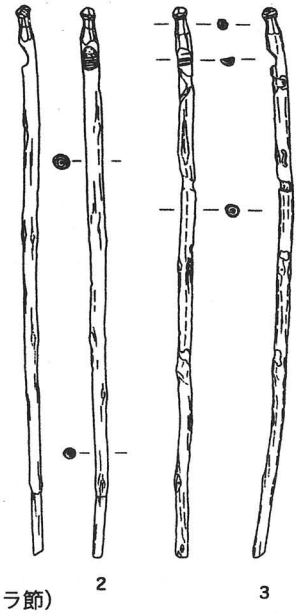
遺跡名：八王子遺跡　所在地：愛知県一宮市　IX期（古墳時代前期）



1. 梯子（長157.9cm、幅17.6cm、厚8.9cm）
2. 貫通穴・相欠のある材（横架材、長44.7cm、幅7.3cm、厚4.3cm、ムクロジ）
3. 貫通穴のある材（横架材、長20.0cm、幅8.1cm、厚4.2cm）
4. 蟻溝のある材（壁床材、長25.6cm、幅15.3cm、厚3.1cm）
5. 非貫通穴のある材（壁床材、長72.5cm、幅27.3cm、厚8.8cm）
6. 貫通穴・欠込のある材（壁床材、長82.7cm、幅14.0cm、厚3.5cm）
7. 貫通穴・欠込のある材（壁床材、長180.1cm、幅15.4cm、厚2.3cm）
8. 貫通穴のある材（留め具、長64.7cm、径7.2cm、厚2.8cm）
9. 貫通穴or 欠込のある材（長22.9cm、幅10.5cm、厚3.5cm）
10. 凹受け直柱？（長53.8cm、径4.5cm、スギ）
11. 貫通穴・そぎ接ぎのある材（壁床材、長61.2cm、幅10.4cm、厚2.5cm、ヒノキ）
12. ほぞor欠込・非貫通穴のある材（長55.3cm、幅13.0cm、厚3.4cm、スギ）

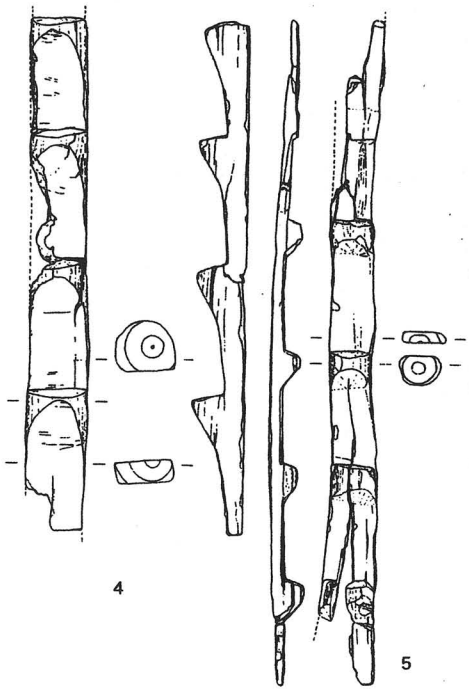
遺跡名：勝川遺跡　所在地：愛知県春日井市　VIII期（弥生時代後期～古墳時代初頭）

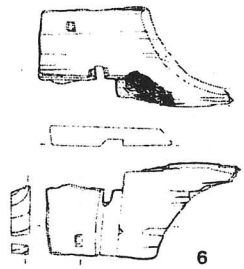


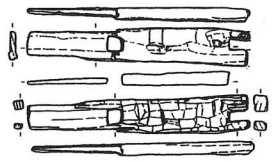


1. 蟻溝のある材（横架材、長72.2cm、幅12.8cm、厚4.0cm）
2. 垂木（長144.0cm、径4.6cm）
3. 垂木（長144.8cm、径4.0cm）
4. 梯子（長135.4cm、幅16.4cm、厚15.2cm、アカガシ亜属）
5. 梯子（長175.4cm、幅12.4cm、厚8.8cm、コナラ節）
6. 貫通穴・蟻溝のある材（壁床材？、長50.2cm、幅24.6cm、厚5.2cm、コナラ節）
7. 貫通穴・相欠・欠込のある材（横架材、長58.5cm、幅9.8cm、厚3.6cm、ヒノキ属）

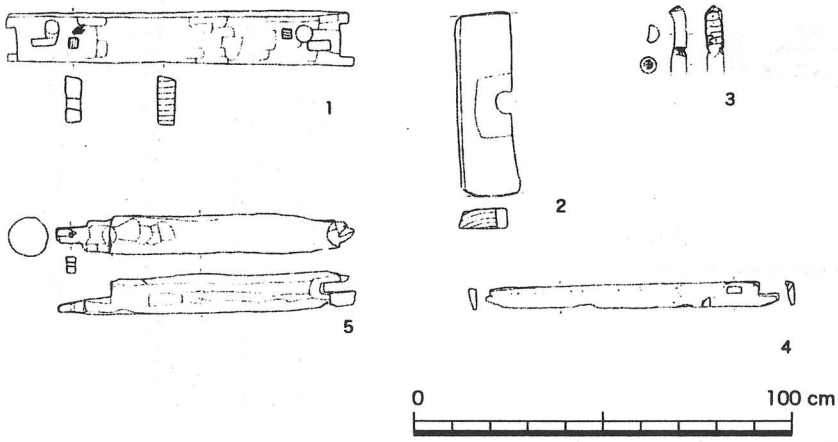
遺跡名：勝川遺跡　所在地：愛知県春日井市　XI期（古墳時代後期）





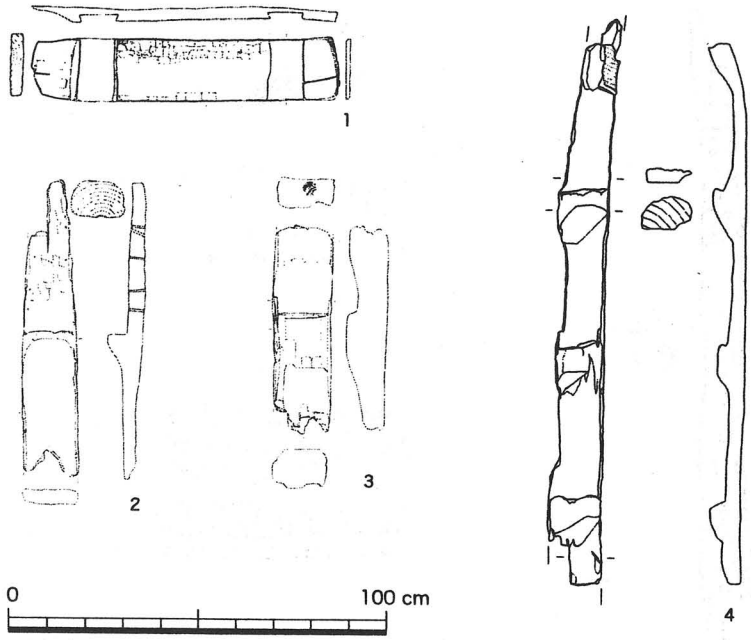


遺跡名：中狭間遺跡　所在地：愛知県安城市　VIII期（弥生時代後期～古墳時代初頭）



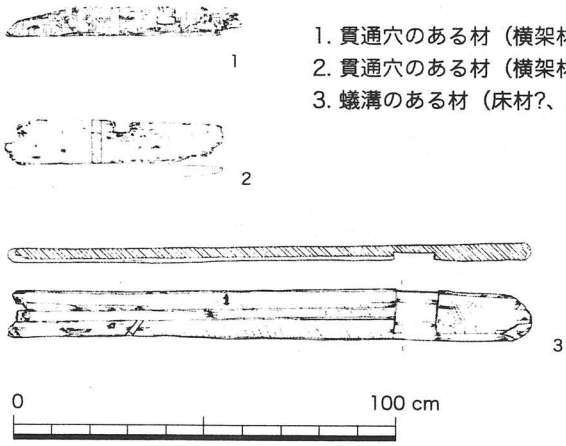
1. マグサ材or蹴放し材（長92.0cm、幅13.0cm、厚4.8cm、ヒノキ）
2. 貫通穴のある材（ネズミ返し？、長48.7cm、幅10.1cm、厚5.1cm、アカガシ亜属）
3. 垂木（長52.0cm、径4.4cm、マツ）
4. 貫通穴・欠込のある材（横架材、長76.8cm、幅6.5cm、厚2.0cm）
5. 貫通穴・相欠のある材（横架材or柱、長78.0cm、径10.3cm）

遺跡名：釈迦山遺跡　所在地：愛知県安城市　VIII期（弥生時代後期～古墳時代初頭）



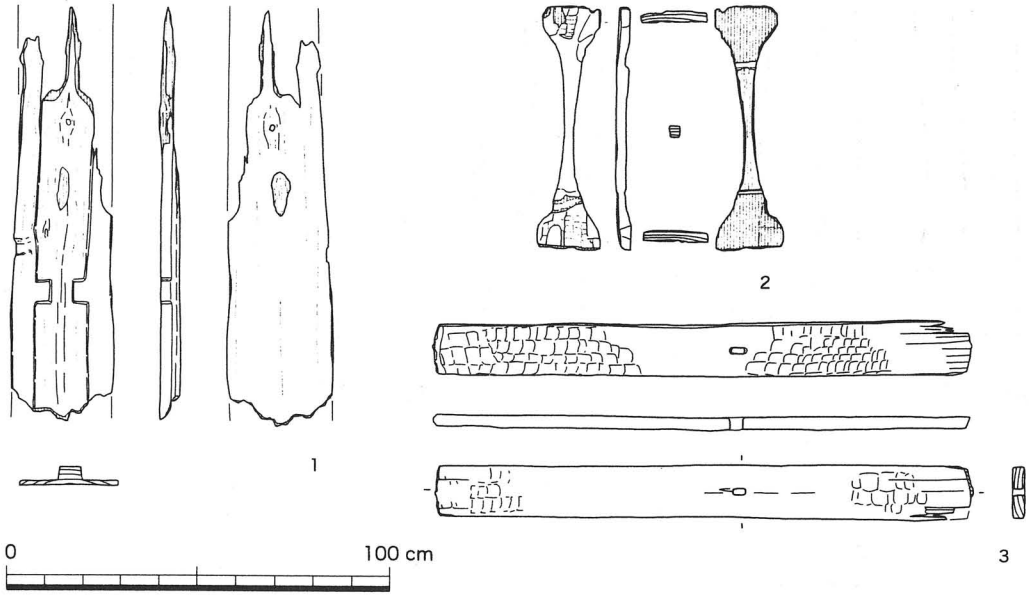
1. 蟻溝のある材（床材？、長81.0cm、幅17.0cm、厚3.2cm）
2. 梯子（長70.0cm、幅14.ocm、厚10.0cm）
3. 梯子（長53.8cm、幅15.5cm、厚10.4cm）
4. 梯子（長148.1cm、幅13.6cm、厚11.4cm）

遺跡名：南木戸遺跡　所在地：愛知県一宮市　VIII期（弥生時代後期～古墳時代初頭）



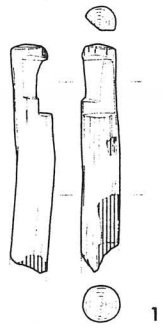
1. 貫通穴のある材（横架材、長63.0cm、幅7.6cm、厚2.7cm、カヤ）
2. 貫通穴のある材（横架材、長58.0cm、幅11.6cm、厚2.8cm、カヤ）
3. 蟻溝のある材（床材?、長139.0cm、幅13.5cm、厚2.0cm、スギ）

遺跡名：水入遺跡　所在地：愛知県豊田市　X期（古墳時代中期）



1. 扉関連部材（長55.0cm、幅13.6cm、厚2.8cm、クリ）
2. 扉把手（長32.2cm、幅8.4cm、厚1.6cm、ヒノキ）
3. 貫通穴のある材（壁床材？、長70.4cm、幅7.2cm、厚1.8cm）

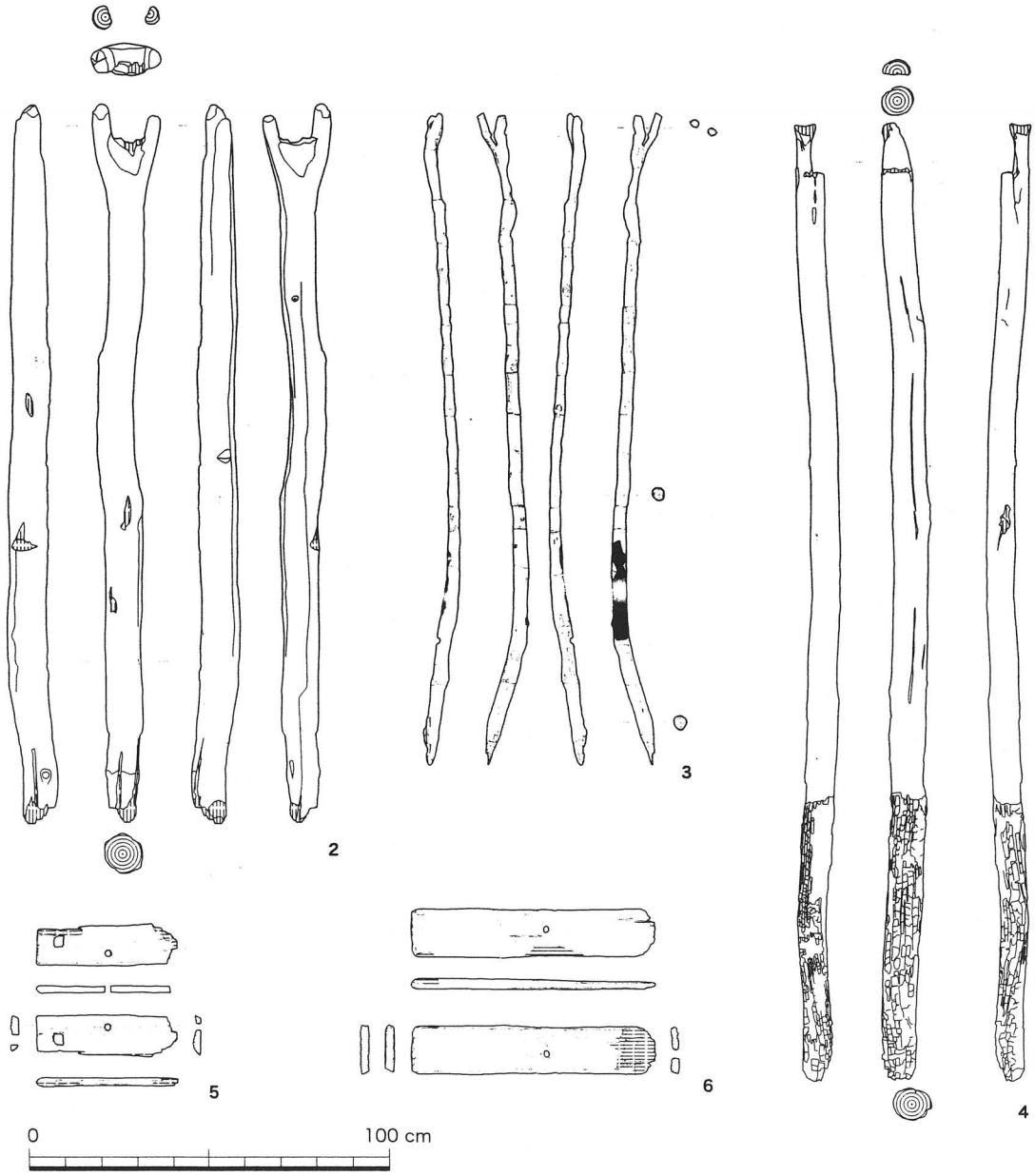
遺跡名：本川遺跡　所在地：愛知県豊田市　VIII期（弥生時代後期～古墳時代初頭）

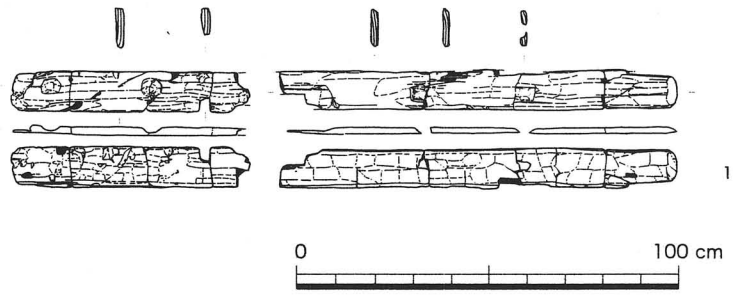


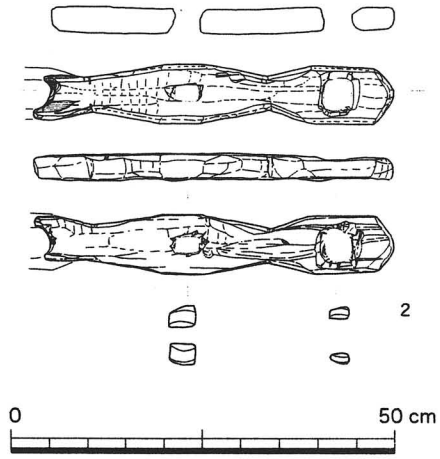
1. 垂木（長30.0cm、径5.0cm、モミ属）
2. 又受け直柱（長200.0cm、幅19.0cm、厚12.0cm）
3. 又受け直柱（長182.0cm、幅7.6cm、厚4.0cm、ミズキ属）
4. 柱（長265.0cm、径10.0cm、クヌギ節）
5. 貫通穴のある材（横架材、長65.0cm、幅14.0cm、厚2.0cm、ヒノキ）
6. 貫通穴のある材（壁床材？、長38.8cm、幅11.0cm、厚2.0cm、アスナロ）

0　50 cm

遺跡名：本川遺跡　所在地：愛知県豊田市　X期（古墳時代中期）

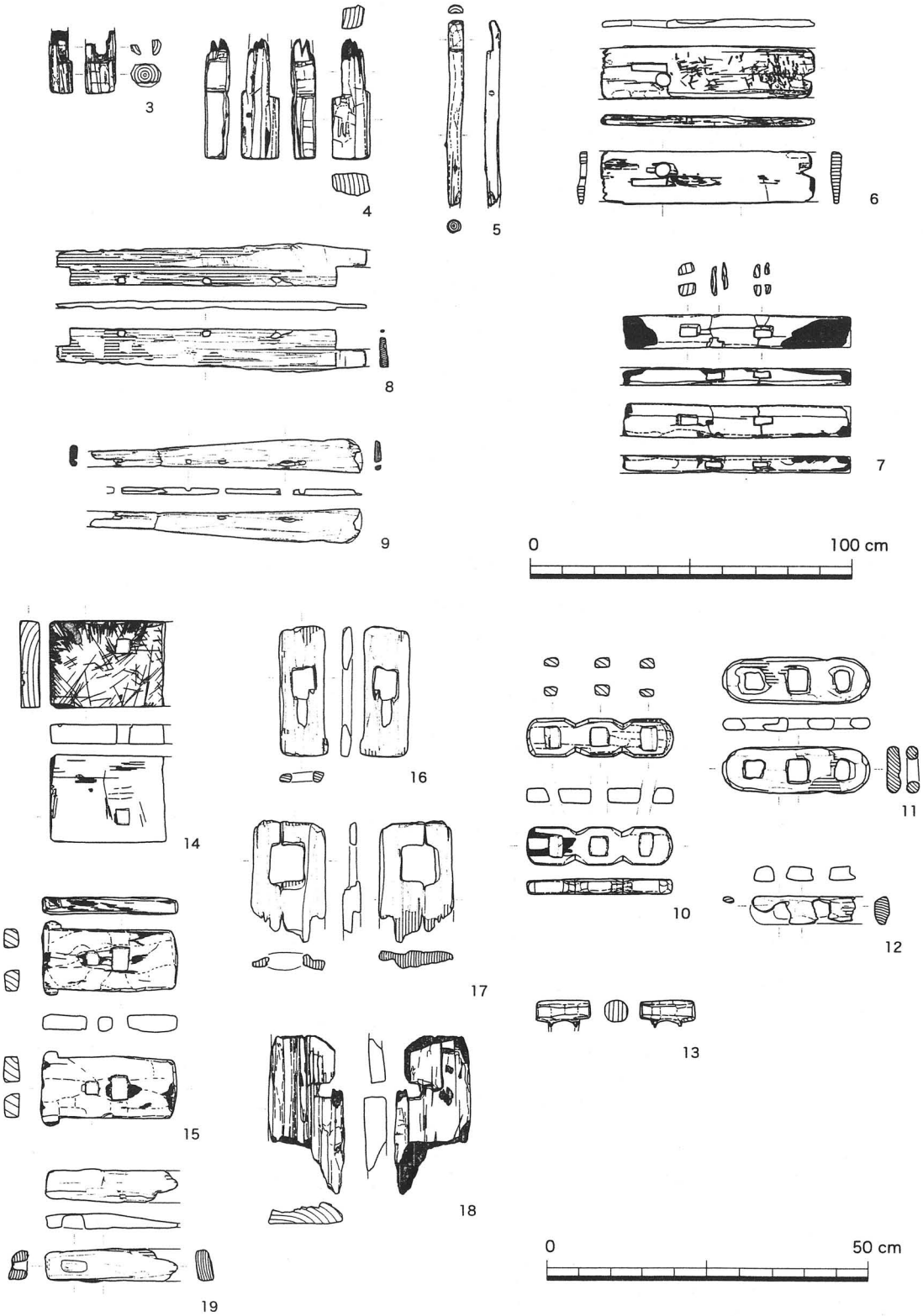


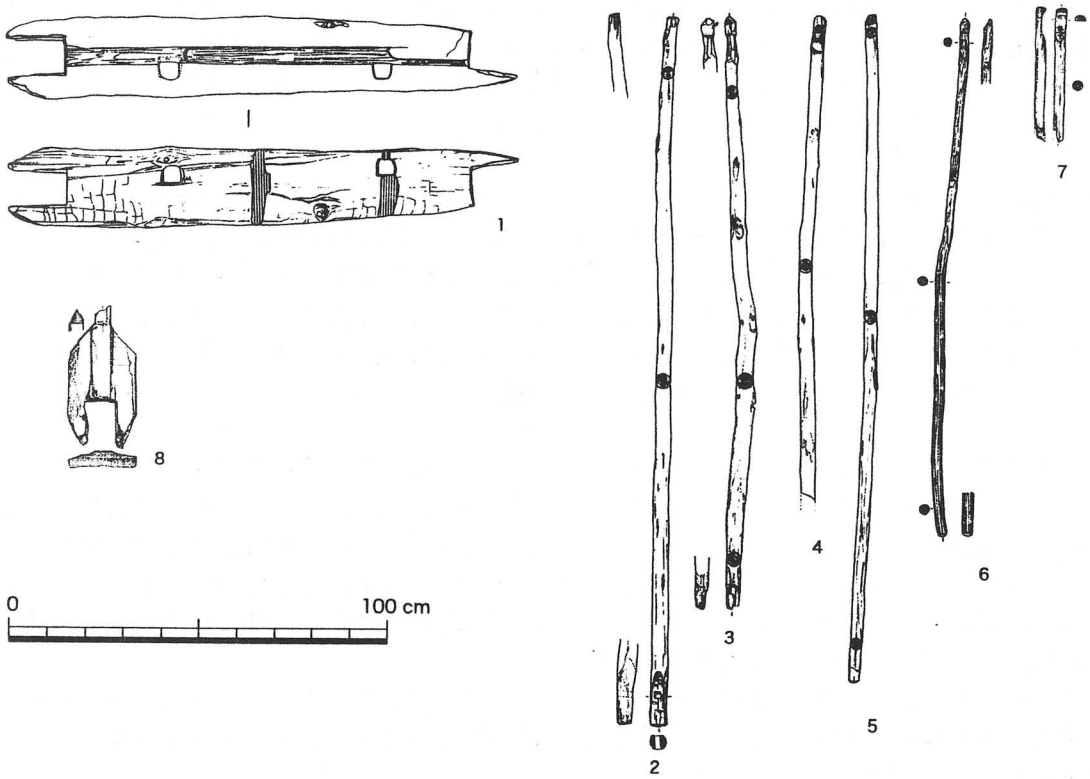




1. 非貫通穴のある材（壁床材、長103.3+62.5cm、幅10.7cm、厚2.4cm、コナラ節）
2. 貫通穴のある材（留め具、長46.7cm、幅7.9cm、厚3.5cm、針葉樹）
3. 柱（長20.8cm、径9.4cm、アカマツ）
4. 柱（長37.9cm、幅11.6cm、厚7.3cm、ヒノキ）
5. 垂木（長58.5cm、径4.7cm、ヒノキ科）
6. マグサ材or蹴放し材（長65.8cm、幅16.5cm、厚3.5cm、針葉樹）
7. 貫通穴のある材（横架材、長70.1cm、幅10.6cm、厚5.5cm、ヒノキ科）
8. 貫通穴・欠込のある材（横架材、長96.4cm、幅13.6cm、厚2.8cm、ヒノキ）
9. 貫通穴のある材（横架材、長84.0cm、幅10.4cm、厚2.0cm、スギ）
10. 貫通穴のある材（留め具、長22.8cm、幅6.0cm、厚2.4cm、ヒノキ）
11. 貫通穴のある材（留め具、長22.8cm、幅7.4cm、厚2.1cm、ヒノキ）
12. 貫通穴のある材（留め具、長10.5cm、幅4.3cm、厚2.0cm、ヒノキ）
13. 貫通穴のある材（栓、長8.5cm、径3.4cm、ヒノキ）
14. 貫通穴のある材（長18.0cm、幅13.7cm、厚3.1cm、ヒノキ）
15. 貫通穴のある材（長21.1cm、幅11.7cm、厚2.7cm、ヒノキ）
16. 貫通穴のある材（長20.4cm、幅7.3cm、厚1.3cm、ヒノキ）
17. 貫通穴のある材（長18.8cm、幅11.6cm、厚2.5cm、ヒノキ）
18. 貫通穴のある材（長24.7cm、幅11.8cm、厚3.4cm、スギ）
19. 非貫通穴のある材（長20.8cm、幅5.2cm、厚2.8cm、ヒノキ）

遺跡名：志賀公園遺跡　所在地：愛知県名古屋市　XI期（飛鳥・藤原時代）





1. 蹴放し材？（長132.3cm、幅20.5cm、厚6.8cm）
2. 垂木（長186.3cm、径4.0cm）
3. 垂木（長156.2cm、径4.2cm）
4. 垂木（長125.7cm、径3.6cm）
5. 垂木（長176.1cm、径3.4cm）
6. 垂木（長34.7cm、径2.7cm）
7. 垂木（長35.2cm、径2.8cm）
8. 欠込・括れのある材（長38.0cm、幅18.0cm、厚4.2cm）

三重県の概要

穂積裕昌

三重県内出土の建築部材は、縄文時代から弥生時代前期の出土例はなく、弥生時代中期以降から確認できる。これらの建築部材は、弥生時代後期から古墳時代中期までの資料が多いが、ほとんどが旧河道や溝からの出土のため、厳密な時期決定には困難が伴うことが多い。以下、最も資料的に充実している弥生時代後期から古墳時代前期の資料を中心に、部位別に状況をみていきたい。

屋根材

北堀池遺跡で破風板（5）や叉首（19）と推定される部材、六大A遺跡で棟木（27）がある。六大A遺跡の棟木は、各貫孔類が斜め方向に穿孔されていることから屋根関連の部材と考えた。方形□ 穴が斜め 45 度の勾配で、両側縁の目途孔も上端面から側縁に抜けるように穿たれていることから、宮本長二郎氏は目途孔が垂木を結わえる縄通し孔、貫孔が寄棟造り屋根の棟木を受ける追叉首のほぞ孔と推定されている。この他、各遺跡で垂木の出土も多く、端部処理の形状に応じていくつかの分類も可能である（六大 A 遺跡分類など）。

柱材

大きく竪穴住居用柱と掘立柱建物用柱に分類が可能である。基本的に端部が二股になったものを竪穴住居用と考えているが、宮本長二郎氏によると、六大 A 遺跡の 1 は丁寧な仕口処理を行って材中央に方形抉りがあり、方形抉りを柱間をつなぐ胴縁材の仕口とすれば平屋建物の側柱の可能性もあるとされる。そういう視点で見れば、大田遺跡の 3 や 4 なども柱頭部二股仕上げであるが、二股の底部が V 字ではなく箱型を呈しており、平屋建物の横架材や棟持柱式建物の棟木を受ける棟持柱などといった可能性も考えられる。

掘立柱建物部材では、六大 A 遺跡で掘立用柱材の柱頭形態の分類を行っており、他遺跡出土のものもそのいずれかに収斂できる。高床建物床上部の断面形態は、以下のように分類できる。

A 類　円柱を半截して床上部とした半円材

B 1 類　床上部を断面方形（長方形）に造り出したもの

B 2 類　床上部を略長方形（短辺部に円柱時のカーブを残す）に造り出したもの

このうち、A 類は愛媛県古照遺跡で、B 類は静岡県山木遺跡で報告されたものと共通する。A 類は、大田遺跡の 11 などにも類例があり、半円の平坦部分に横板壁もしくは校木を組み合わせたと推定される。B 類では、六大 A 遺跡などでは、B 2 類が主体を占めるようである。なお、古照遺跡では、A 類柱頭における桁材との連結は、基本的にほぞ差と縄がらみの 2 者が想定されている

が、六大 A 遺跡の A 類柱頭では確実なものでは縄がらみのみが確認でき（18）、B2 類でも縄がらみ例が存在する（19）。また、隅柱にはならない側柱では、桁を受けるのに「輪薙ぎ込み継ぎ」状に柱頭を凹字状に整形した柱も存在する〈六大 A 遺跡の 14～16〉。

水平材

家屋に対して横方向に使用する材を一括する。

台輪　北堀池遺跡の 2 や城之越遺跡の 5 など、大きな貫孔をもった大径材は、高床造出柱（前述の B 類）に落とし込んで円柱部分で受け止めた台輪と推定される。また、六大 A 遺跡の 24 のように、材端部を半截して相欠とし、その部分に方形貫孔を穿つものは、隣接する材を相欠部で組み合わせて方形通し柱で連結するための仕口と考えられ、高床床上の柱間のみを覆うタイプの台輪か、建物の隅部分にあって相欠部で梁材と連結させた台輪と推定される。その場合、片側縁にある突起状の造出は、梁方向に床板を差し渡して外側にずれるのを防ぐための仕口であろう。

桁材　城之越遺跡の 6 ～ 7 や伊賀国府推定地の 1 は、材中央部に大型の方形貫孔が、側縁部寄りに小方孔が穿たれているが、小方孔は斜め方向に穿たれている。このことから、大方孔は床上方形造出柱に落とし込み、斜めの小方孔はふき降ろした垂木を縛るための縄通孔とすると、桁材ということになる。同様の材は、北堀池遺跡の 10 や六大 A 遺跡の 26、伊賀国府推定地の 1 など

にも存在するが、六大 A26 は小方孔が中央列に沿っており、垂木を受けるのではなく壁木舞を受けると考えると、壁受材の可能性もある（この場合は木舞を下地にした草壁ないしは土壁）。

壁受材　柱間に嵌め込まれ、壁を受ける材を壁受材として一括した。溝を穿ったもの（A 類）は横板壁を上下に組み上げるか、縦板壁を横に連結したタイプ、木舞孔を穿つもの（B 類）は縦木舞を軸とした網代壁に代表される草壁か土壁と推定され、溝と木舞孔が組み合わせるもの（C 類）は、縦壁板を１枚毎に縦木舞へ緊縛したタイプと考えることができるであろう。端部の仕口が半円形の仕口は円柱に、方形の仕口（両角）は床上部に組み合う。

蹴放し・まぐさ材　扉口装置を構成する水平材である蹴放しと□ 材は、特徴ある形状から材の認定が容易であり、三重県の遺跡からも多数確認されている。端部の両角が方形を呈するもの（大部分）と半円形を呈するもの（大田遺跡の 31）がある。扉板の軸受穴が１個のものは片扉、2 個のものは観音開きになる。また、材の断面形状が長方形のものと半円形のものがある。

扉板

把手をもつものともたないものがあり、前者は基本的に観音開きになることが想定されてきた。しかし、六大 A 遺跡では、蹴放し・まぐさ材の類が片扉式であるのに、扉板自体は把手を造り出したものが大半を占めており、やや問題を残している。

壁材

木舞（草壁）と板、それに校木（校倉造）で壁を形成するものがある。まず、校木は、きた堀池遺跡の１と大田遺跡の 26 で確認でき、ともに古墳時代前期の所産である。北堀池１は断面六角形、大田 26 は断面半円形という差はあるが、ともに端部の両角造り出しは桁側と梁側を交互に噛ましながら組み上げるための仕口と思われ、登呂遺跡などで提起された横板壁の組み上げ方と共通する。大田 26 は、さらに一段抉りがみられ、縄がらみで組み上げを補強している。

板壁は、横壁板と縦壁板がある。横板壁は、壁受材 A 類に組み合うか、登呂遺跡で想定されているような端部に両角を造り出して井籠組に組み上げる板校倉の２通りが想定できるが、横壁板と推定されるよう板材は多数出土しているものの、現時点では明瞭な両角をもつ横壁板は三重県内では出土していない。一方、縦板壁は、長方形板材を縦報告に置いて横に連結していくもので、「羽打ち接ぎ」もしくは「ひぶくら接ぎ」にして、脇に小孔を穿って緊縛する手法が認められる（北堀池７・六大 A65 と 66・70・71 など）。なお、城之越遺跡では、板材に雇いほぞを入れた痕跡がみられ（３）、いわゆる「ちきり接ぎ」が古墳時代前期に存在したことがわかる。また、端部を斜めに切り落とした材は、その角度で屋根と組み合う妻壁板になる可能性がある。

木舞を基礎とした壁は、六大 A 遺跡で組まれたままの状態で出土している。棒材を格子状に組み合わせて蔦状の繊維で留めたもので、縦材の先端は杭状に尖っていることから壁受材の貫孔もしくは桟穴で受けたことがわかる。

おわりに

古墳時代の校木や板接ぎ技術に関する知見、高床建物の柱頭形態、扉板をはじめとする豊富な扉口装置構成部材など、三重県出土の建築部材は古代の建築技術、手法を研究する上で多大の知見を提供している。直線距離で 1.5km 離れた高賀遺跡と城之越遺跡の扉板で形状と法量が酷似している事実は、工人の問題だけでなく、規格性や基準尺度の問題も提起する。城之越遺跡では、四面庇付大型掘立柱建物が４棟も確認されている。個々の建築部材の比較・検討から、部材を基に復元される建物同士の検討も始めねばならない段階ではないかと認識している。

文献一覧

三重県教育委員会 1980『納所遺跡発掘調査報告書』
三重県教育委員会 1981『北堀池遺跡発掘調査報告書』第１分冊
三重県埋蔵文化財センター他 1991『平成２年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』第３分冊
三重県埋蔵文化財センター1992『城之越遺跡』
三重県埋蔵文化財センター1992『伊賀国府（第４次）発掘調査報告』
三重県埋蔵文化財センター1993『松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告書』

三重県埋蔵文化財センター2000『六大A遺跡発掘調査報告書（木製品編）』
宮本長二郎 2003「六大A遺跡出土建築材の復元考察」『六大A遺跡発掘調査報告（資料分析・遺物観察表・写真図版編）』三重県埋蔵文化財センター
三重県埋蔵文化財センター2004『河曲の遺跡』

1．仕口・接ぎ一覧表

時　代	貫穴	相欠	ほぞ	雇いほぞ	蟻継ぎ	羽打ち接ぎ	ひぶくら接ぎ	輪薙ぎ込み継ぎ
弥生中期	○	△	○	△	△	△		
弥生後期～古墳初期	◎	△	○	△	○（組み合わせ鋤）	○		
古墳前期	◎	○	○	○	○（案）	○		
古墳中期	◎	△	○	△	○（案）	○		
古墳後期	○	△	○	○（井戸材）	△	△		

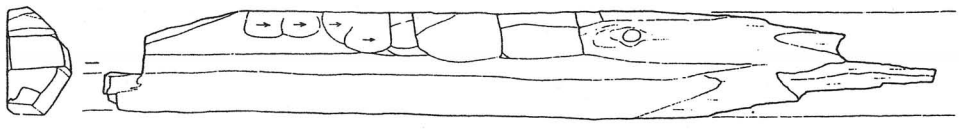
2．柱一覧表

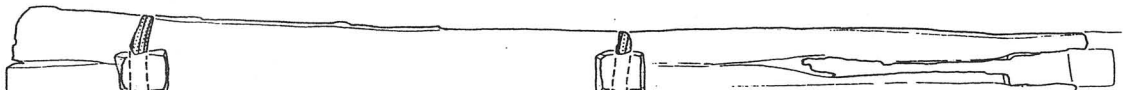
時　代	又受け直柱	凹受け直柱	床上部造出式柱	床上部半截柱	渡りあご	欠込	柱頭出ほそ	貫孔
弥生中期	○	△	△	△	△	△	△	○
弥生後期～古墳初期	○	○	○	○	○	◎	○	○
古墳前期	○	○	○	○	△	◎	○	○
古墳中期	○	△	△	△	△	○	△	○
古墳後期	△	△	△	△	△	△	△	△

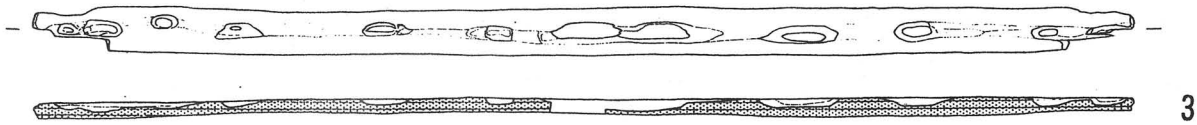
3．特定部位材一覧表

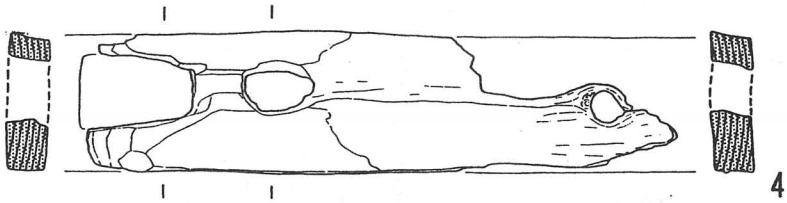
時　代	横架材	壁材	校木	扉関連材（窓含む）	ネズミ返し	垂木	梯子	栓・止め具
弥生中期	○	○（板）	△	△	○	○	○	○
弥生後期～古墳初期	○	◎（板・木舞）	○	◎	○	◎	◎	○
古墳前期	◎	◎（板・木舞）	○	◎	○	◎	◎	○
古墳中期	◎	◎（板・木舞）	△	◎（窓有）	△	◎	△	○
古墳後期	○	○（板）	△	○	△	○	△	○

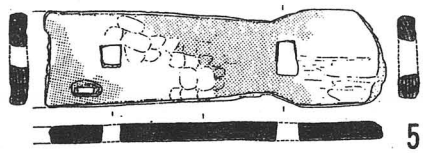
遺跡名：北堀池遺跡　所在地：三重県伊賀（旧「上野市」)市　古墳時代前期

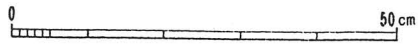




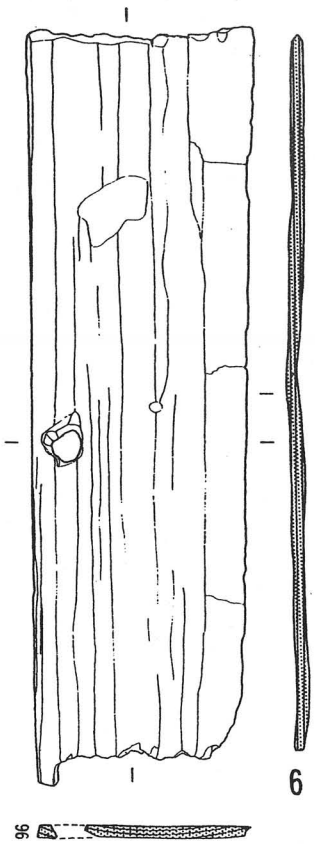


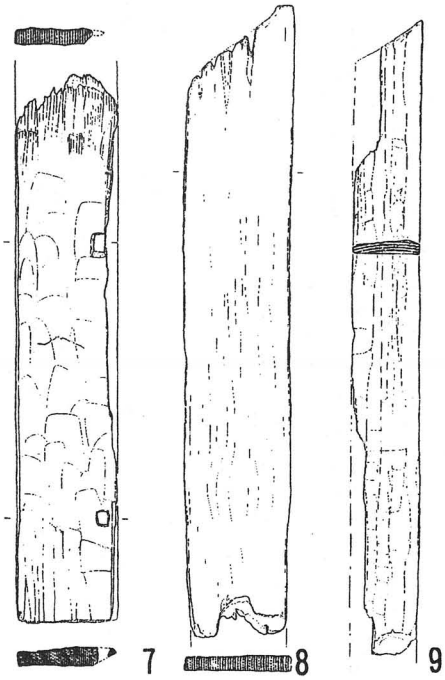






2・3は1：20、その他1：10



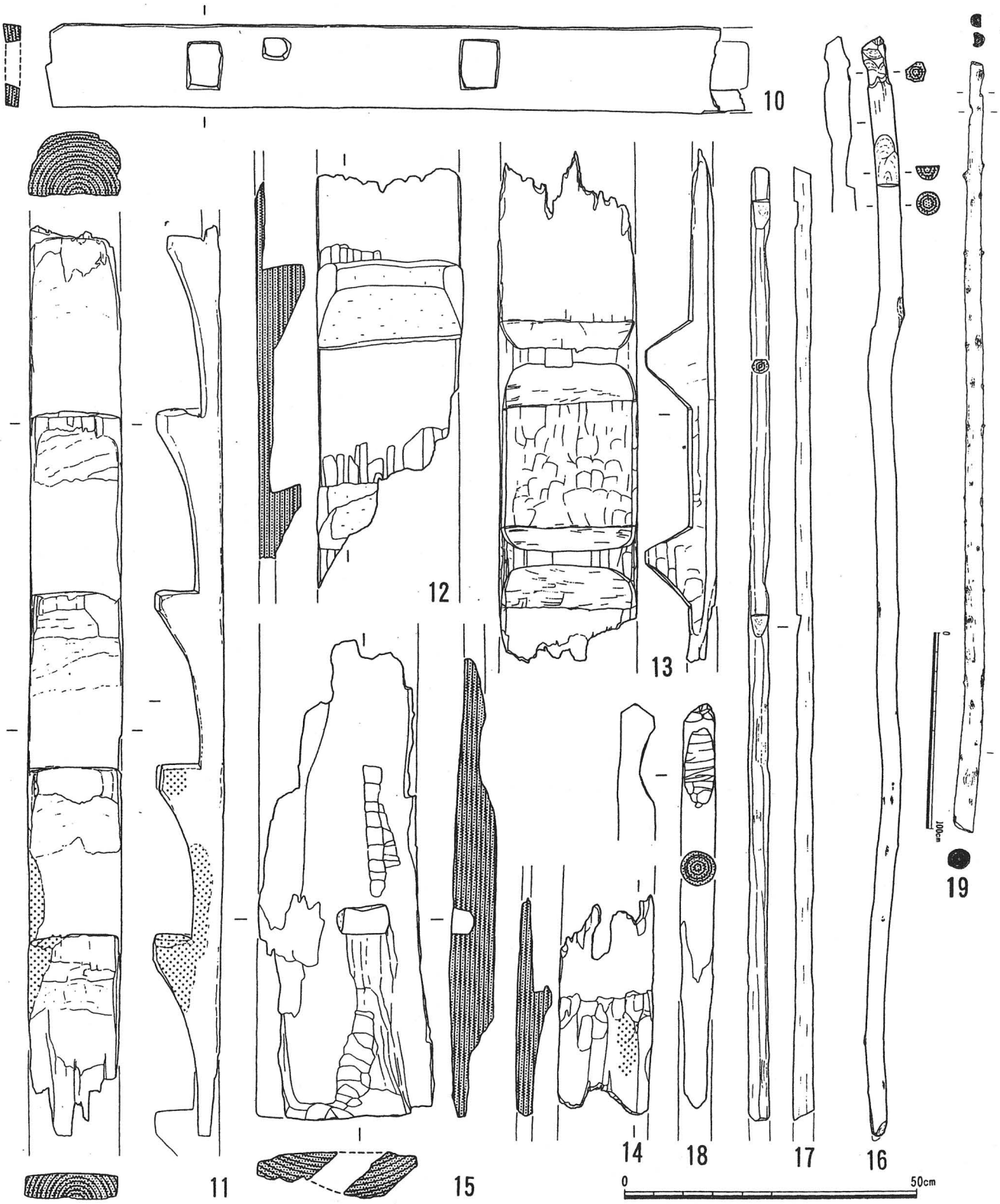


6　扉板（長99.6㎝、幅28.1㎝、モミ）
7　壁板（長72.7㎝、幅13.6㎝、モミ）
8　妻壁板（長83.2㎝、幅14㎝、ヒノキ）
9　妻壁板（長82.5㎝、幅8.9㎝、未同定）

1　端部両角造出材（校木、長109.4㎝、幅14.2㎝、カヤ）
2　方形貫孔のある材（台輪、長289.4㎝、幅29.3㎝、ヒノキ）
3 両端出ほぞ・貫通孔のある材(木舞？、長289㎝、幅13㎝、カヤ）
4　蹴放し（長77.8㎝、幅19㎝、ヒノキ）
5　貫孔と抉りのある材（破風板？、長45㎝、幅12.9㎝、ヒノキ）

遺跡名：北堀池遺跡　所在地：三重県伊賀市　古墳時代前期

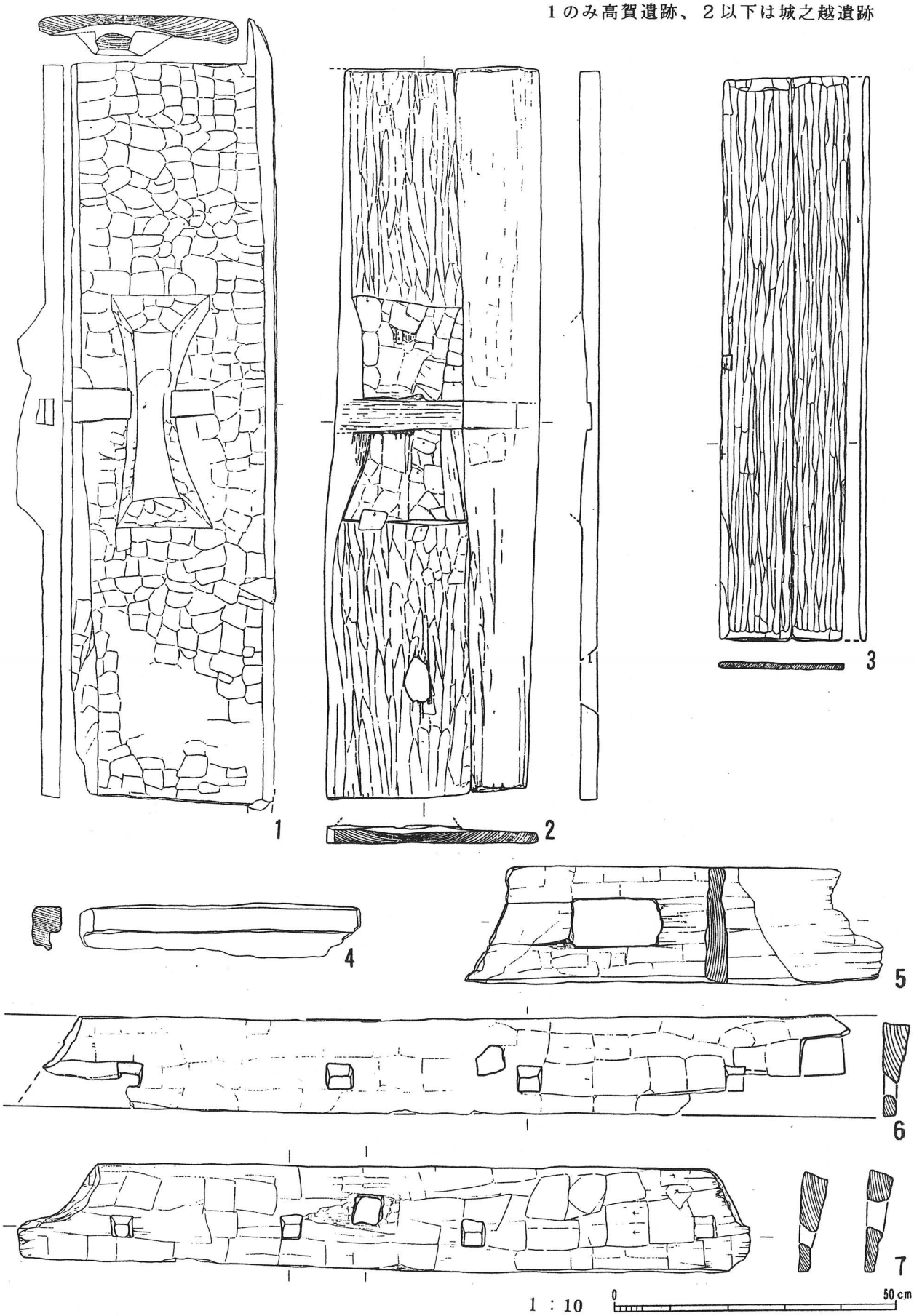
19のみ1：30、その他1：10



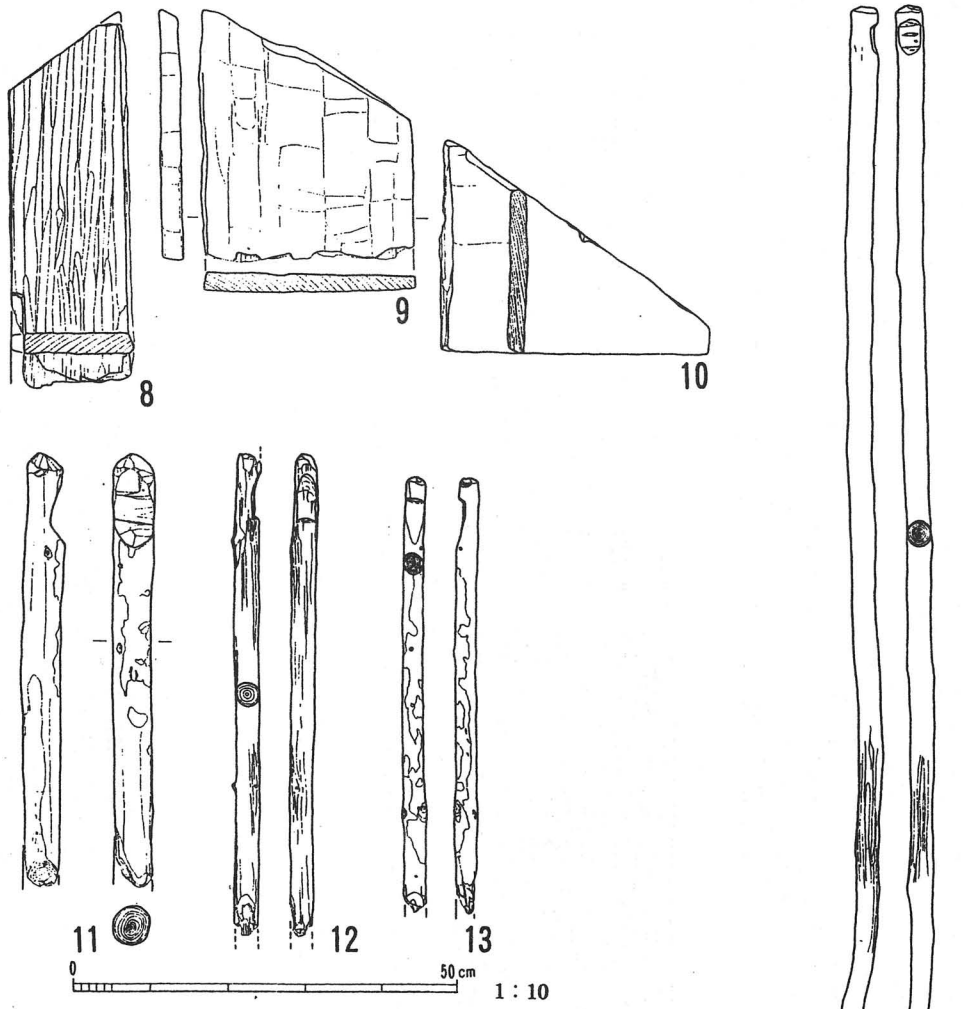
10　方形貫孔のある材（木舞？、長 119.5 cm、幅 15.5 cm、未同定）
11　梯子（長 158 cm、幅 15.6 cm、未同定）
12　梯子（長 73.4 cm、幅 25.1 cm、モミ）
13　梯子（長 89.5 cm、幅 24.3 cm、未同定）
14　梯子（長 38.4 cm、幅 26.5 cm、ヒノキ）
15　斜め貫孔のある材（鼠返し？、長 84 cm、幅 27.7 cm、カヤ）
16　垂木（長 191.5 cm、径 4.3 cm、カヤ）
17　垂木（長 166.4 cm、径 3.9 cm、未同定）
18　垂木（長 70.7 cm、径 6.7 cm、カヤ）
19　端部に抉りのある材（叉首？、長 397.2 cm、径 10.7 cm、スギ）

遺跡名：高賀遺跡・城之越遺跡　所在地：三重県伊賀市　古墳時代前期

1のみ高賀遺跡、2以下は城之越遺跡

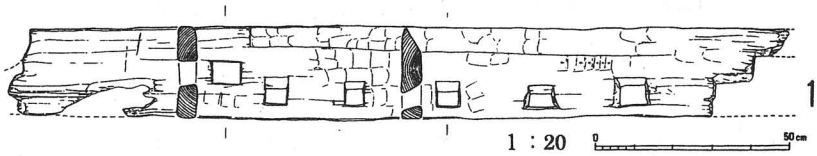


遺跡名：城之越遺跡　所在地：三重県伊賀市　古墳時代前期



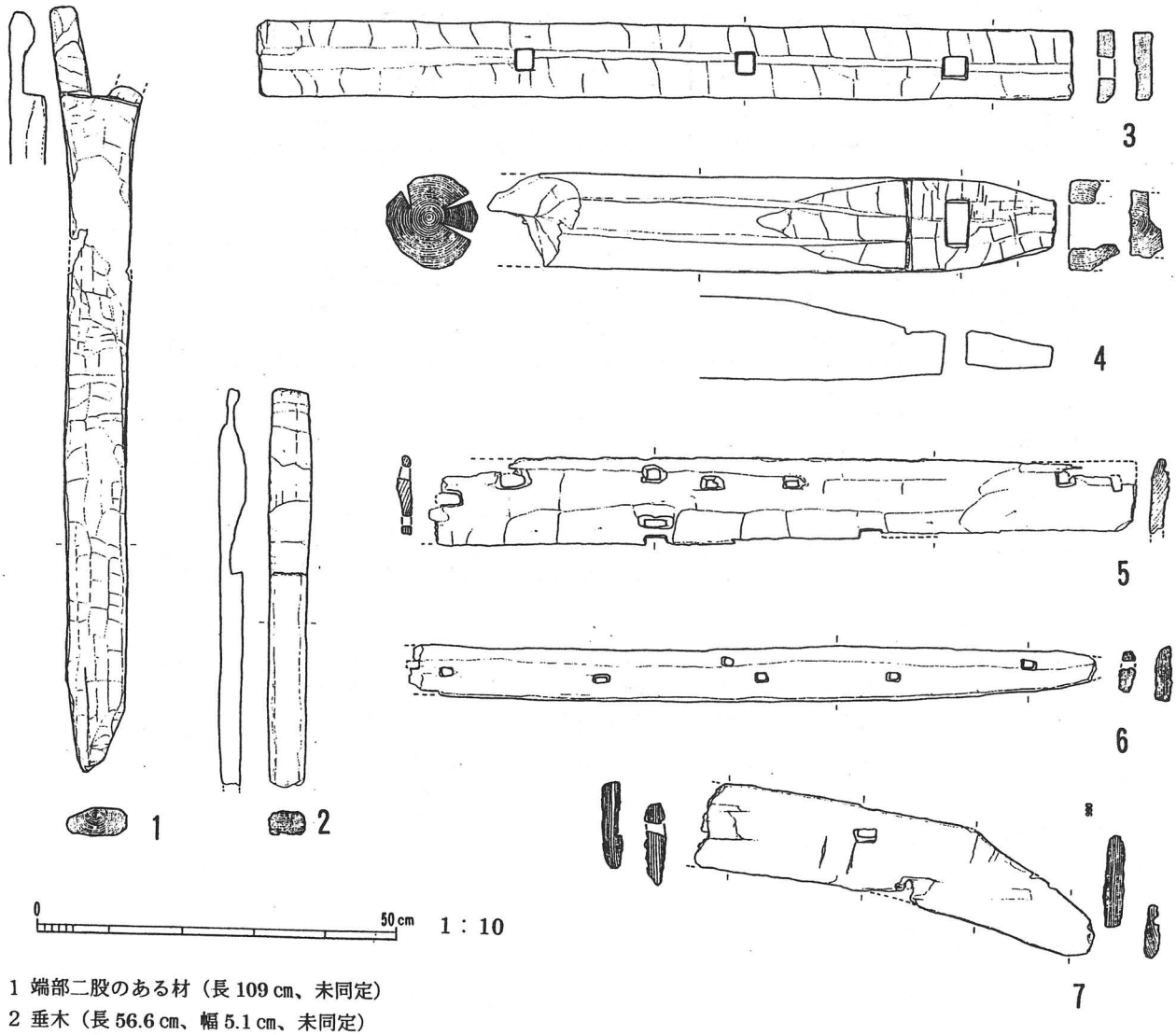
1（高賀遺跡）　扉板（143 cm、幅 37 cm、ヒノキ？）
2（以下、城之越遺跡）　扉板（長 131.2 cm、幅 40 cm、ヒノキ）
3　抉入板材（壁板？　長 101.1 cm、幅 12.8 cm、ヒノキ）
4まぐさ材?（長 49.5 cm、幅 9.3 cm、ヒノキ科）
5　方形貫孔のある材（台輪、長 74.2 cm、幅 21.4 cm、ヒノキ）
6　方形貫孔のある材（桁材、長 143 cm、幅 17.3 cm、モミ属）
7　方形貫孔のある材（桁材、長 128.8 cm、幅 19.3 cm、モミ属）
8　妻壁板（長 48.1 cm、幅 15.4 cm、ヒノキ）
9　妻壁板（長 33.8 cm、幅 27.3 cm、ヒノキ）
10　妻壁板（長 35 cm、幅 28 cm、未同定）
11　垂木（長 56.4 cm、径 5.1 cm、モミ属）
12　垂木（長 63 cm、径 3 cm、モミ属）
13　垂木（長 56.5 cm、径 2.7 cm、未同定）
14　垂木（長 142.4 cm、径 3.2 cm、未同定）

遺跡名：伊賀国府推定地　所在地：三重県伊賀市　古墳時代中期末



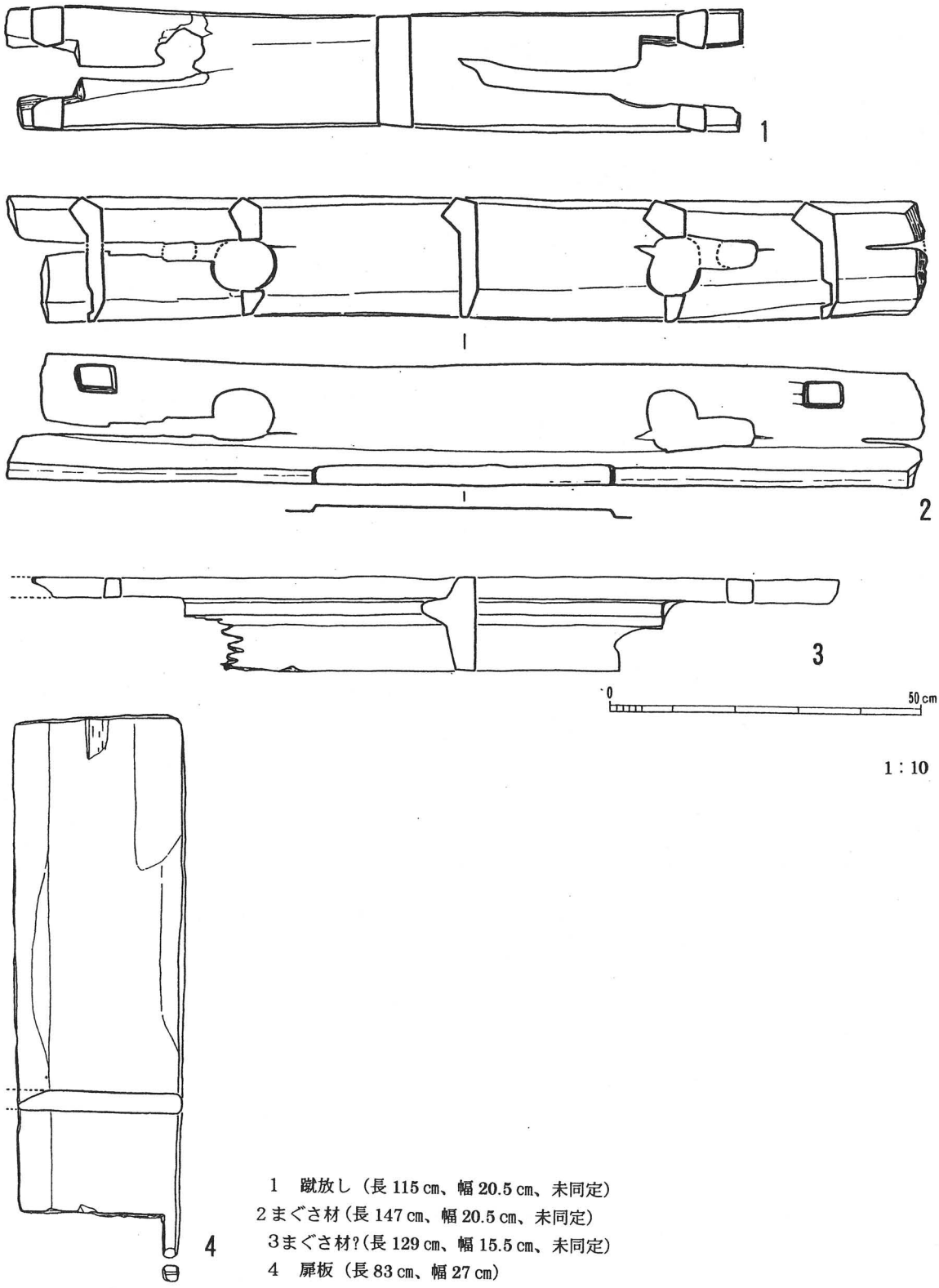
1　方形貫孔のある材（桁材、長 202 cm、幅 24 cm、未同定）

遺跡名：河田宮ノ北遺跡　所在地：三重県鈴鹿市　古墳時代後期



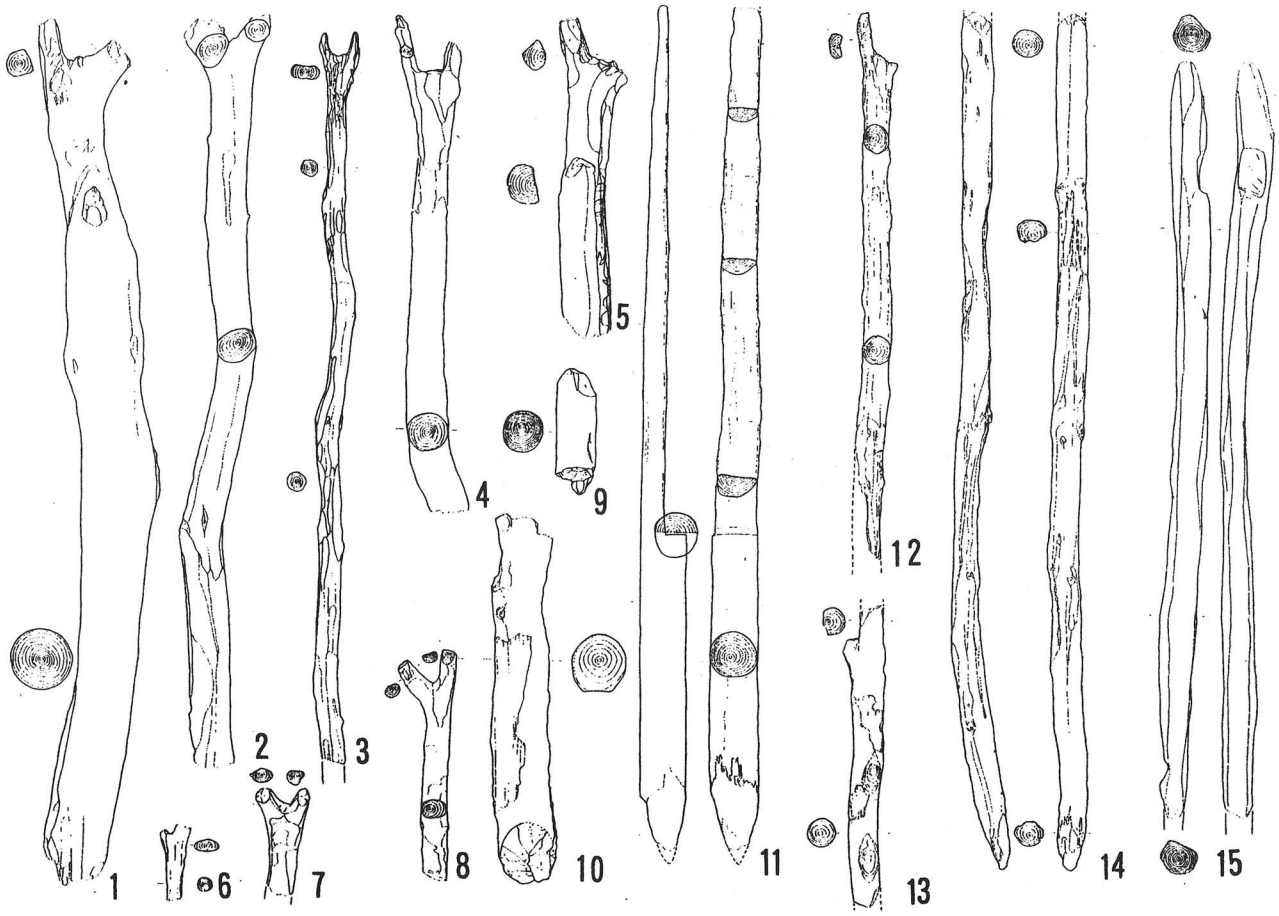
1 端部二股のある材（長 109 cm、未同定）
2 垂木（長 56.6 cm、幅 5.1 cm、未同定）
3 蟻溝と貫孔のある材（木舞、長 114.2 cm、幅 10.5 cm、未同定）
4 先端に段と貫孔のある材（柱、長 79.9 cm、径 13.3 cm、広葉樹）
5 貫孔のある板材（縦壁板もしくは舟材、長 98.6 cm、幅 12.1 cm、未同定）
6 貫孔のある板材（壁板もしくは舟材、長 96.2 cm、幅 7.75 cm、未同定）
7 貫孔のある板材（舟材、長 56.3 cm、幅 12.75 cm、実同定）

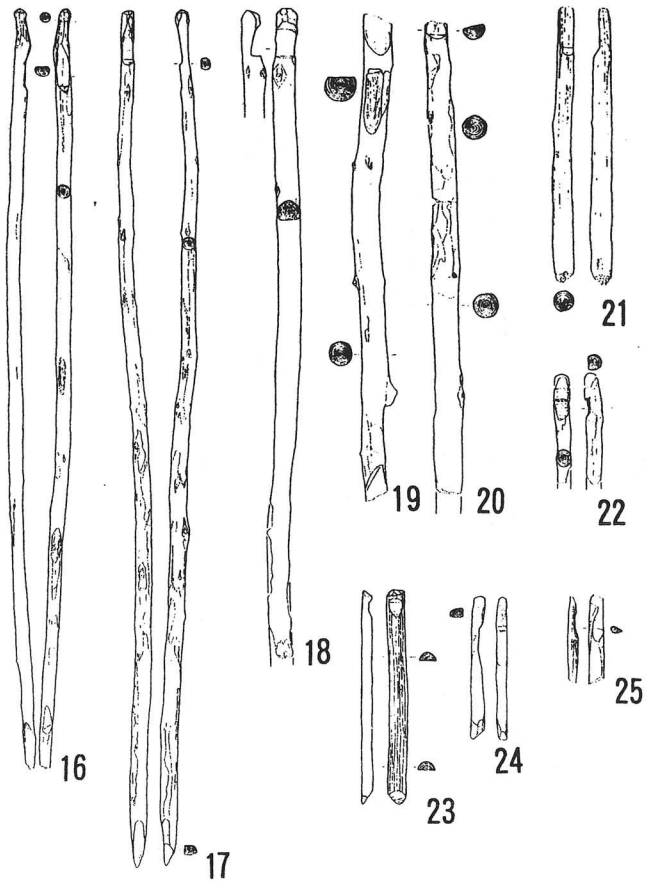
遺跡名：納所遺跡　所在地：三重県津市　古墳時代



1　蹴放し（長 115 cm、幅 20.5 cm、未同定）
2 まぐさ材（長 147 cm、幅 20.5 cm、未同定）
3 まぐさ材?（長 129 cm、幅 15.5 cm、未同定）
4　扉板（長 83 cm、幅 27 cm）

遺跡名：大田遺跡　所在地：三重県津市　古墳時代前期

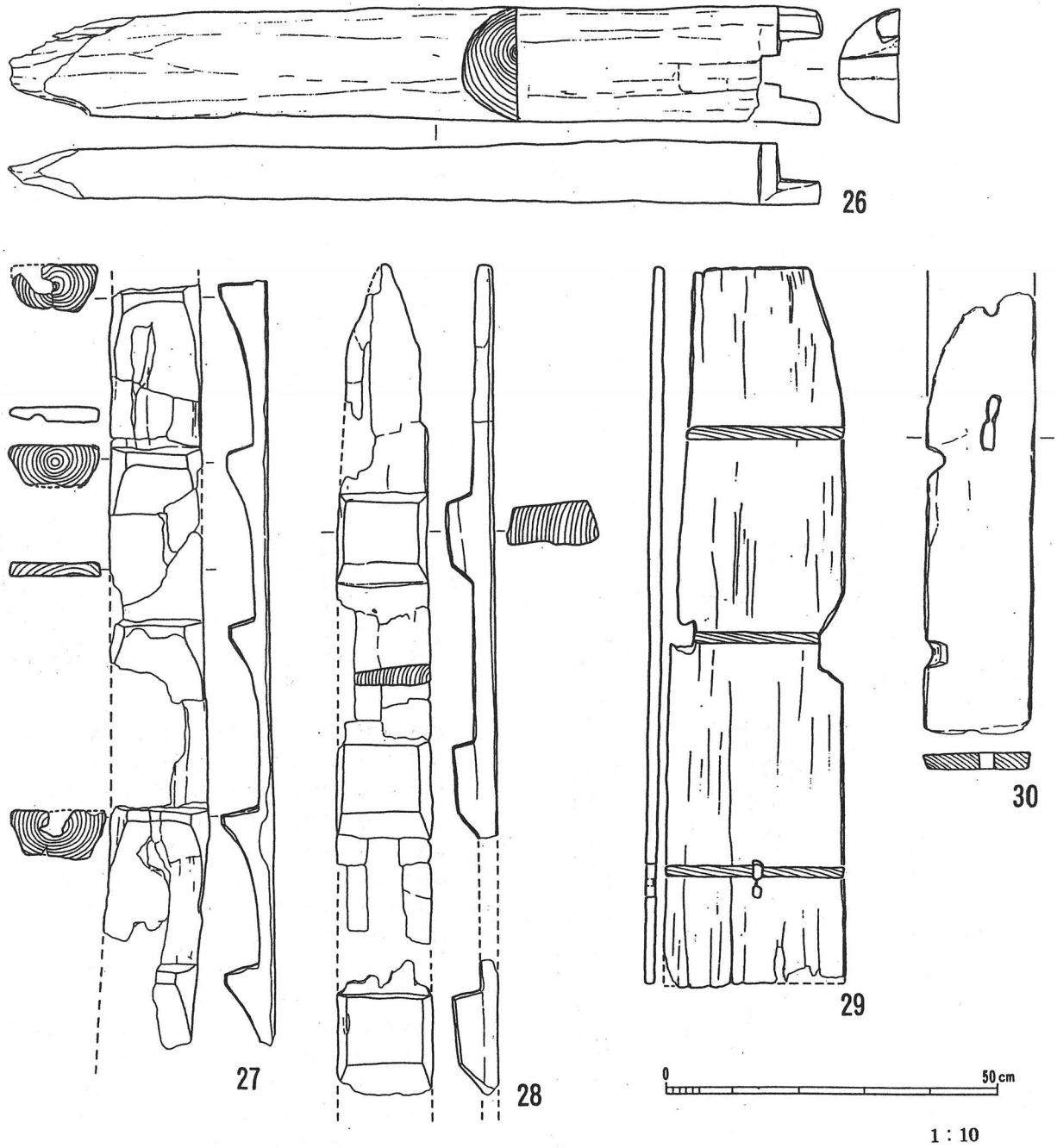




1：20

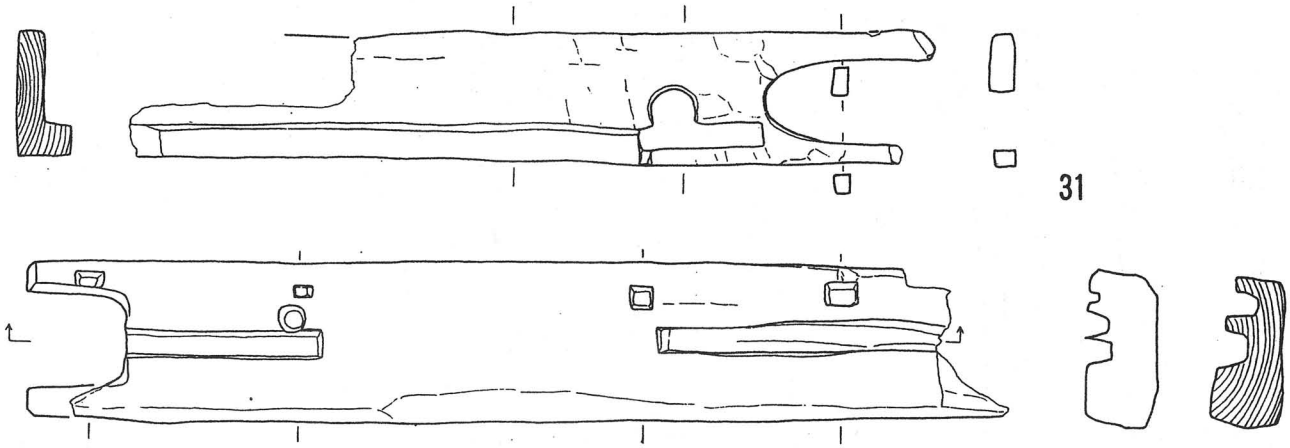
1　端部二股材（柱材、長 227.6 cm、径 20.6 cm、クリ）
2　端部二股材（柱材、長 201.7 cm、径 11.6 cm、カヤ）
3　端部二股材（柱材、長 195.2 cm、径 6.5 cm、クリ）
4　端部二股材（柱材、長 132.7 cm、径 10.7 cm、サカキ）
5　端部二股材（柱材、長 85.5 cm、径 12.5 cm、クリ）
6　端部二股材（柱材、長 20.6 cm、径 5.2 cm、コナラ）
7　端部二股材（柱材、長 28.4 cm、径 7.2 cm、コナラ）
8　端部二股材（柱材、長 61.5 cm、径 6.5 cm、クリ）
9　丸太材（柱材、長 33.5 cm、径 10.5 cm、ヒノキ）
10　丸太材（柱材、長 97.8 cm、径 14.8 cm、クリ）
11　半截部のある材（柱材、226 cm、径 13.1 cm、ヒノキ）
12　端部二股材（柱材、145.8 cm、径 7.1 cm、ヒノキ）
13　丸太材（柱材、長 81.8 cm、径 7.5 cm、未同定）
14　丸太材（柱材、長 230.6 cm、径 8.2 cm、イヌガヤ）
15　抉りのある材（柱材、長 198.7 cm、径 10.5 cm、サカキ）
16　垂木（長 202.5 cm、径 3.6 cm、ヒノキ）
17　垂木（長 229.6 cm、径 5 cm、イヌガヤ）
18　垂木（長 177.5 cm、径 6 cm、ヒノキ）
19　丸太材（垂木？、長 129.2 cm、径 7 cm、ヒノキ）
20　垂木（長 125.4 cm、径 6.6 cm、未同定）
21　垂木（長 73.5 cm、径 5.4 cm、カヤ）
22　垂木（長 28.3 cm、径 4 cm、サカキ）
23　垂木（長 57.9 cm、径 4.5 cm、カヤ）
24　垂木（長 38.6 cm、径 3.4 cm、ヒノキ）
25　垂木（長 24 cm、径 3.7 cm、サカキ）

遺跡名：大田遺跡　所在地：三重県津市　古墳時代前期



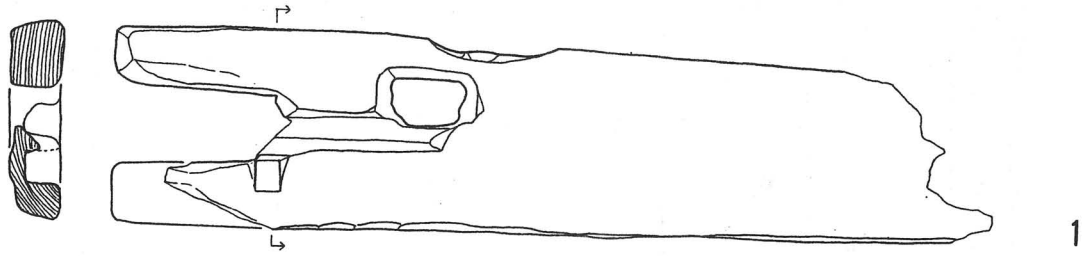
26　端部両角作出材（校木、長 124 cm、幅 17.4 cm、ヒノキ）
27　梯子（長 118.8 cm、14.6 cm、ヒノキ）
28　梯子（長 126.2 cm、14.2 cm、シイ）
29　有孔抉入板材（長 112.5 cm、27.2 cm、イヌガヤ）
30　有孔抉入板材（長 69 cm、16.1 cm、ヒノキ）

遺跡名：大田遺跡　所在地：三重県津市　古墳時代前期



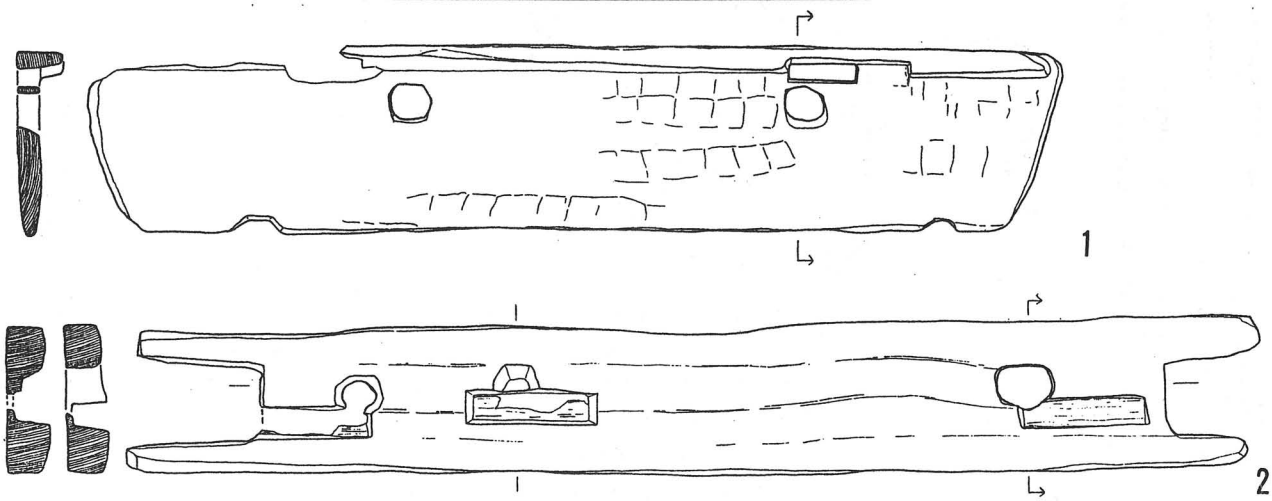
31 まぐさ材（長 107 cm、17.5 cm、ツバキ）
32　蹴放し（長 122.9 cm、22 cm、イヌガヤ）

遺跡名：前沖遺跡　所在地：三重県松阪市　古墳時代



1　蹴放し（長 116 cm、幅 27 cm、未同定）

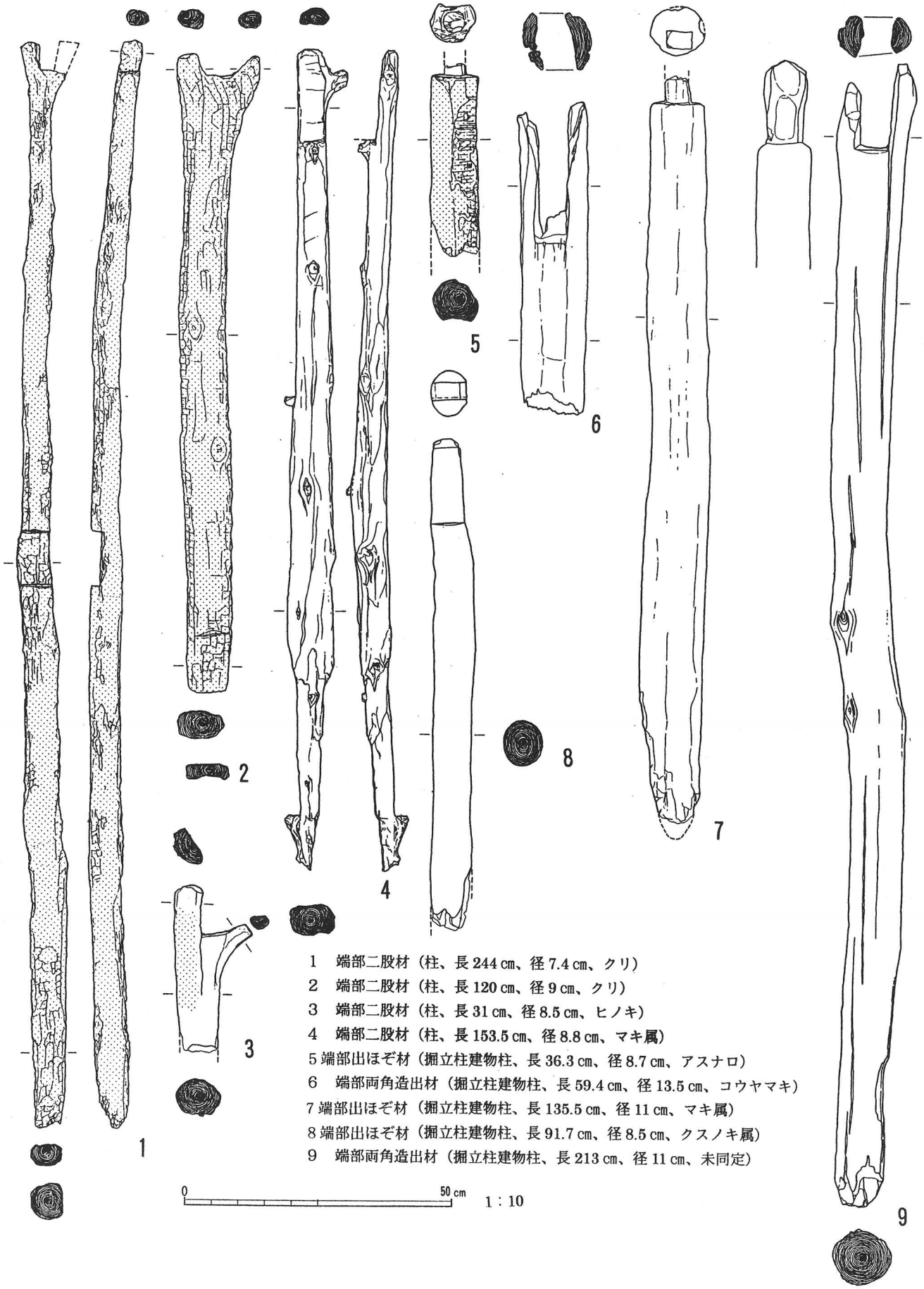
遺跡名：杉垣内遺跡　所在地：三重県松阪市　古墳時代



1 まぐさ材（長 128 cm、幅 24 cm、未同定）
2　蹴放し（長 148 cm、幅 20 cm、未同定）

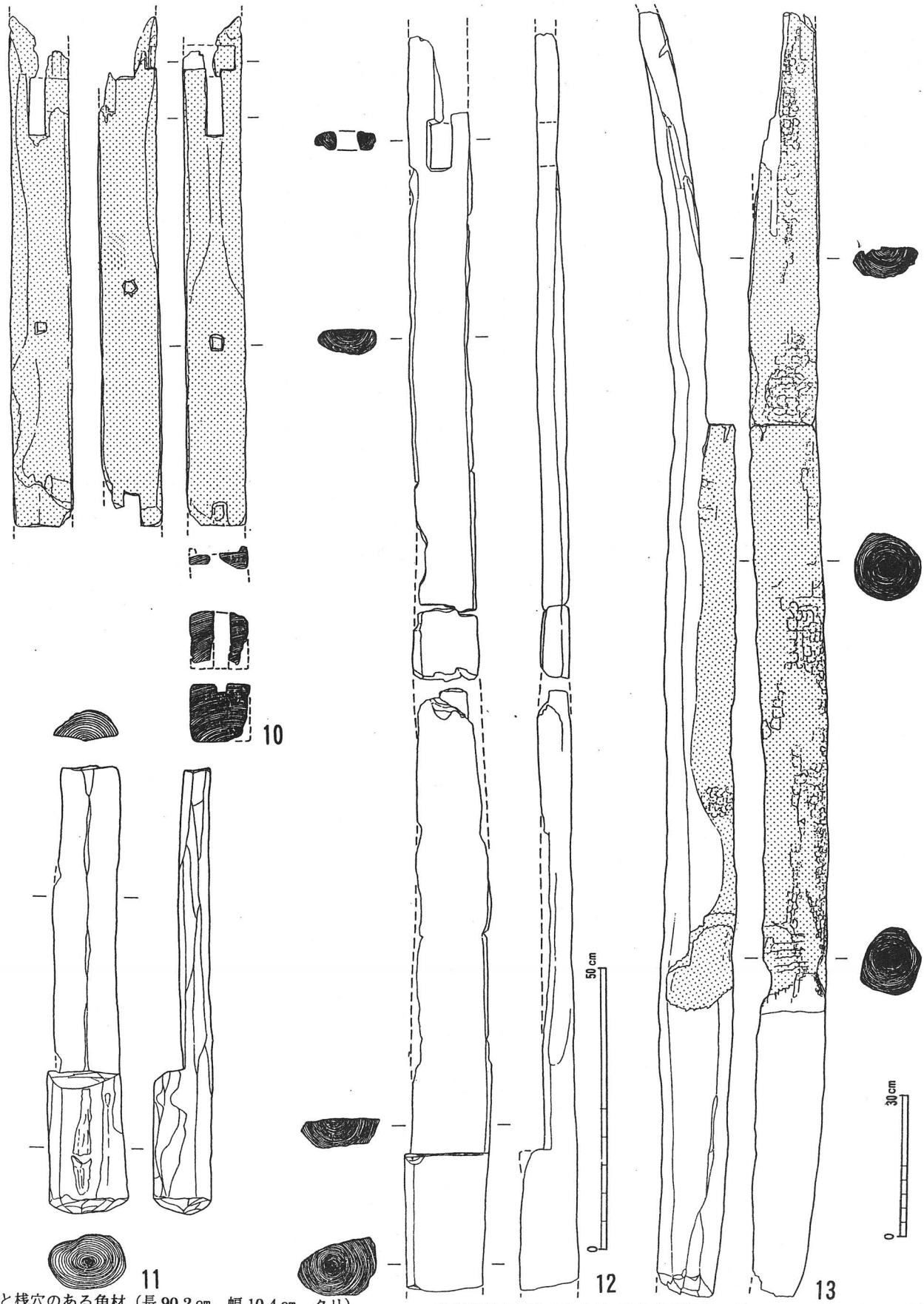
1：10　0　50 cm

遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市　弥生時代後期～古墳時代中期



1　端部二股材（柱、長 244 cm、径 7.4 cm、クリ）
2　端部二股材（柱、長 120 cm、径 9 cm、クリ）
3　端部二股材（柱、長 31 cm、径 8.5 cm、ヒノキ）
4　端部二股材（柱、長 153.5 cm、径 8.8 cm、マキ属）
5 端部出ほぞ材（掘立柱建物柱、長 36.3 cm、径 8.7 cm、アスナロ）
6　端部両角造出材（掘立柱建物柱、長 59.4 cm、径 13.5 cm、コウヤマキ）
7 端部出ほぞ材（掘立柱建物柱、長 135.5 cm、径 11 cm、マキ属）
8 端部出ほぞ材（掘立柱建物柱、長 91.7 cm、径 8.5 cm、クスノキ属）
9　端部両角造出材（掘立柱建物柱、長 213 cm、径 11 cm、未同定）

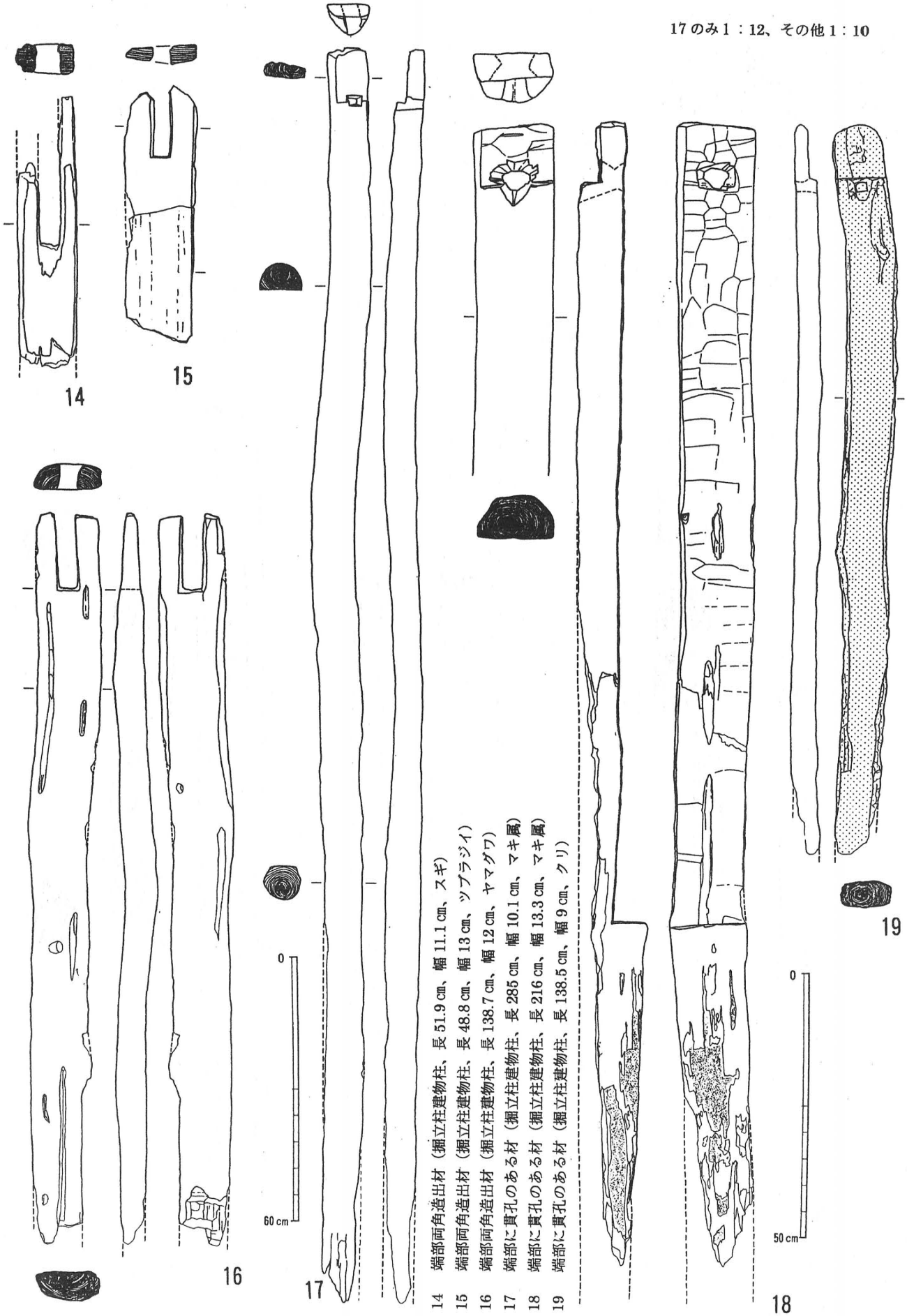
遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市　弥生時代後期～古墳時代中期



10 貫孔と桟穴のある角材（長 90.2 cm、幅 10.4 cm、クリ）
11 半截部のある材（掘立柱建物柱、長 79.5 cm、径 13.7 cm、散孔材）
12半截部に貫孔のある材（掘立柱建物柱、長 211 cm、径 14.7 cm、未同定）
13半截部のある材（掘立柱建物柱、長 272.8 cm、径 14 cm、未同定）

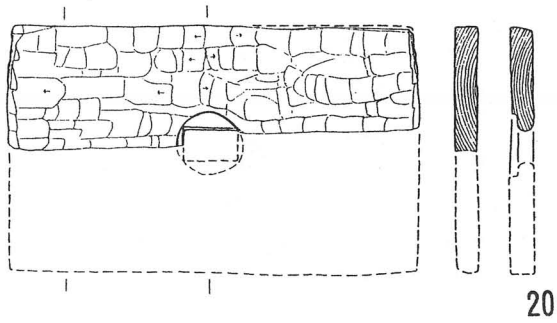
遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市　弥生時代後期～古墳時代中期

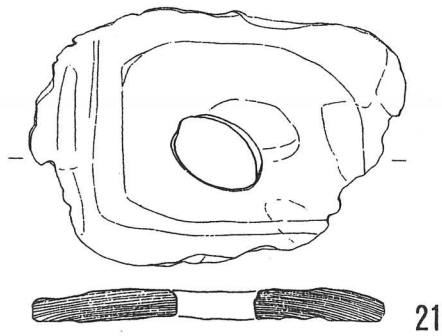
17のみ1：12、その他1：10



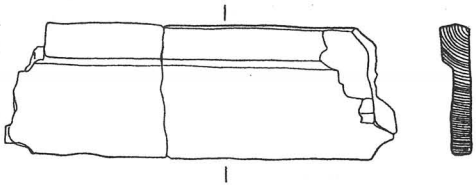
14　端部両角造出材（掘立柱建物柱、長51.9㎝、幅11.1㎝、スギ）
15　端部両角造出材（掘立柱建物柱、長48.8㎝、幅13㎝、ツブラジイ）
16　端部両角造出材（掘立柱建物柱、長138.7㎝、幅12㎝、ヤマグワ）
17　端部に貫孔のある材（掘立柱建物柱、長285㎝、幅10.1㎝、マキ属）
18　端部に貫孔のある材（掘立柱建物柱、長216㎝、幅13.3㎝、マキ属）
19　端部に貫孔のある材（掘立柱建物柱、長138.5㎝、幅9㎝、クリ）

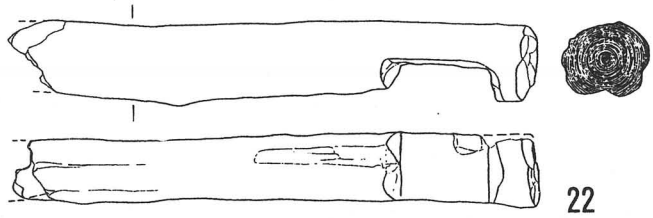
遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市　弥生時代後期～古墳時代中期



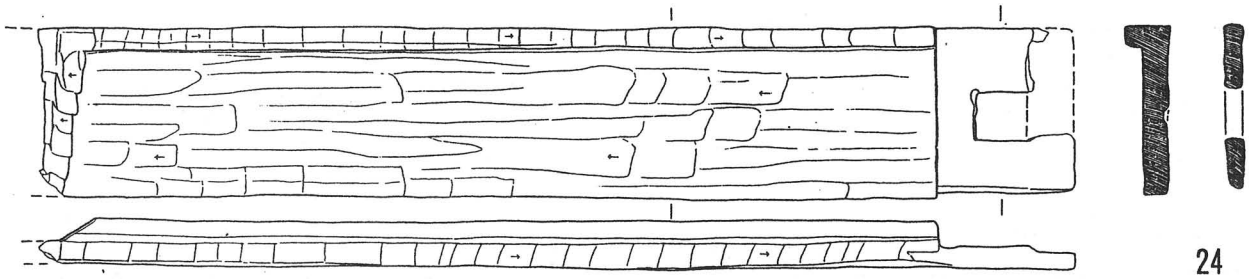


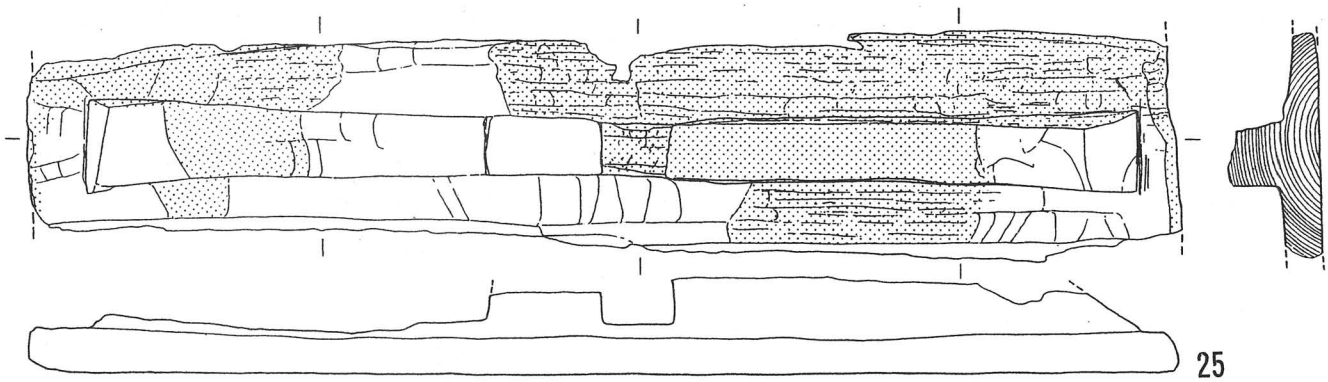
20　貫孔のある材（鼠返し、長 54 cm、幅 17 cm、未同定）
21　貫孔のある材（鼠返し、長 46 cm、幅 34.7 cm、未同定）

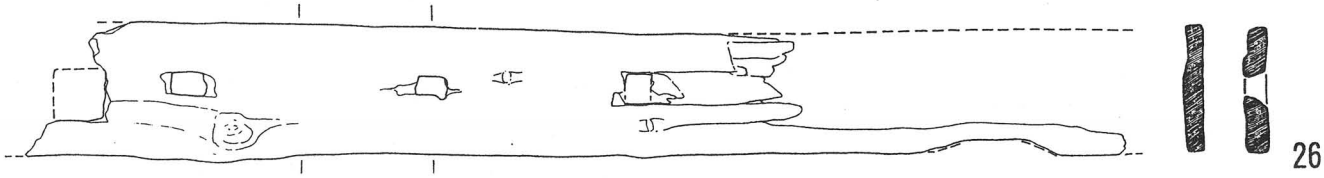




22　抉りのある材（横架材、長 68.7 cm、径 9 cm、コナラ属アカガシ亜属）
23　側縁造出のある材（横架材、長 49.9 cm、幅 17.6 cm、シイ属）



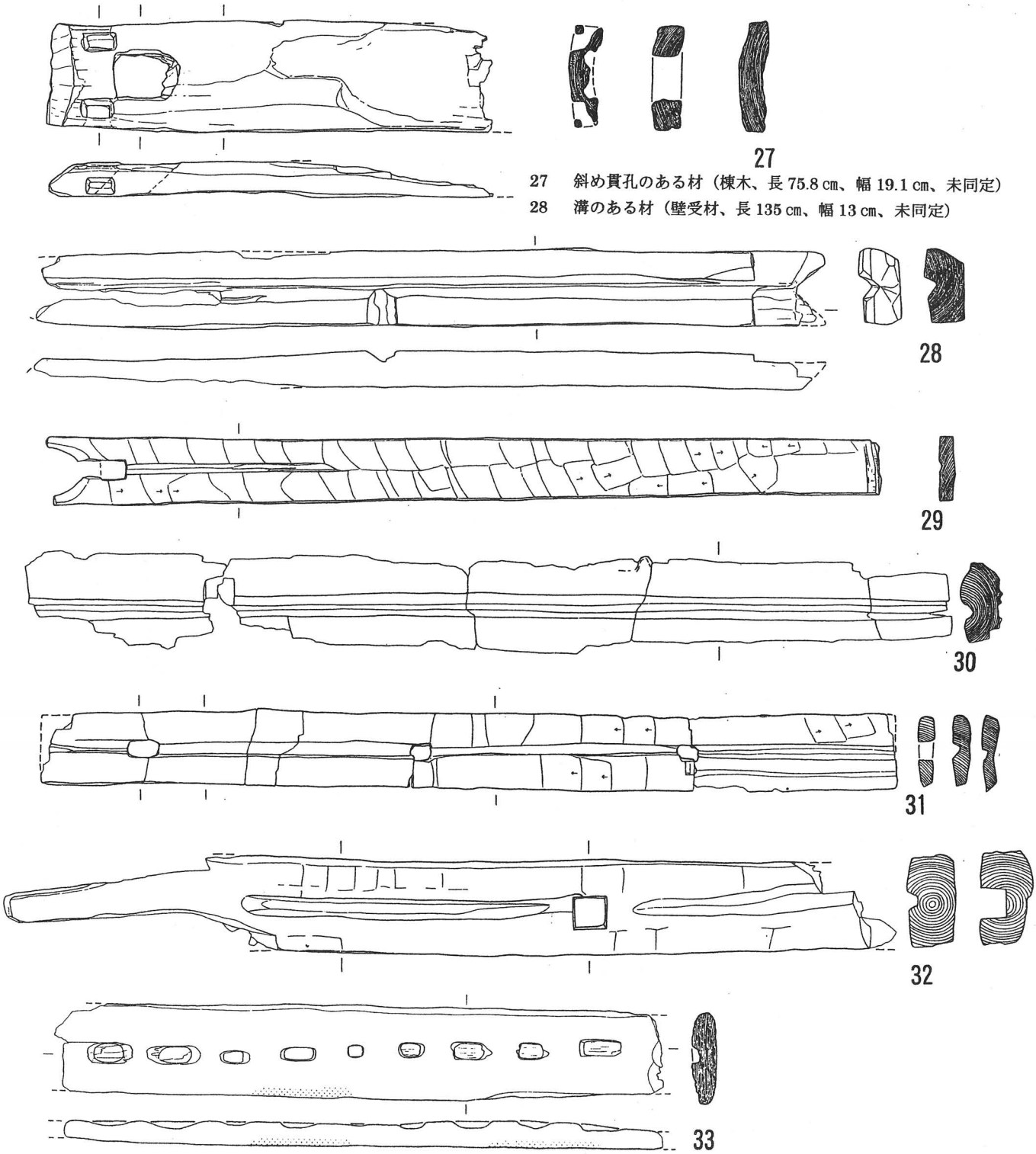




24　相欠仕口をもつ材（横架材、長 134.7 cm、幅 22.5 cm、スギ）
25　凸状造出のある材（長 150 cm、幅 28 cm、未同定）
26　方形貫孔のある材（横架材、長 143 cm、幅 18.5 cm、ヒノキ）

0　50 cm
1：10

遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市　弥生時代後期～古墳時代中期



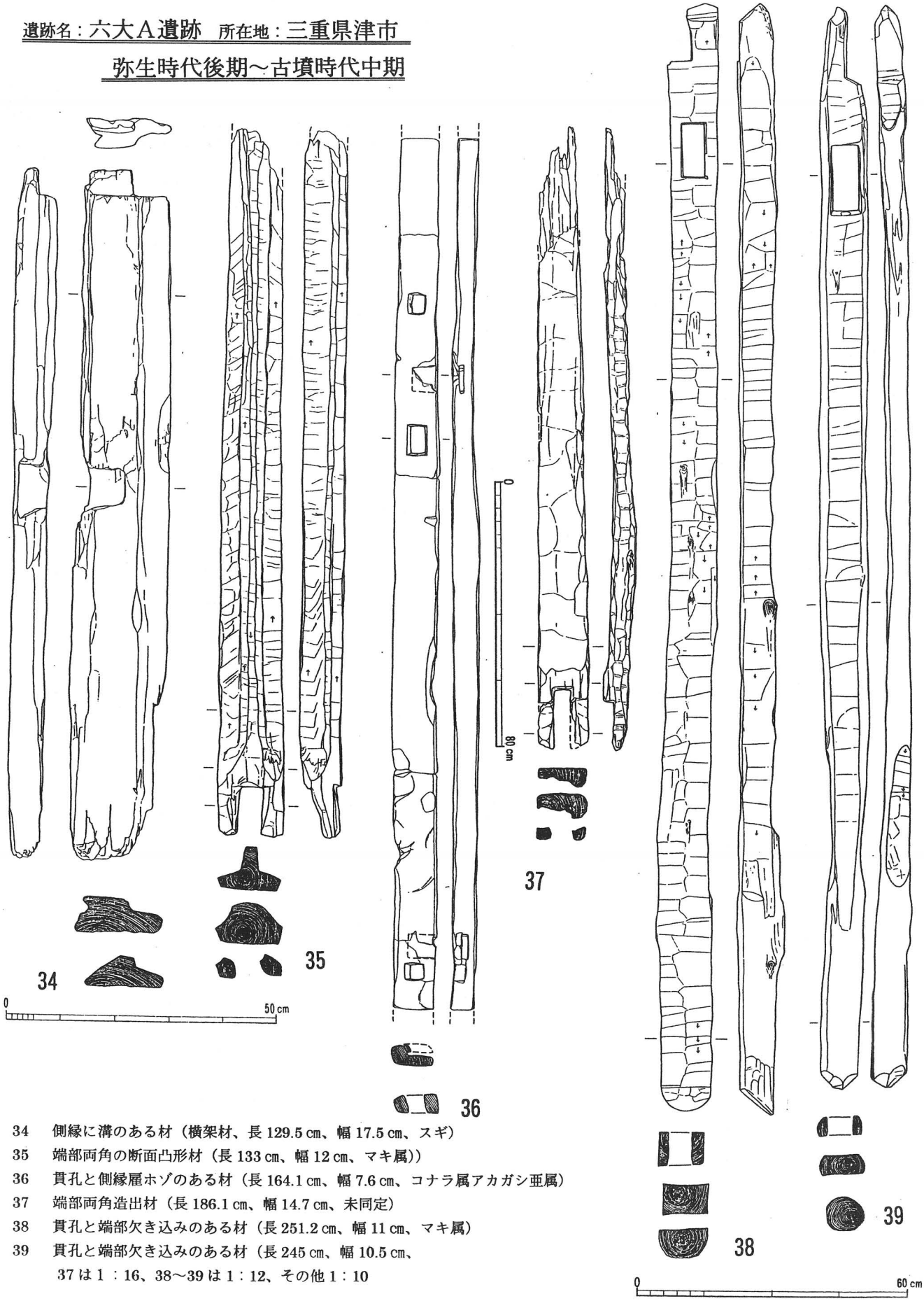
27　斜め貫孔のある材（棟木、長 75.8 cm、幅 19.1 cm、未同定）
28　溝のある材（壁受材、長 135 cm、幅 13 cm、未同定）

1：10

29　端部両角に貫孔のある材（長 143 cm、幅 12 cm、ヒノキ）
30　溝のある半截材（壁受材、長 157.9 cm、幅 16.5 cm、ツブラジイ）
31　溝と貫孔のある材（長 146.3 cm、幅 13.5 cm、シイ属）
32　溝と方形貫孔のある材（横架材、長 152 cm、幅 16.5 cm、アカマツ）
33　桟穴列のある材（横架材、104.2 cm、幅 15.6 cm、シイ属）

遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市

弥生時代後期～古墳時代中期



34　側縁に溝のある材（横架材、長 129.5 cm、幅 17.5 cm、スギ）

35　端部両角の断面凸形材（長 133 cm、幅 12 cm、マキ属））

36　貫孔と側縁雇ホゾのある材（長 164.1 cm、幅 7.6 cm、コナラ属アカガシ亜属）

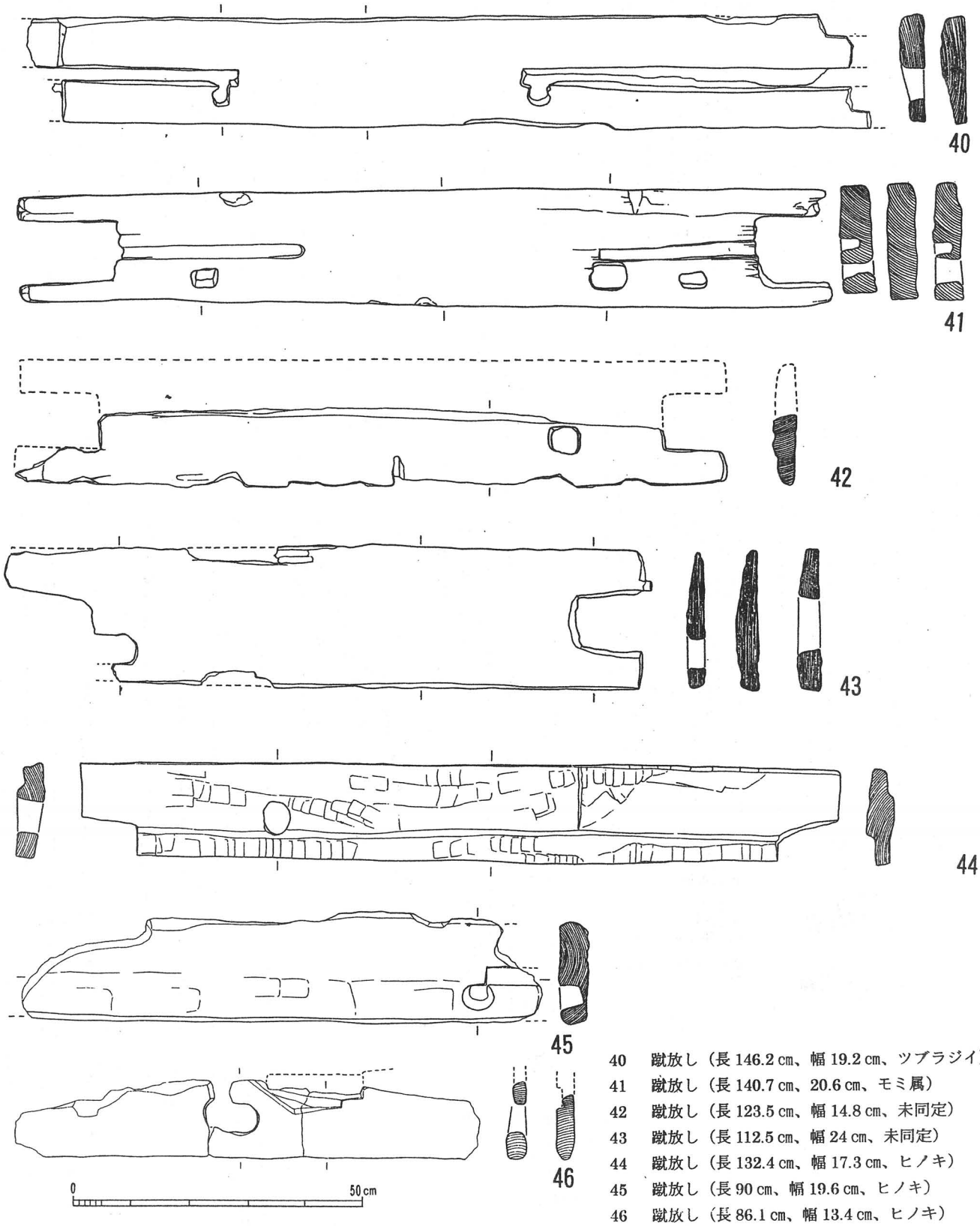
37　端部両角造出材（長 186.1 cm、幅 14.7 cm、未同定）

38　貫孔と端部欠き込みのある材（長 251.2 cm、幅 11 cm、マキ属）

39　貫孔と端部欠き込みのある材（長 245 cm、幅 10.5 cm、

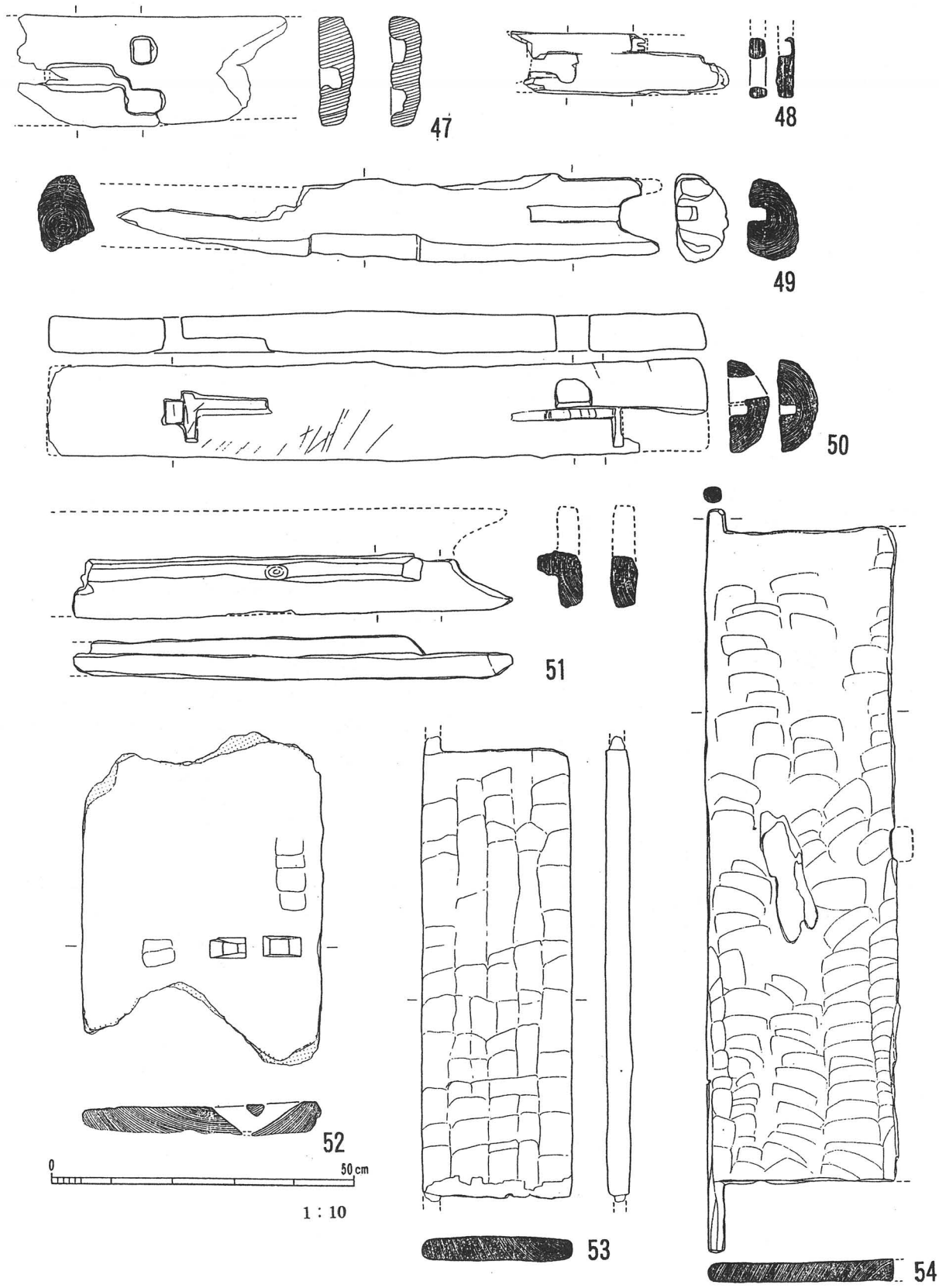
37 は 1：16、38～39 は 1：12、その他 1：10

遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市　弥生時代後期～古墳時代中期

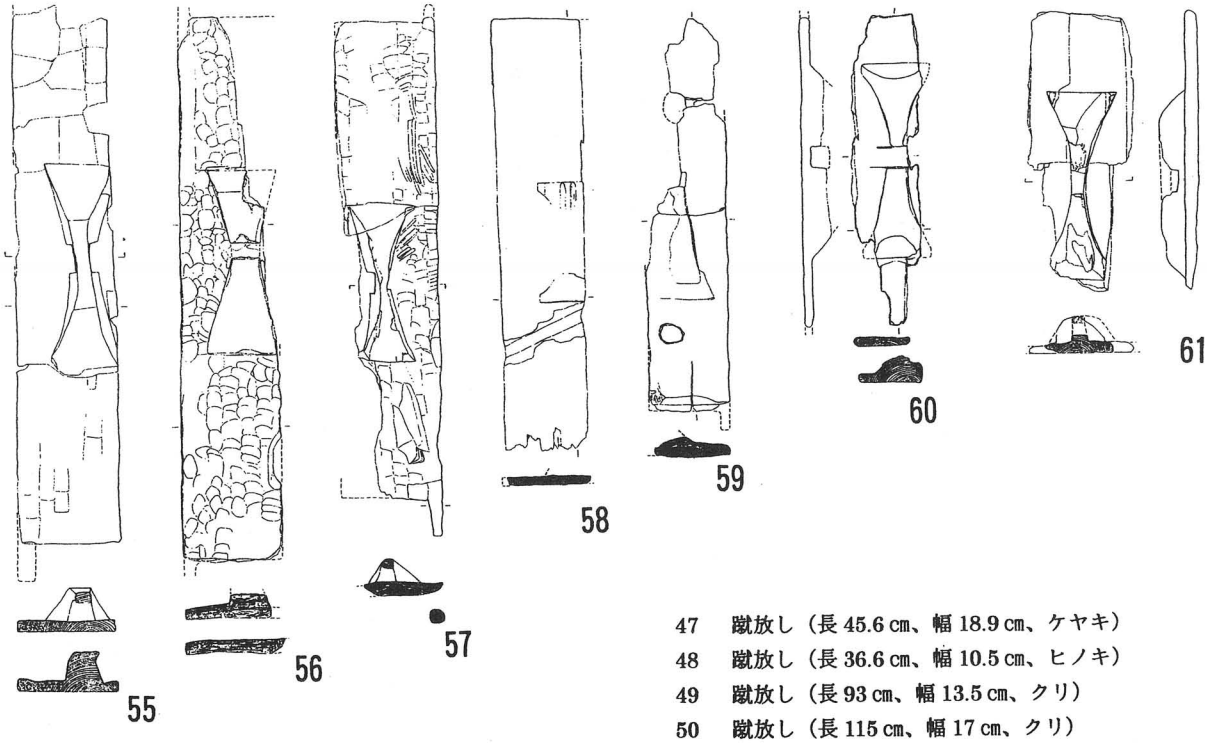


40　蹴放し（長 146.2 cm、幅 19.2 cm、ツブラジイ）
41　蹴放し（長 140.7 cm、20.6 cm、モミ属）
42　蹴放し（長 123.5 cm、幅 14.8 cm、未同定）
43　蹴放し（長 112.5 cm、幅 24 cm、未同定）
44　蹴放し（長 132.4 cm、幅 17.3 cm、ヒノキ）
45　蹴放し（長 90 cm、幅 19.6 cm、ヒノキ）
46　蹴放し（長 86.1 cm、幅 13.4 cm、ヒノキ）
1：10

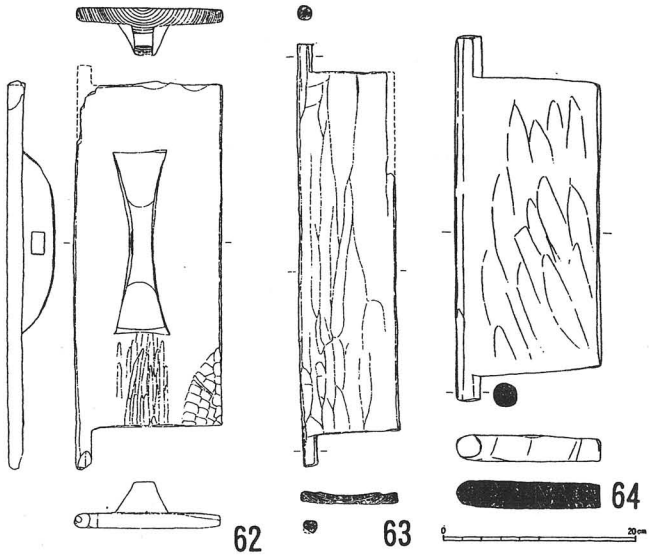
遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市　弥生時代後期～古墳時代中期



遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市　弥生時代後期～古墳時代中期

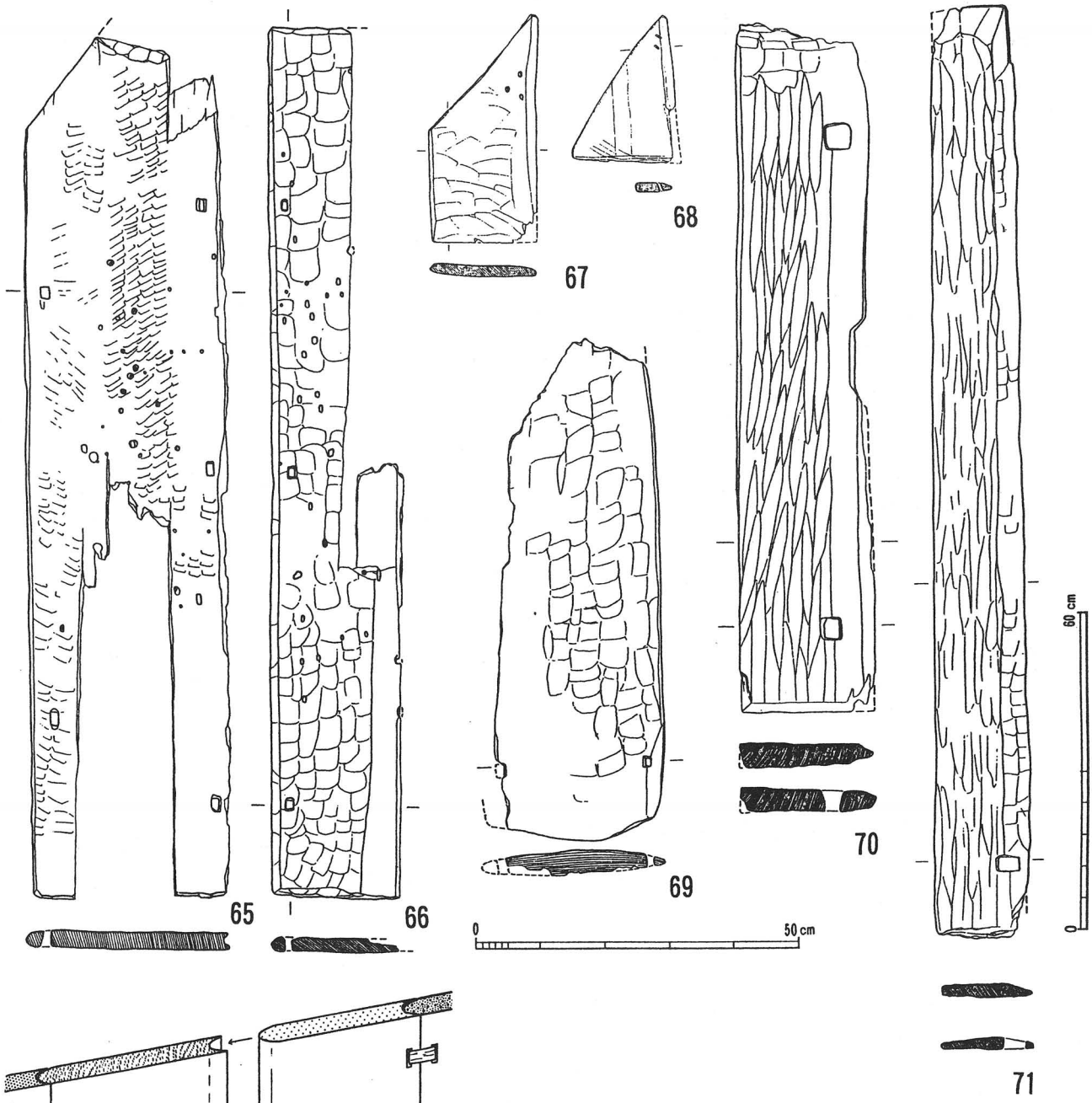


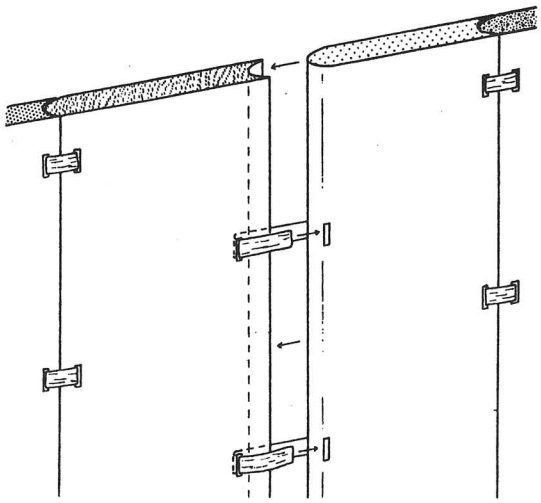
47　蹴放し（長 45.6 cm、幅 18.9 cm、ケヤキ）
48　蹴放し（長 36.6 cm、幅 10.5 cm、ヒノキ）
49　蹴放し（長 93 cm、幅 13.5 cm、クリ）
50　蹴放し（長 115 cm、幅 17 cm、クリ）
51 まぐさ材（長 73.8 cm、幅 9.4 cm、シイ属）
52　扉板（長 56.3 cm、幅 39.1 cm、アカマツ）
53　扉板（長 78.6 cm、幅 25.2 cm、スギ）
54　扉板（長 126.2 cm、幅 32.5 cm、ヒノキ）
55　扉板（長 142 cm、幅 26.2 cm、マツ属複維管束亜属）
56　扉板（長 149.6 cm、幅 27 cm、未同定）
57　扉板（長 136.2 cm、幅 26.3 cm、クスノキ科）
58　扉板（長 114 cm、幅 22 cm、未同定）
59　扉板（長 104.1 cm、幅 21.2 cm、クスノキ科）
60　扉板（長 81.8 cm、幅 18.6 cm、未同定）
61　扉板（長 73.7 cm、幅 26.9 cm、マツ属複維管束亜属）
62　扉板（長 102 cm、幅 37.6 cm、未同定）
63　扉板（長 111. 5 cm、幅 25.3 cm、未同定）
64　窓材（長 38.6 cm、幅 20.1 cm、ヒノキ）



1：20

遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市　弥生時代後期～古墳時代中期

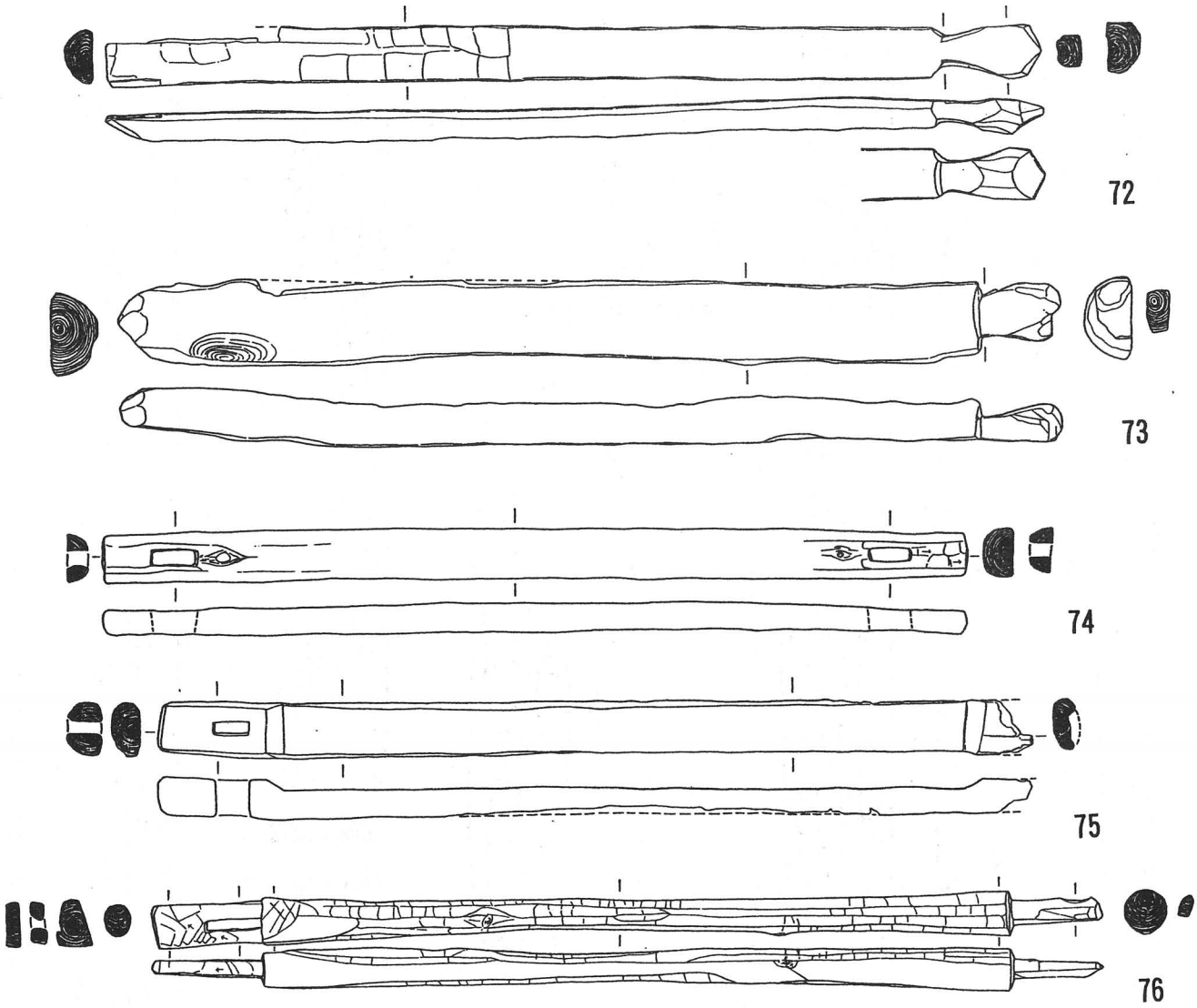


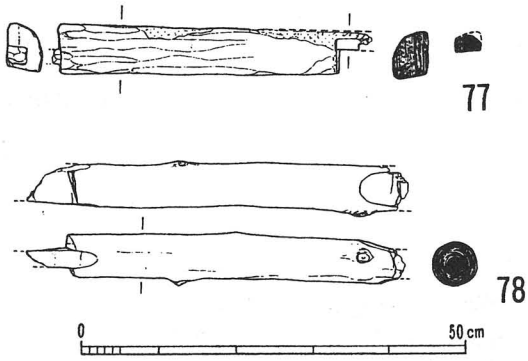


縦壁板の左右への接合模式図

65　壁板（長 135.3 cm、幅 30.9 cm、スギ）
66　壁板（長 137.2 cm、幅 19.8 cm、スギ）
67　壁板（長 36.1 cm、幅 16.5 cm、スギ）
68　壁板（長 23.3 cm、幅 16.6 cm、スギ）
69　両側に小方孔のある材（長 78.2 cm、幅 26 cm、未同定）
70　壁板（長 108 cm、幅 21 cm、ヒノキ）
71　壁板（長 174.8 cm、幅 17.7 cm、ヒノキ）
1：10

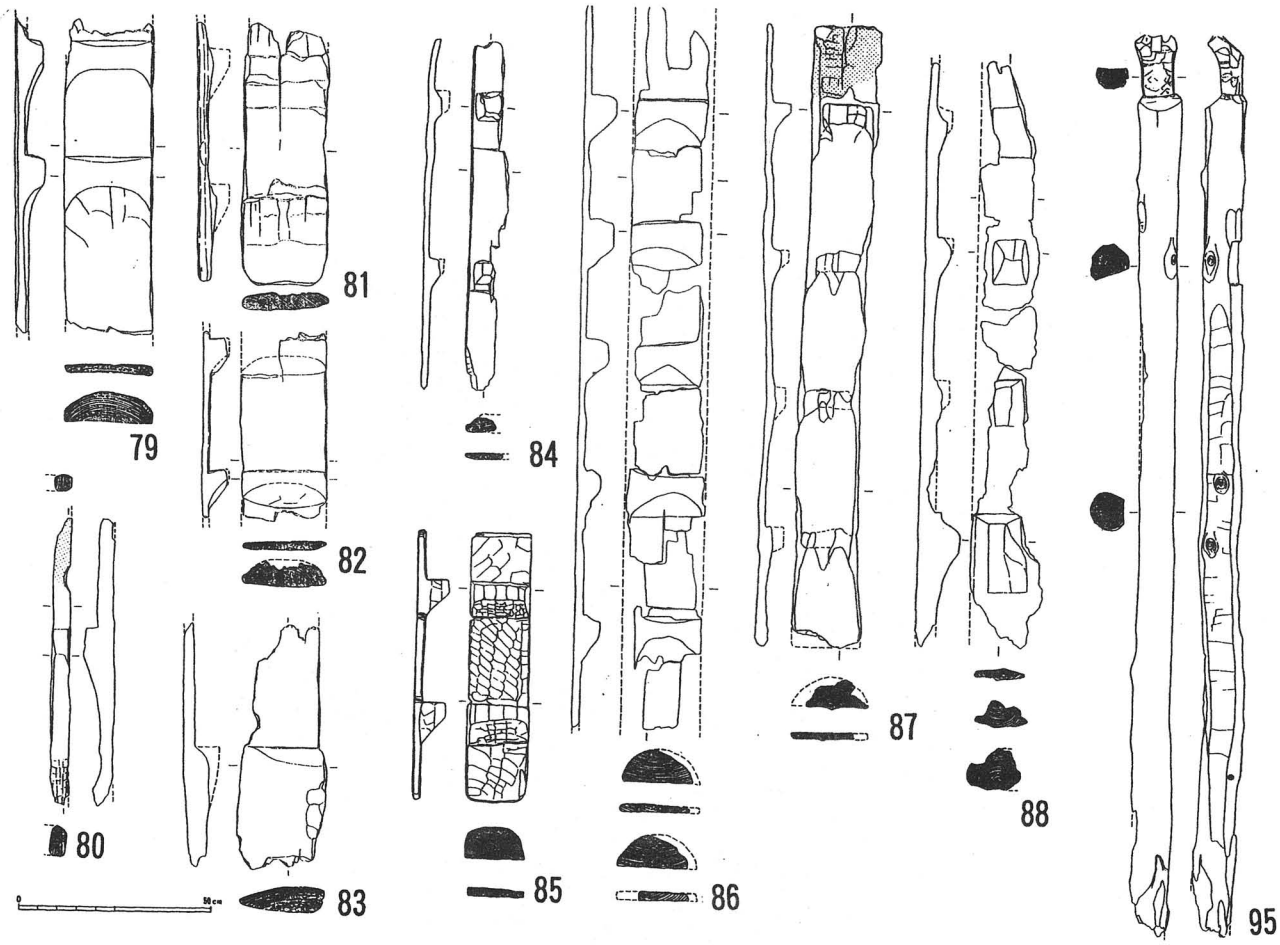
遺跡名：六大A遺跡　所在地：三重県津市　弥生時代後期～古墳時代中期

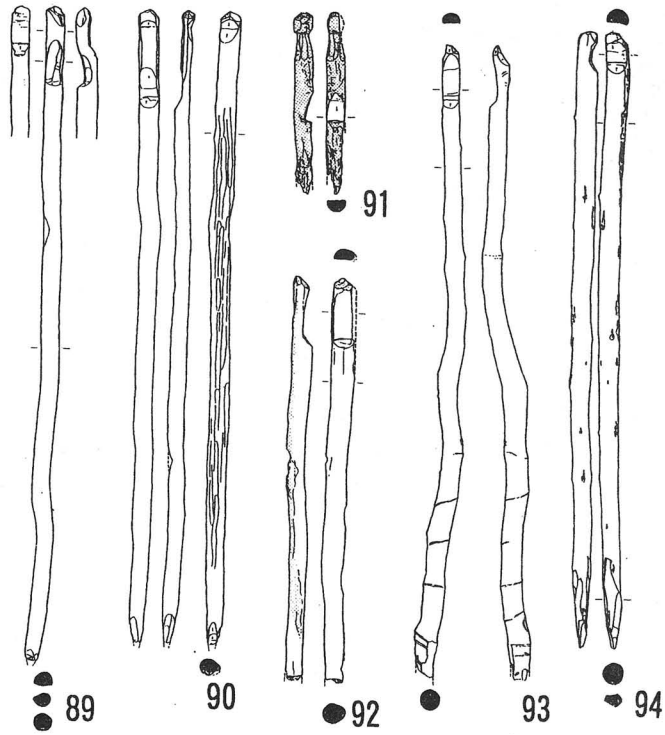




72　端部に造出のある材（長 134.1 cm、幅 7.6 cm、マキ属）
73　端部に造出のある材（長 134.5 cm、幅 12 cm、ヤマグワ）
74　両端に貫孔のある半截材（長 124.5 cm、幅 7.3 cm、マキ属）
75　両端に貫孔のある材（長 126 cm、幅 8 cm、未同定）
76　両端部出ホゾに貫孔のある材（長 136.7 cm、幅 6.8 cm、ヤブツバキ）
77　端部に出ホゾのある材（長 41.7 cm、径 6.5 cm、ヒノキ科）
78　端部に出ホゾのある材（長 49.8 cm、径 5.8 cm、ヒノキ科）
1：10

遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市　弥生時代後期～古墳時代中期

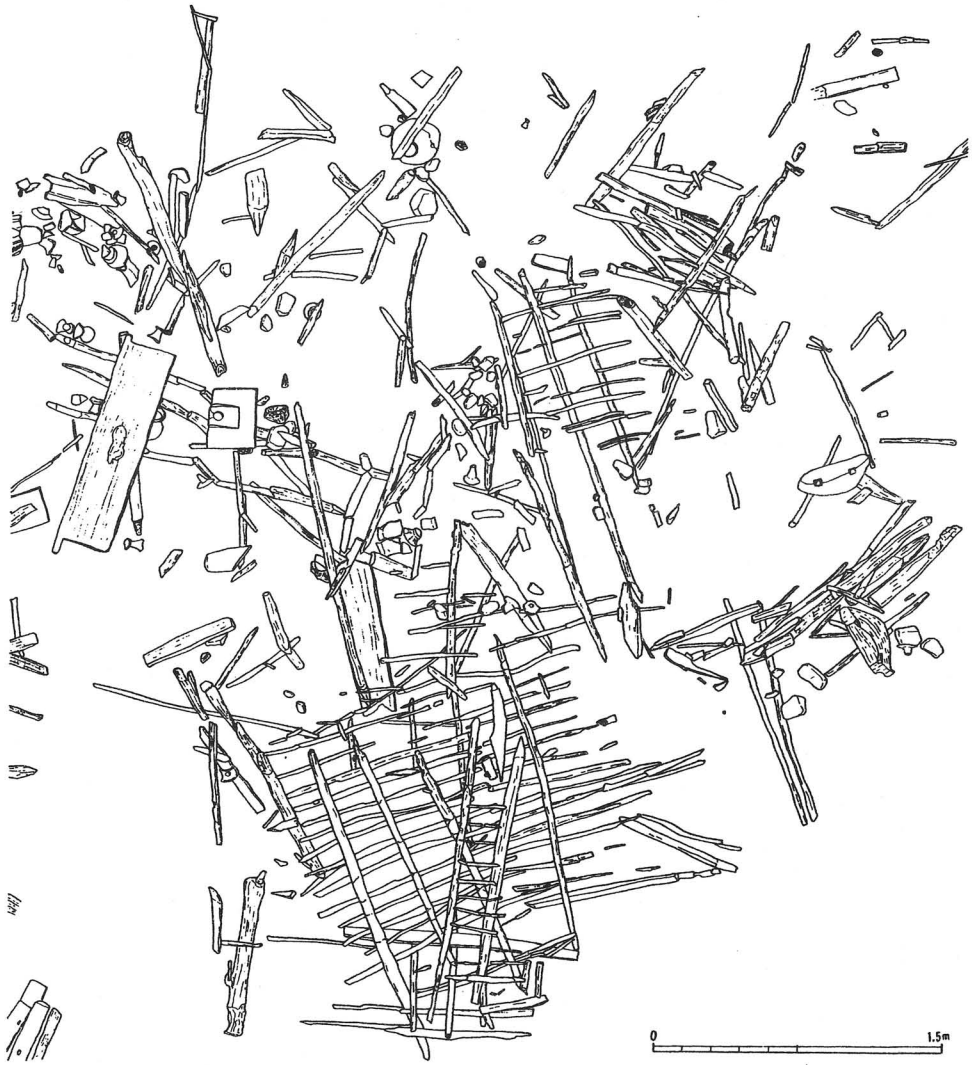




79　梯子（長 83.7 cm、幅 23 cm、未同定）
80　梯子（長 75.6 cm、幅 5.2 cm、シイ属）
81　梯子（長 69.8 cm、幅 22.5 cm、スギ）
82　梯子（長 49.3 cm、幅 22.3 cm、未同定）
83　梯子（長 64.3 cm、幅 21.7 cm、未同定）
84　梯子（長 93.3 cm、幅 9.9 cm、シイ属）
85　梯子（長 71.5 cm、幅 16.2 cm、ヒノキ科）
86　梯子（長 191.5 cm、幅 20.5 cm、ツブラジイ）
87　梯子（長 164.6 cm、幅 17.5 cm、スダジイ）
88　梯子（長 155.9 cm、幅 18.5 cm、広葉樹）
89　垂木（長 172 cm、径 4.6 cm、ヒサカキ属）
90　垂木（長 166.8 cm、径 5.5 cm、サカキ）
91　垂木（長 29.9 cm、径 4.3 cm、ヒノキ科）
92　垂木（長 105.8 cm、径 5.8 cm、シイ属）
93　垂木（長 166.3 cm、径 5.8 cm、マキ属）
94　垂木（長 161.9 cm、径 5.7 cm、マキ属）
95　端部に造出のある材（長 238.1 cm、径 10.3 cm、マキ属）

1：20

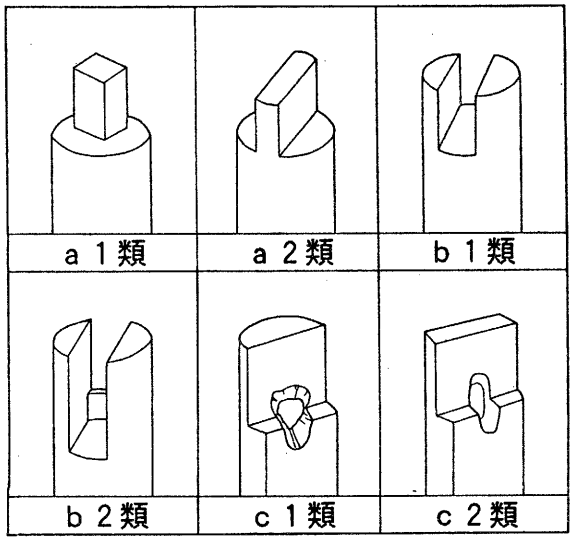
遺跡名：六大Ａ遺跡　所在地：三重県津市　古墳時代中期



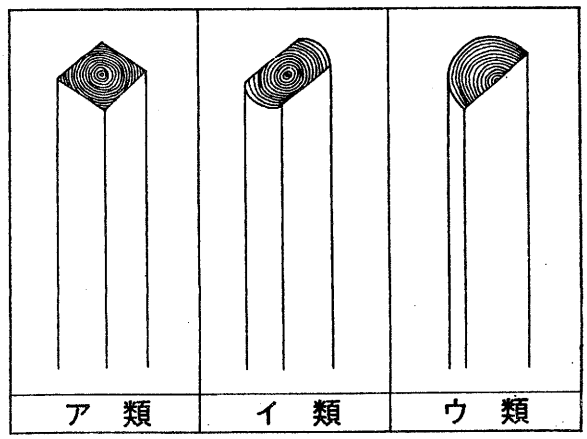
壁材（1：40）　5×4.5mの範囲内から出土
縦材と横材を蔦状の繊維で緊縛
縦材は最長2m、太さ7㎝で25～26㎝間隔で平行に存在
横材は最長1m、太さ4㎝で10㎝間隔で15本残存
縦材は両端部が尖る→壁受材の有孔部に挿入固定か
材構成の樹種は、スダジイ・マキ属・ツブラジイ・カヤなど複数樹種が存在

六大Ａ遺跡における建築部材の分類

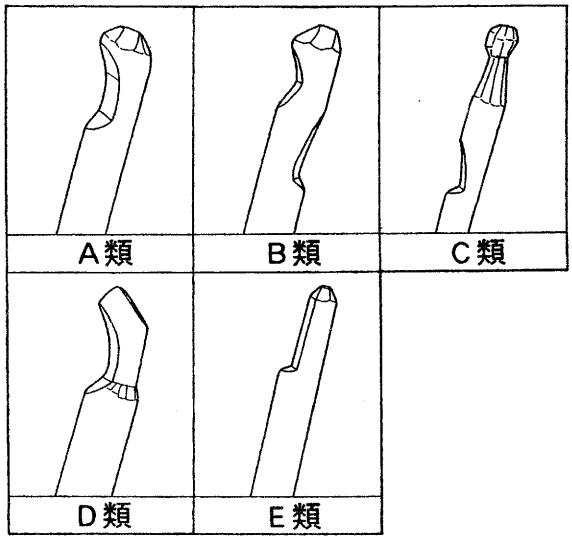
本分類は、六大Ａ遺跡の報告（三重県埋蔵文化財センター2000『六大Ａ遺跡発掘調査報告（木製品編）』）もののであり、今回の概要説明で提示した分類とは必ずしも一致しない



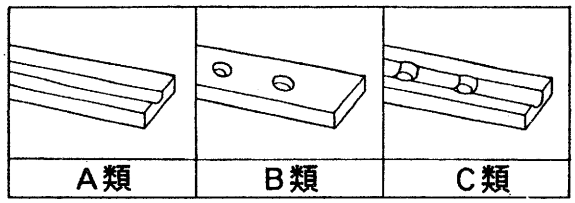
掘立柱建物用柱の柱頭形態



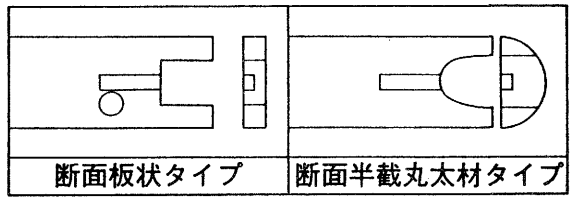
高床建物用柱の床上部の断面形態



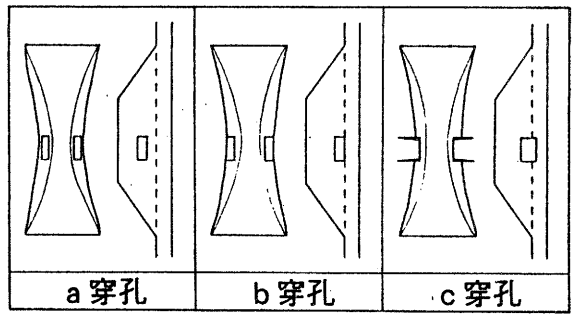
垂木の分類



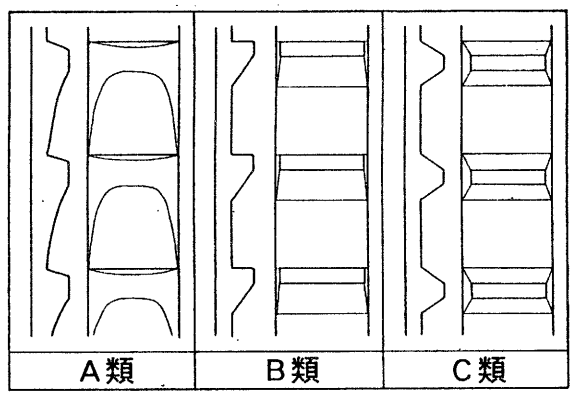
壁受材の分類



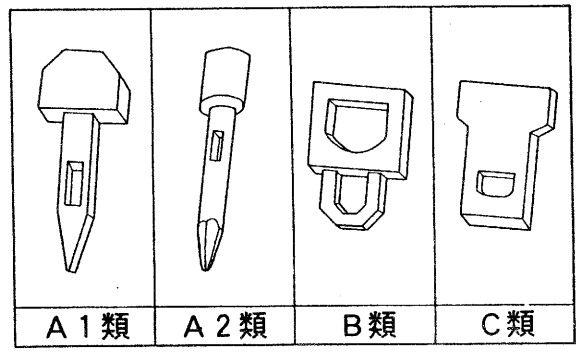
蹴放し材の断面形模式図



閂孔の穿孔部位



梯子の分類



挿入型留具か把手の分類

滋賀県の概要

横田洋三

縄文時代

明確な建築部材の出土は無い。

弥生時代

建築部材の出土する遺跡は少ない。草津市柳遺跡で確認できる。この遺跡は現在整理調査中で、ホゾ穴を持つ柱材、片持ちの欠き込みのある柱材、ホゾ加工のある丸材である。

古墳時代

資料は多い。柱頂部の加工は片持ちの欠き込み加工が多く認められる。横架材との接合加工と考える。この加工は最頂部に縄架けの溝が作られており、横調査中の中に多くの建築部材が含まれている。現在報告されている資料からは、架材との接合には縄の緊縛が必須であったことがわかる。

守山市八ノ坪遺跡では頂部を「U」字に加工したものが見られる。丸材の横架材を受ける加工と考える。またこの材には80cmほど下部に2連の欠き込み加工が認められる。ここにも横架材が取り付いたと考えられ興味深い。

頂部を出ホゾ加工した材が認められるが数は少ない。また材径の細いものが多く、柱材としたか疑問のものも多い。

古墳時代後期になると土台を持つ建物の出現が注目される。大津市穴太遺跡では礎石に横たわった状態で検出されている。コーナー部は渡りアゴで組まれている。7世紀代の近江八幡市大中の湖南遺跡でも土台と考える部材が出土している。直角の出た角材に加工された材で、コーナー部は抜きホゾを穿ち、他の柱を受ける箇所は止めホゾが穿たれている。

新旭町森浜遺跡、守山市服部遺跡、大中の湖南遺跡では木小舞の建物が検出されている。木小舞の材は節の無い年輪の詰まったスギで、大径材を裂くように加工したことがわかる。

（付記）

図Aは日野町北代遺跡の古墳時代の竪穴式住居である。ここでは、柱穴掘方の形状に注目しておく。深さは約70センチで断面逆三角形の形状を呈している。

図Bは同じ日野町の松尾遺跡の7世紀末の掘立柱建物である。柱穴掘り方の形状は、平面形状が1辺約70cmの方形で底面もほぼ同じ形状を示す。

両遺構も、柱の設置工法から見ると掘立柱である。Aでは柱穴底面の面積は狭く、柱の設置に平面的な自由度が低いことがわかる。対してBは柱の設置は平面的に自由度が高い。Bの遺構では柱穴1で柱の設置位置が掘方を外れ、新たに掘り足して柱が設置された状態が観察されている。

両者の違いは、上部構造の違いに起因するものであろう。Aは柱の設置に自由度が無くても横架材との接合に自由度が高い構造であったことを示している。対して、Bは上部構造が自由度の低い硬構造であったことを示している。これは横架材との接合がホゾ加工など固定度の高いもので組まれていたとすることができる。

さらに、Bの遺構で確認された柱位置のズレは、建物の筐体部分が組まれた段階で、柱穴に設置されたと考えることも出来る。

仕口加工を施し、木材を固定した筐体を持つ建物は古墳時代以前では一般住居にはなく、特殊建物に限られるのであろう。

仕口総括表

時代	貫穴	渡りあご	欠き込み縄溝	止め穴
縄文	―	―	―	―
弥生	○	○	◎	
古墳	○	○	◎	
7 世紀	◎	○	○	○

文献一覧

下長遺跡発掘調査報告書Ⅷ　守山市教育委員会　平成 13 年 3 月

森浜遺跡発掘調査報告書〈図版編〉　滋賀県教育委員会　財団法人滋賀県文化財保護協会　昭和 53 年 3 月

米原町埋蔵文化財調査報告書Ⅸ　入江内湖遺跡〈行司町地区〉発掘調査報告書　米原町教育委員会　昭和 63 年 3 月

守山市文化財調査報告集第 65 号　八ノ坪遺跡発掘調査報告書　守山市教育委員会　1997 年 3 月

草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書Ⅶ　柳遺跡・下戸刈遺跡　滋賀県教育委員会　財団法人滋賀県文化財保護協会　平成 16 年 3 月

一般国道 1616 号〈西大津バイパス〉建設に伴う　穴太遺跡発掘調査報告書Ⅱ　滋賀県教育委員会　財団法人滋賀県文化財保護協会　平成 9 年 3 月

湖西線関係遺跡調査報告書　財団法人滋賀県文化財保護協会　湖西線関係遺跡発掘調査団　昭和 48 年 3 月

ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 32-2　芦刈遺跡大中の湖南遺跡　滋賀県教育委員会　財団法人滋賀県文化財保護協会　平成 17 年 3 月

服部遺跡発掘調査報告書Ⅴ　滋賀県教育委員会　守山市教育委員会　財団法人滋賀県文化財保護協会　1984 年 3 月

掘立柱建物 柱材

貫用ホゾ穴

直行横架材用仕口

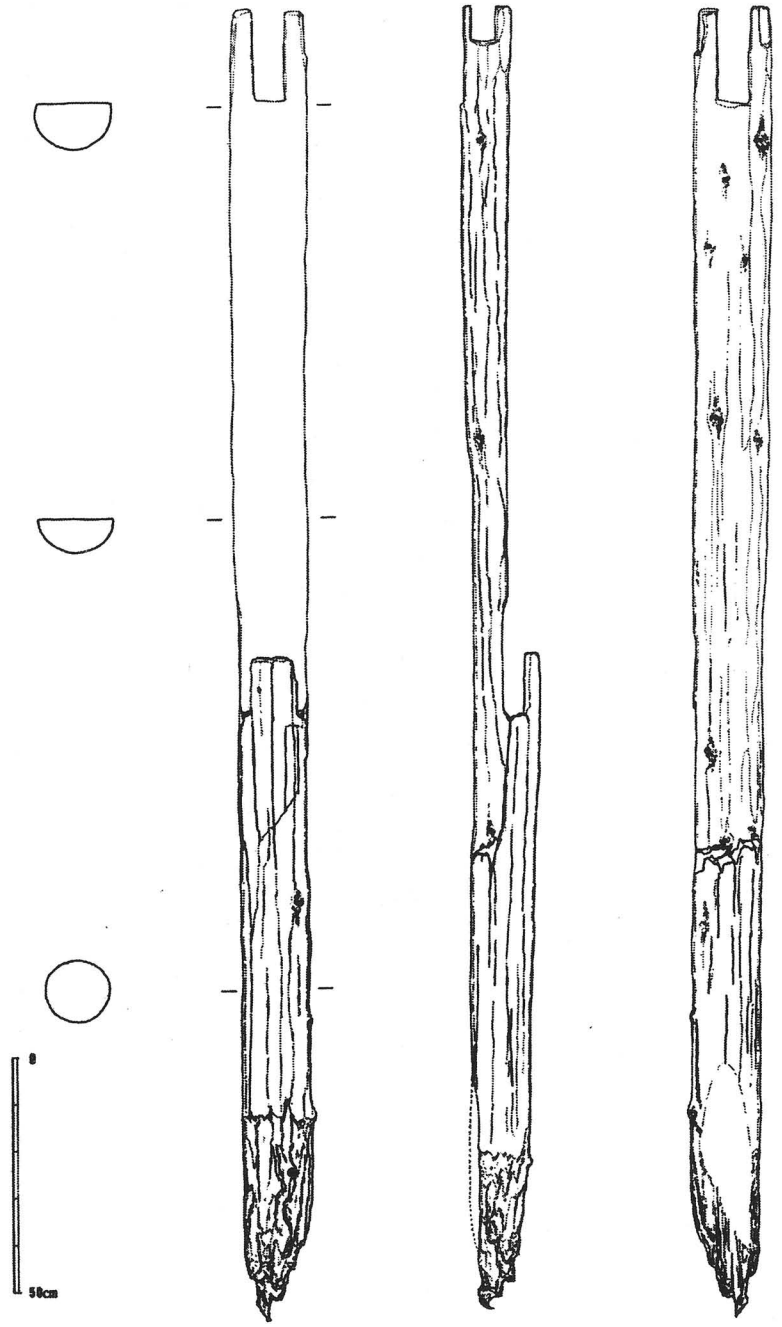
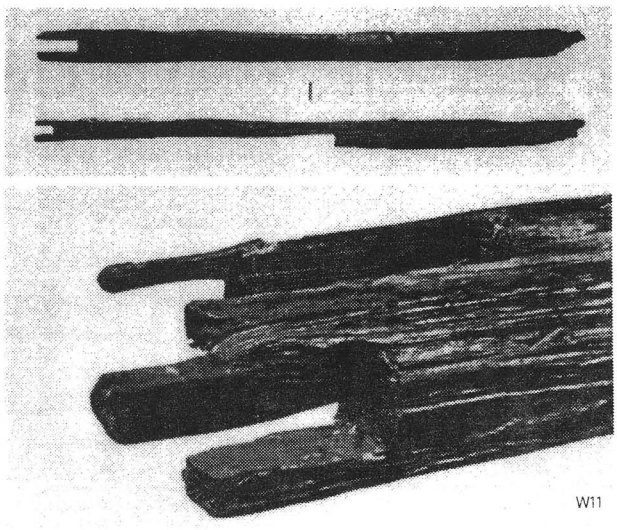


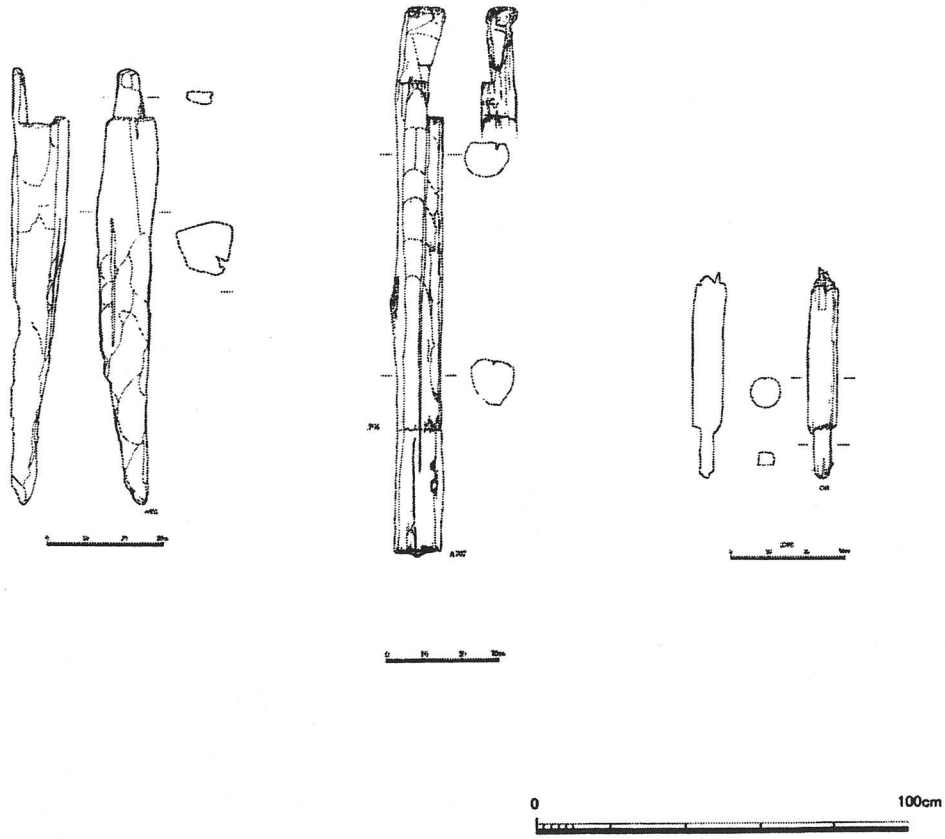
図27　堰部材（W11）実測図



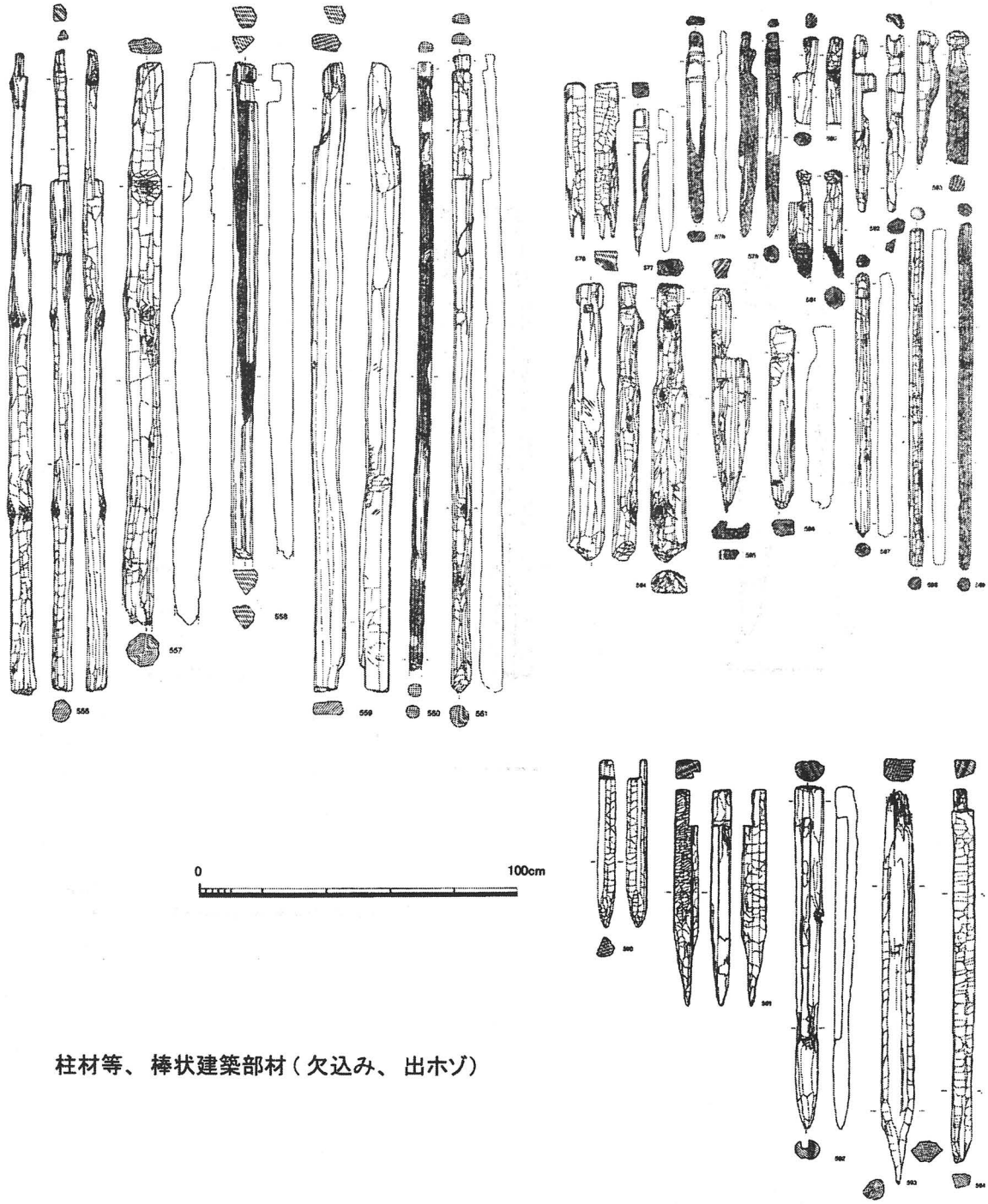
写真図版三一

3区堰（W11）

遺跡名:柳遺跡　所在地 滋賀県草津市　弥生時代

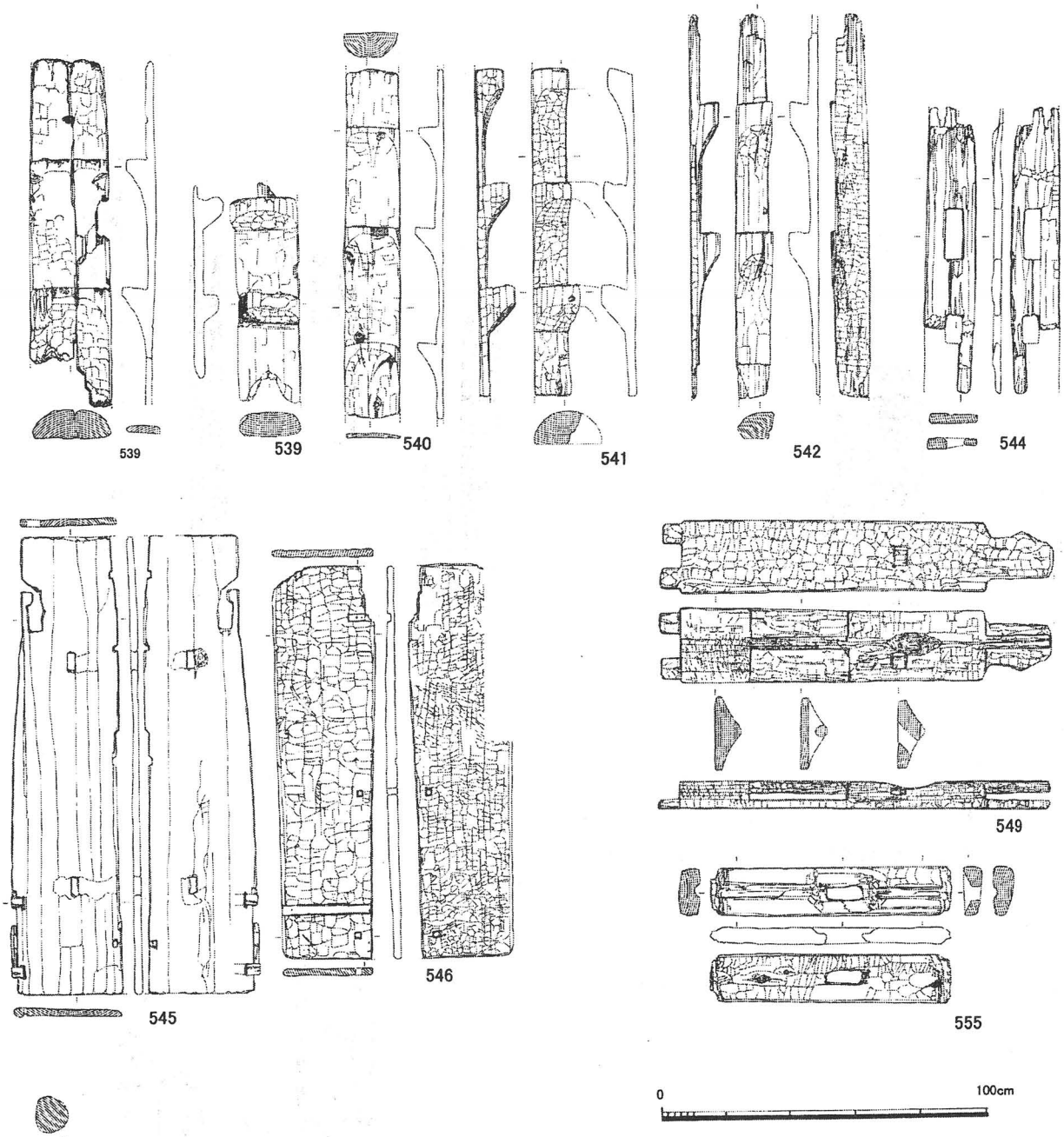


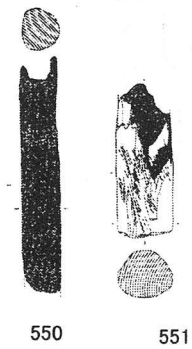
遺跡名：下長遺跡　所在地：滋賀県守山市　弥生時代後期～庄内



柱材等、棒状建築部材（欠込み、出ホゾ）

遺跡名：下長遺跡　所在地：滋賀県守山市　弥生時代後期～庄内





538 ～ 542　梯子

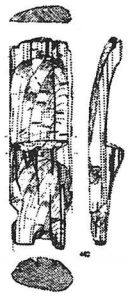
545・546　扉（貫穴、樺皮綴じ、吸付き蟻桟，クギ）

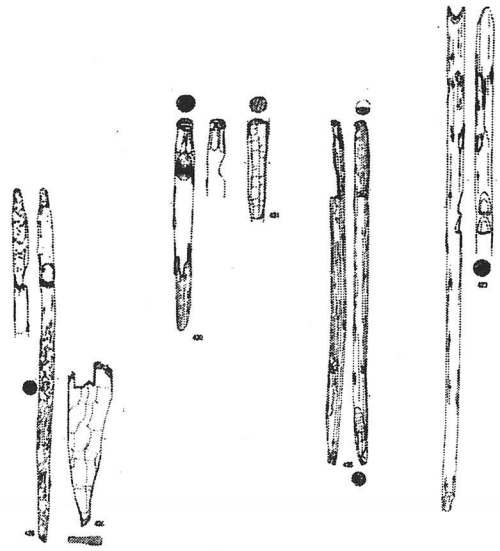
549　棟押（貫穴、継ぎ手加工）

555　土台（貫穴、溝）

550・551　柱（貫穴）

遺跡名:八ノ坪遺跡　所在地:滋賀県守山市　古墳時代前期

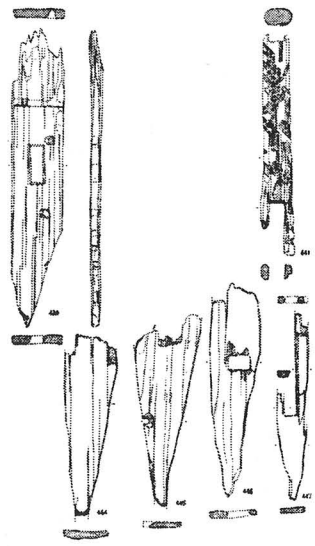




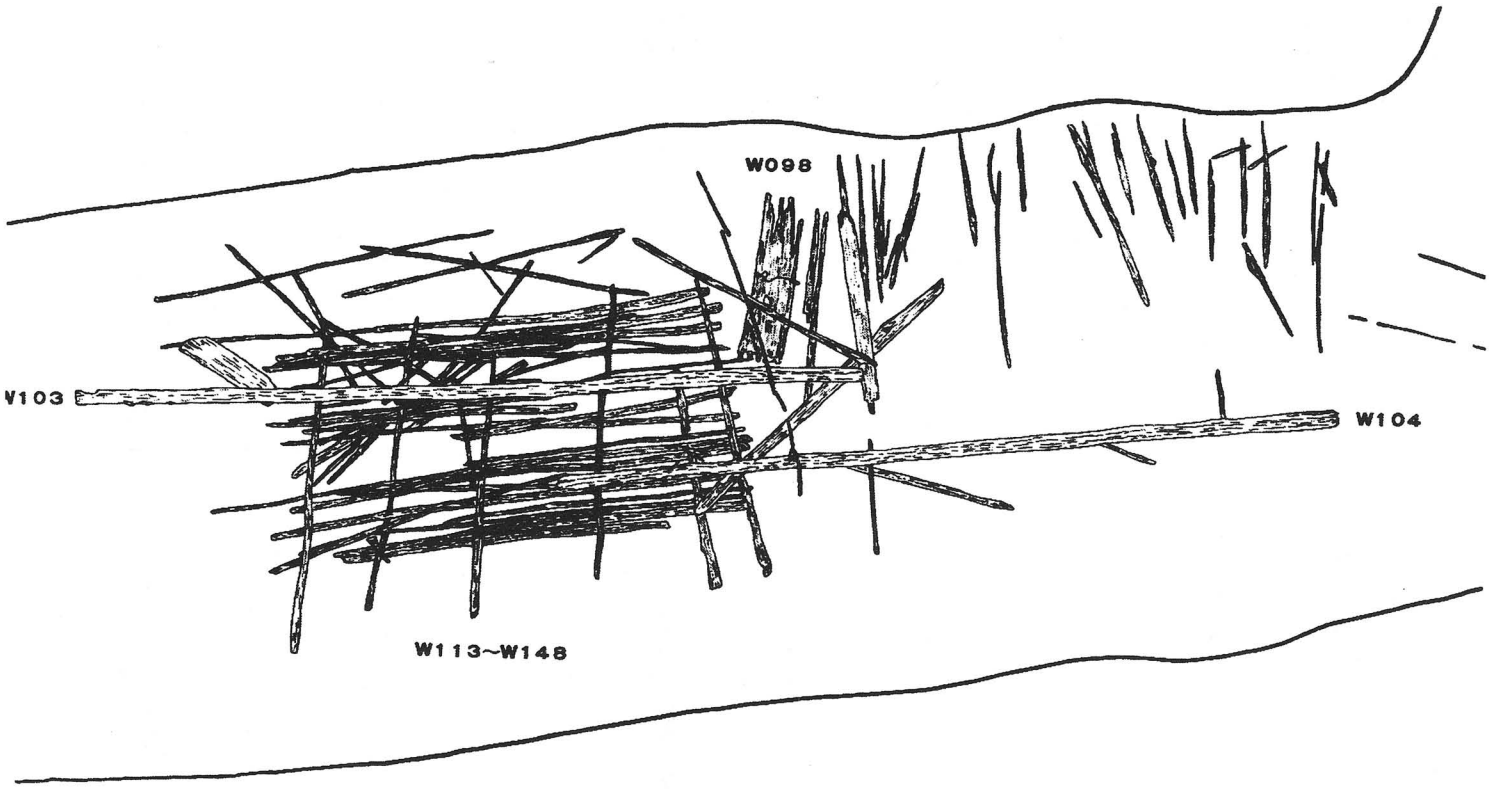
梯子

欠込みのある材

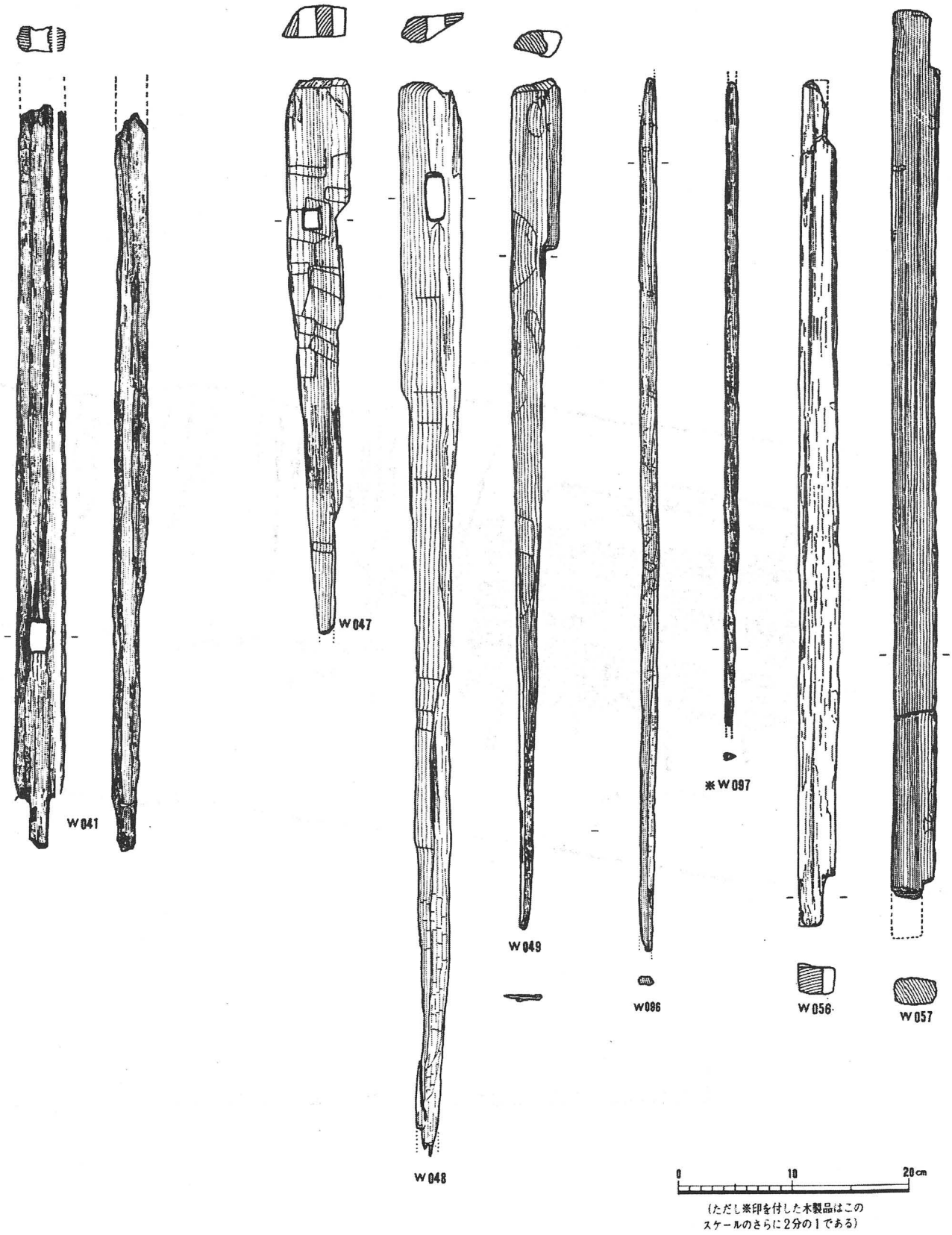
貫通穴のある杭状柱



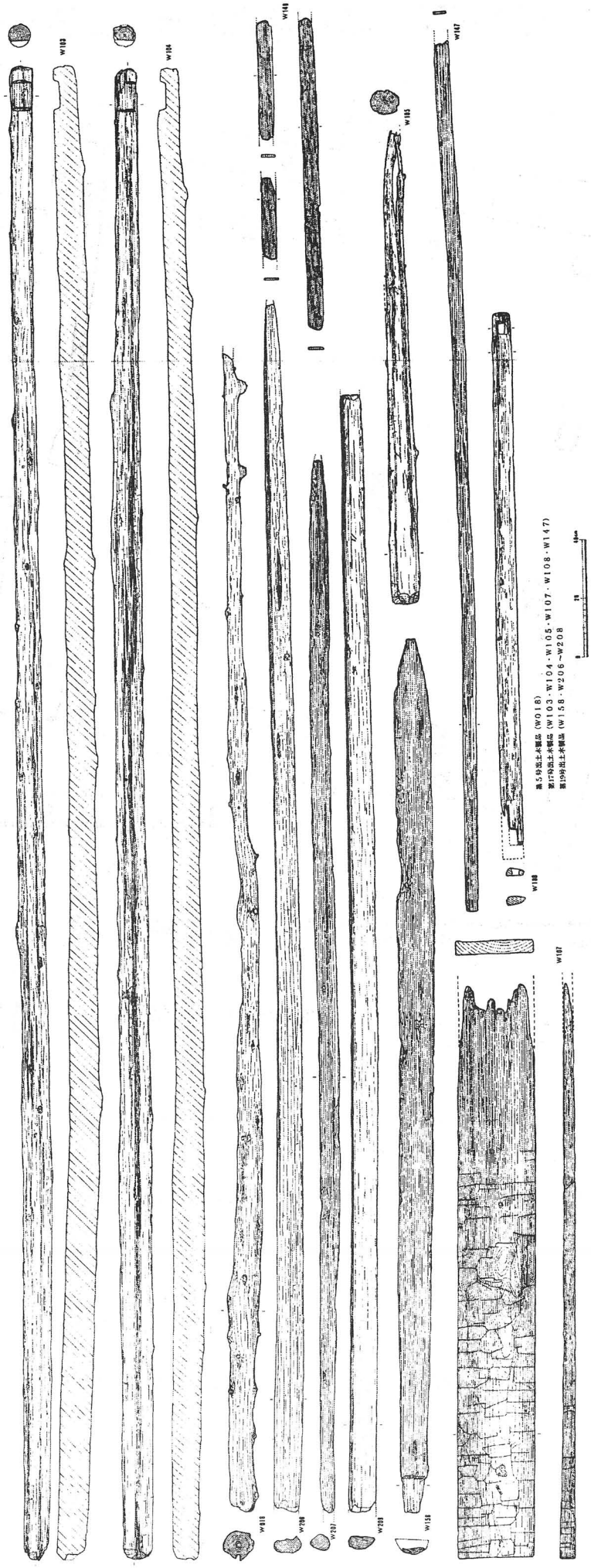
遺跡名：服部遺跡　滋賀県守山市　　古墳時代後期



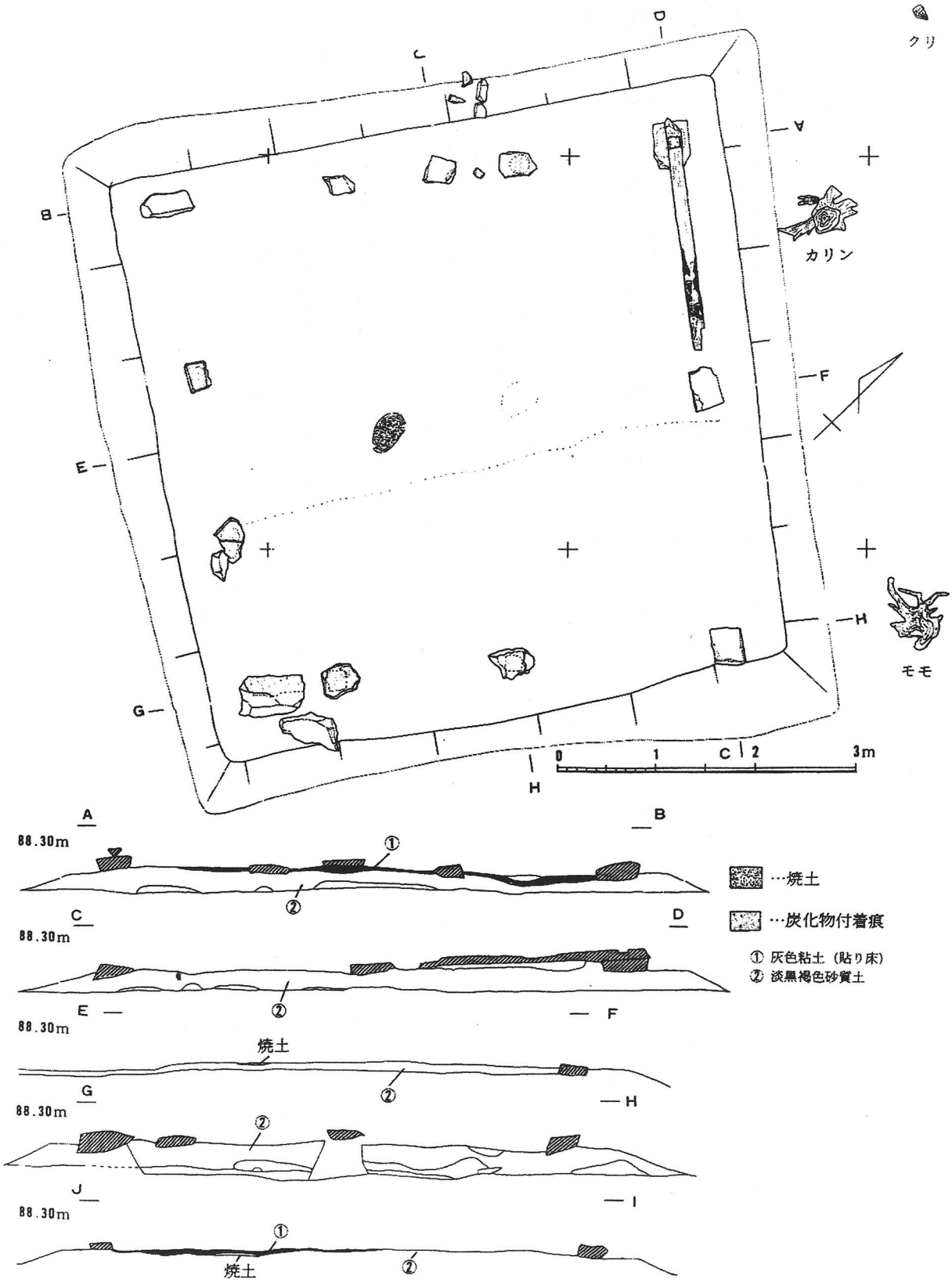
遺跡名：服部遺跡　滋賀県守山市　古墳時代後期



遺跡名：服部遺跡　滋賀県守山市　古墳時代後期

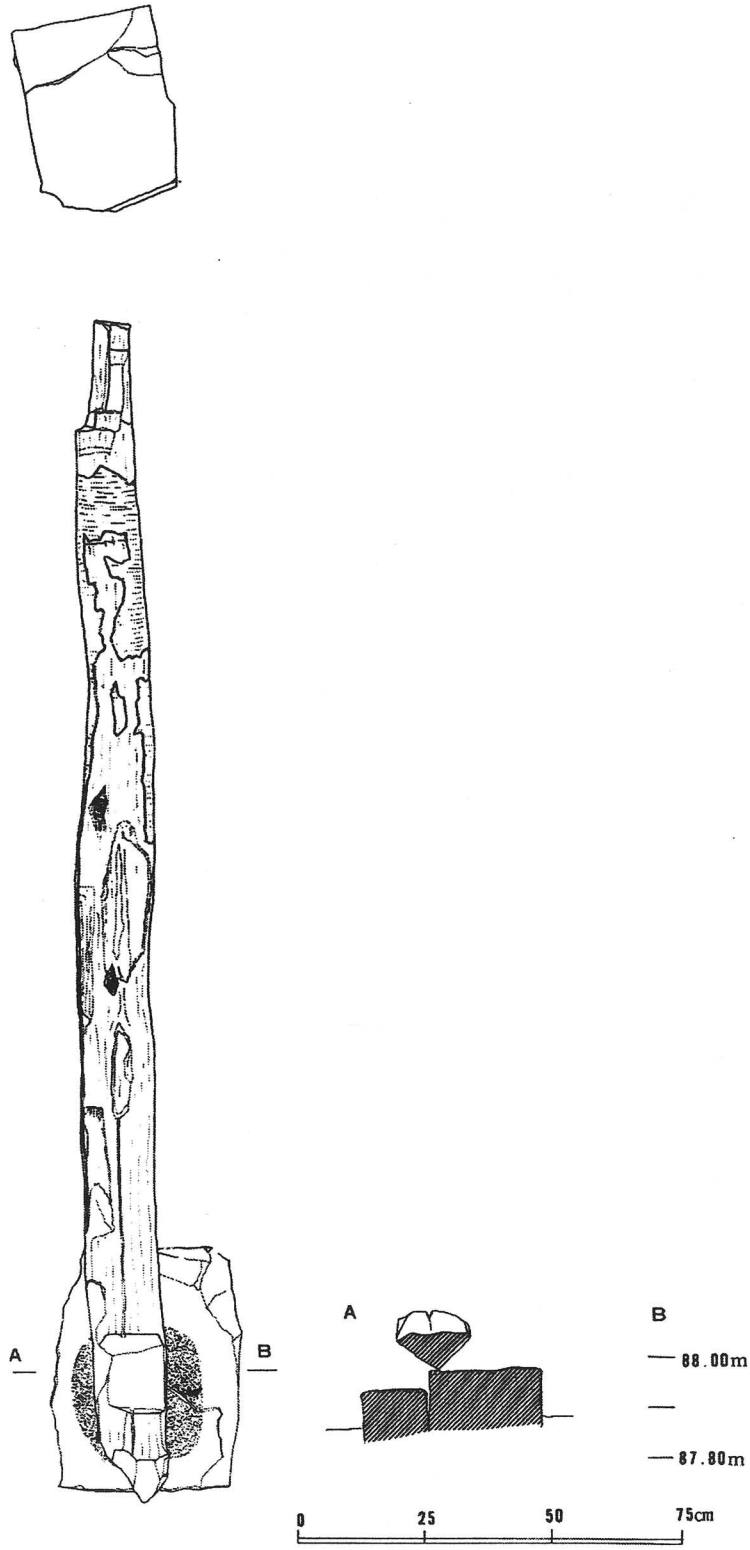


遺跡名：穴太遺跡　滋賀県大津市　古墳時代後期



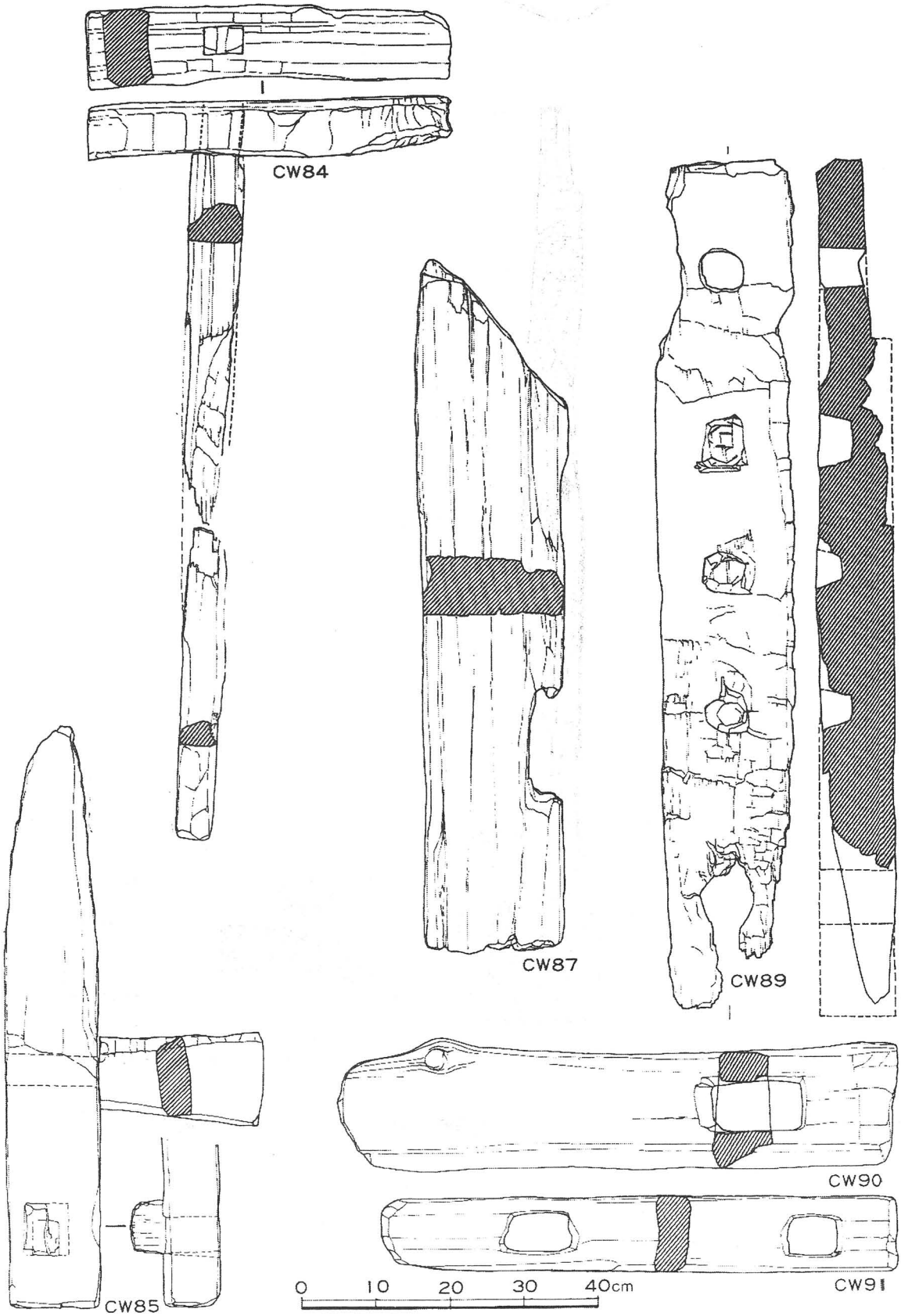
礎石建ち建物－１平面図・床面断ち割り分層図

遺跡名：穴太遺跡　滋賀県大津市　古墳時代後期

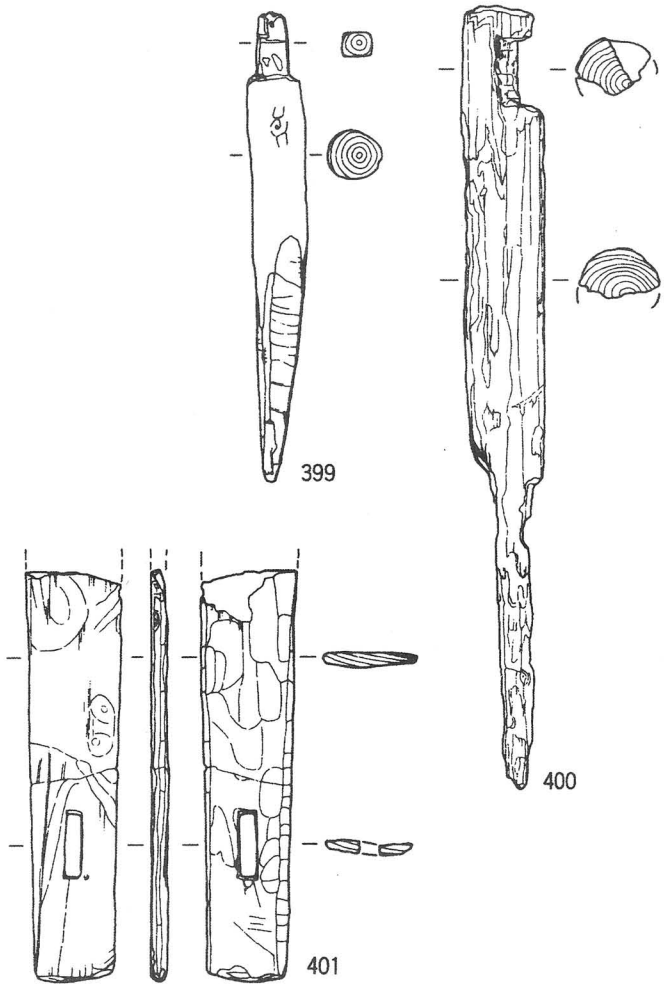


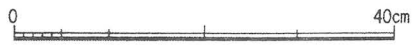
礎石建ち建物－1　土居桁平面図・断面図

遺跡名：滋賀里遺跡　滋賀県大津市　古墳時代

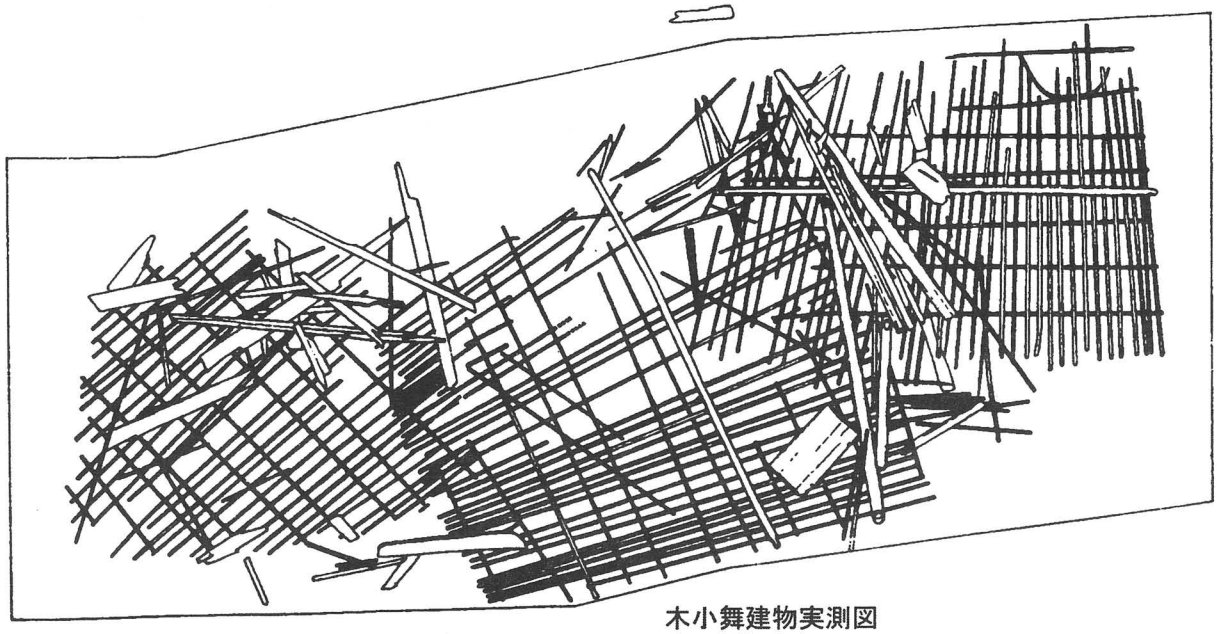


遺跡名：入江内湖遺跡　所在地　滋賀県米原町　古墳時代



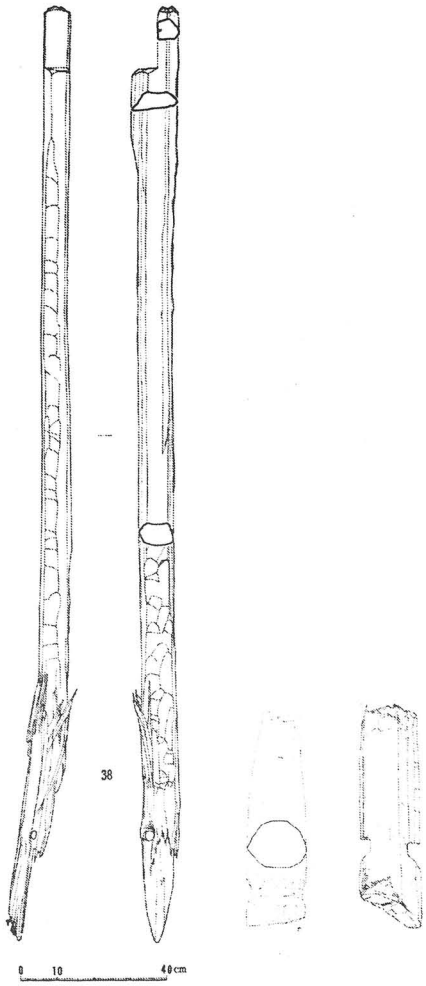


遺跡名:森浜遺跡　所在地:滋賀県高島郡新旭町　庄内～布留



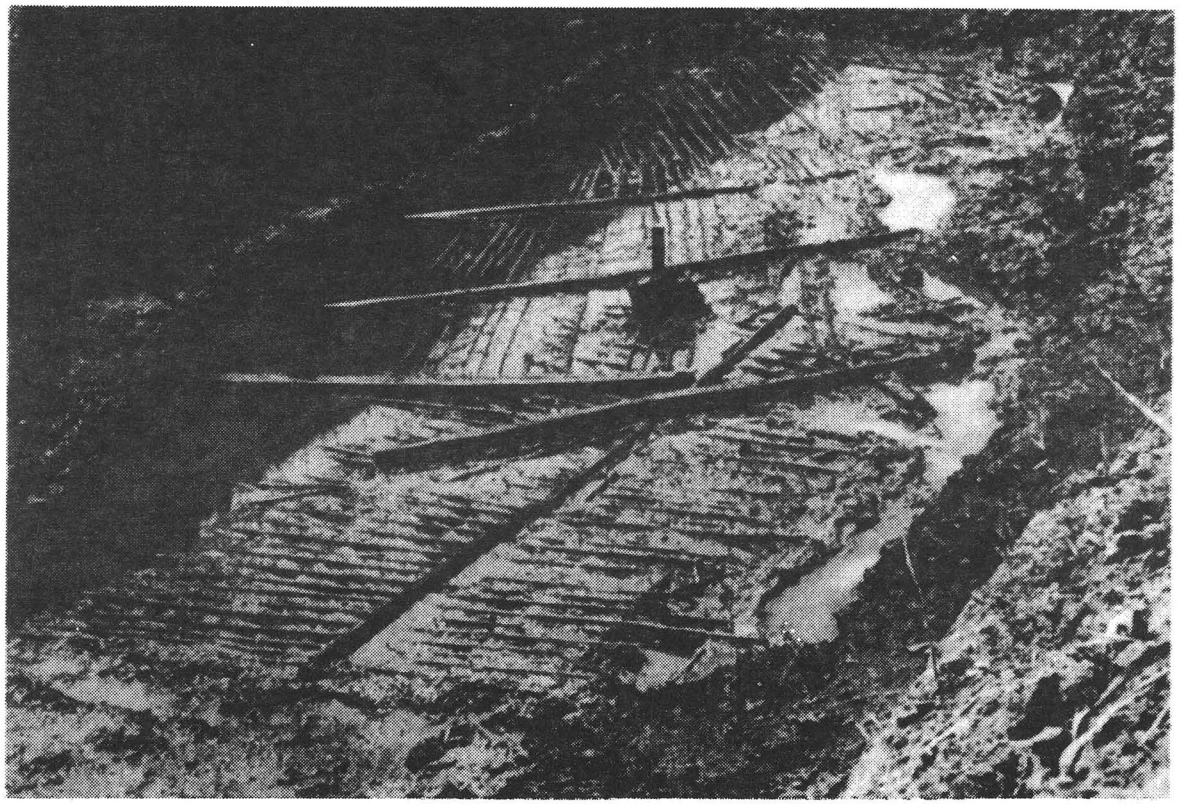
木小舞建物実測図

0　5m



柱材(欠込み、縄掛け溝)

遺跡名:森浜遺跡　所在地:滋賀県高島郡新旭町　庄内～布留

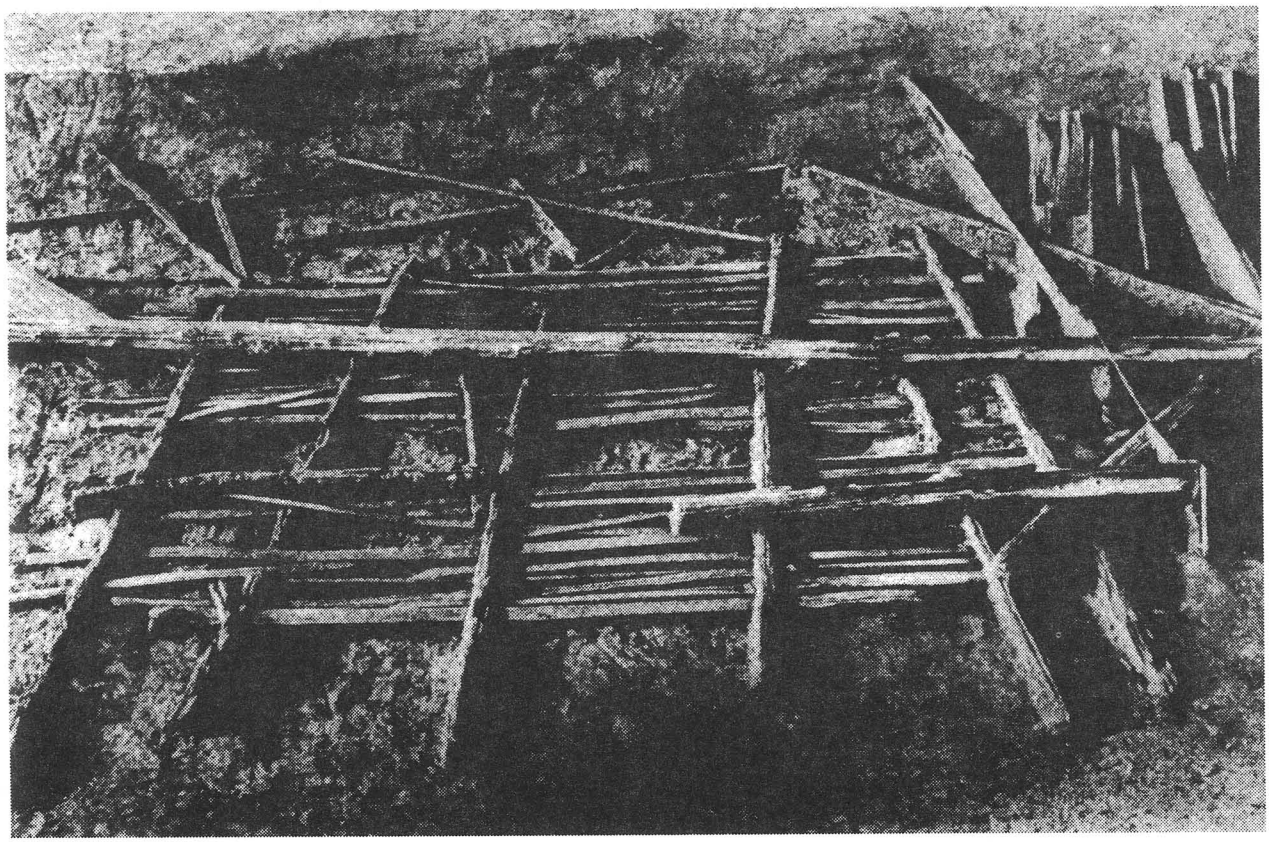


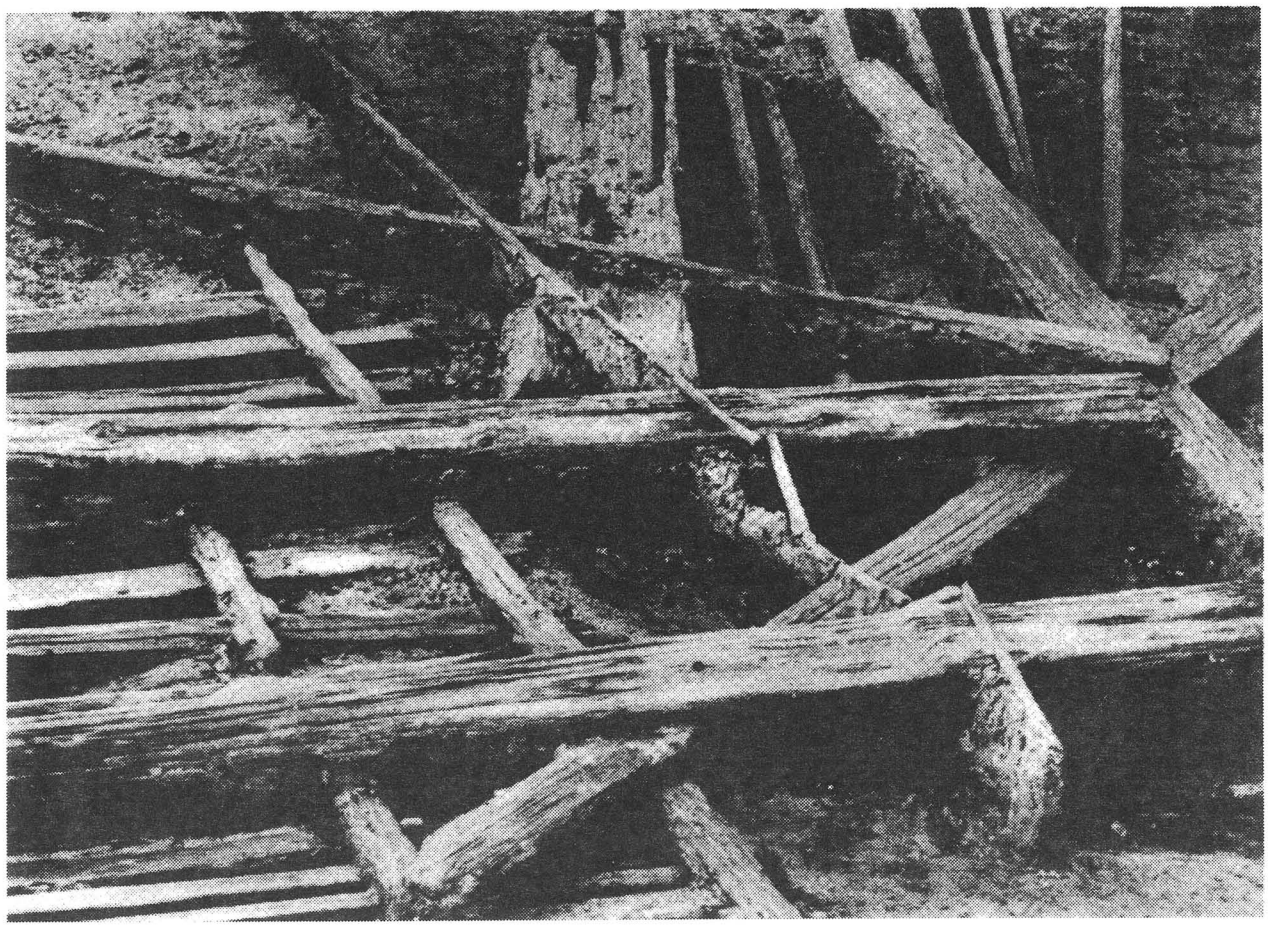
第二次調査　3・4地区組物出土状況（北より）

組物細部（2）

木小舞の建物　柱長3.7m

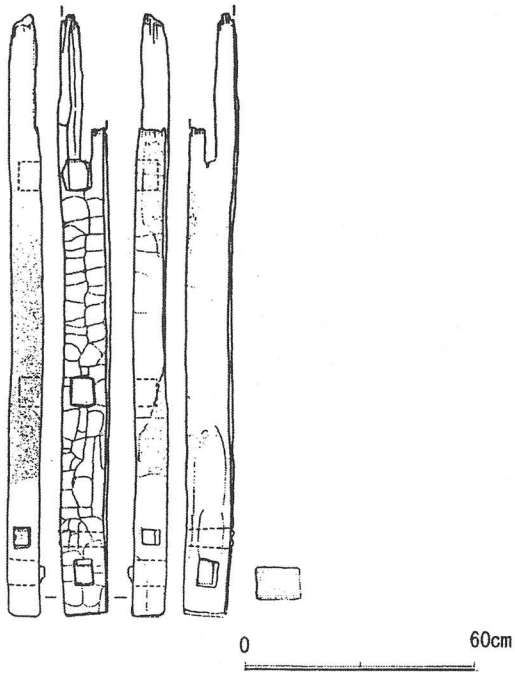
遺跡名：服部遺跡　滋賀県守山市　古墳時代後期





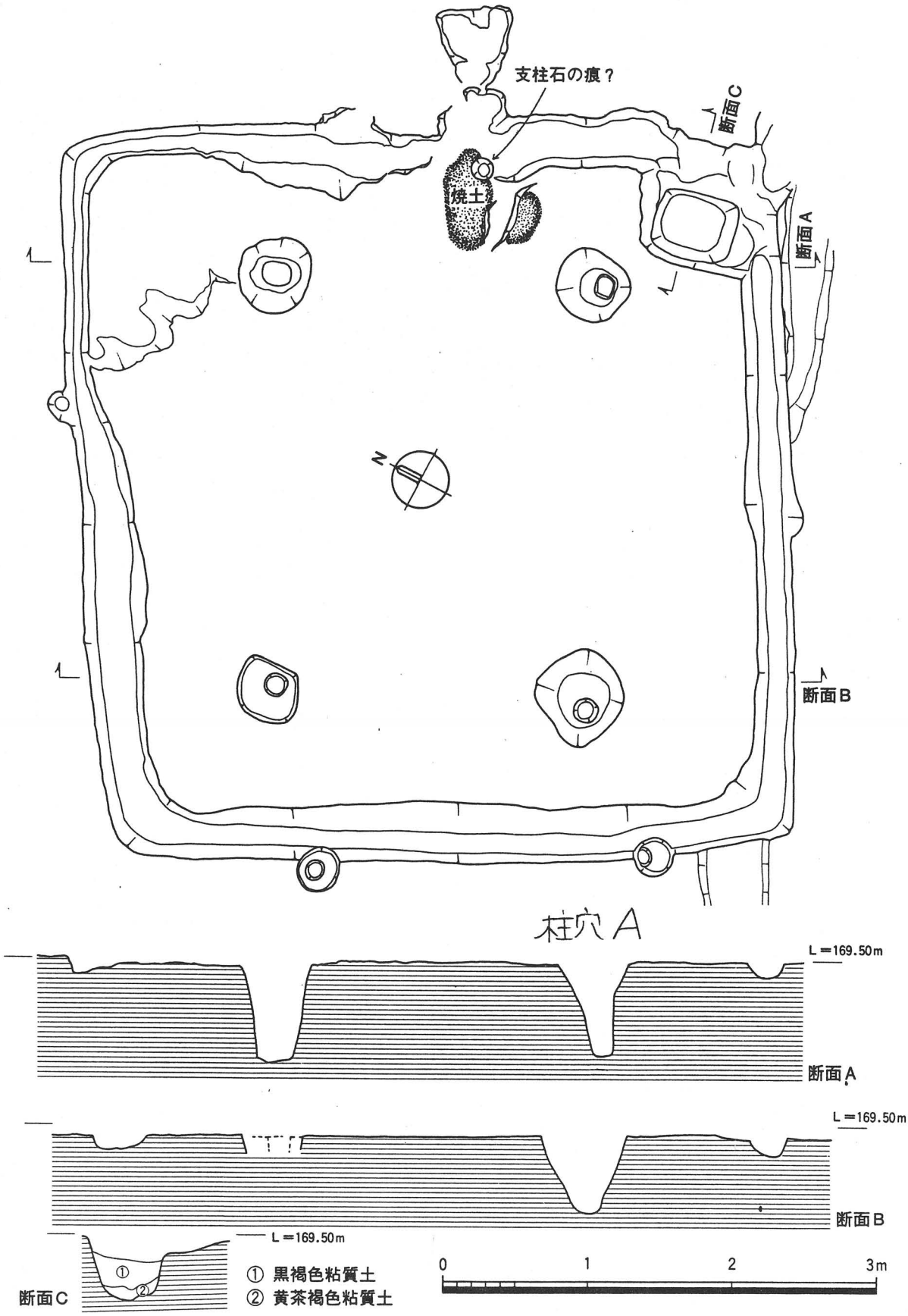
遺跡名: 大中の湖南遺跡 所在地:滋賀県蒲生郡安土町 7世紀

土台(止めホゾ、貫ホゾ、)



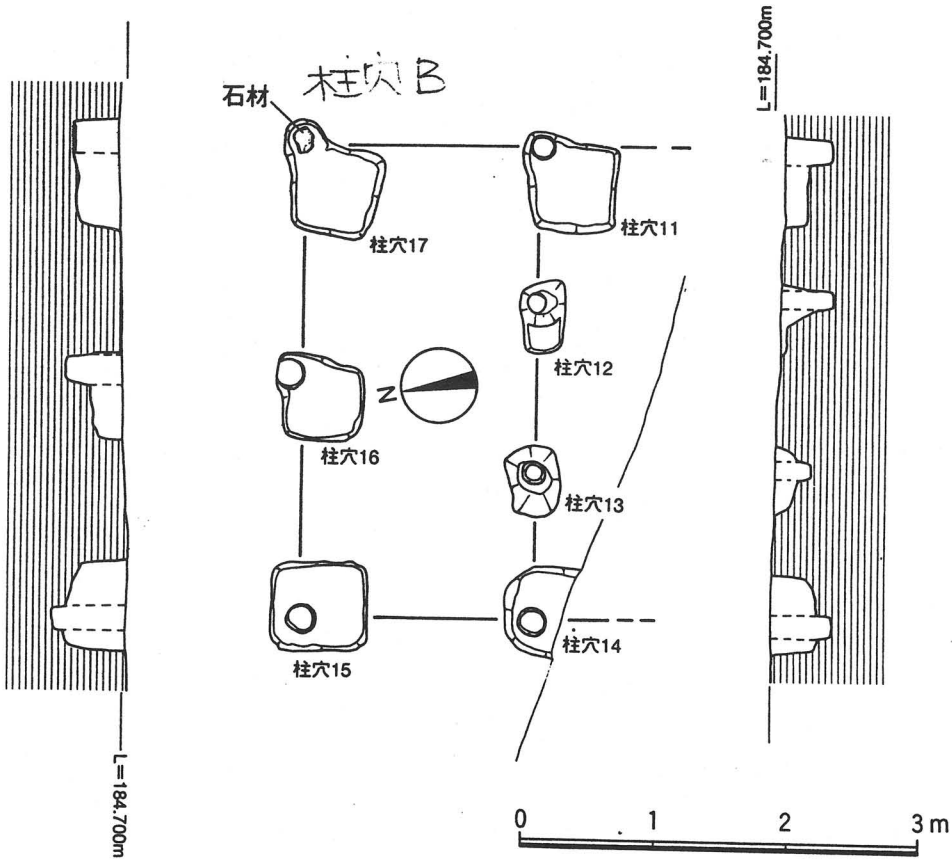
(付記)

A.



第26図　トレンチ9　竪穴住居 SB－52 平面・断面実測図

(付記)



第29図　調査区６　掘立柱建物ＳＢ－14　平面・断面実測図

B

京都府の概要

村上由美子

京都府では、弥生時代の前期以前の建築部材の出土は確認されていない。今回の集成では、弥生時代中期以降古墳時代までの例を中心に、長岡京期の例を補足として加えた。木材利用の傾向をみるには樹種同定が必須だが、古殿遺跡を除き、樹種に関して集約的に調べた事例はない。また製品の法量の記載を欠く場合も多かった。以下、時期別に注目すべき事例をあげながら傾向を見ていく。

〈弥生中期〉 市田斉当坊遺跡と太田遺跡で中期前半のほぞやほぞ穴をもつ材がある。市田斉当坊の板材（1～4）は、井戸縦板の外側に支持材として方形に組まれた状況で出土した。穿孔があるため転用材と見られ、法量的に建築部材であった可能性が高い。5～8は縦板を井戸内部から固定した横桟材で、建築部材ではないが、ほぞとほぞ穴の対応が明確であり、この時期の木組みの水準を示す事例として掲げた。広葉樹を用い、断面はみかん割りの形状をとどめる。

丹後の奈具谷遺跡では、護岸材に転用された建築部材が多く出土している。斜めの端部を持つ板材（10）にはケビキ線が残る。5はやや小ぶりであるが形態的に東土川西遺跡のほぞ穴のある材と同類の可能性がある。

〈弥生後期〉 東土川西遺跡では、用途不明の部材が流路から4本まとまって出土している。先述の奈具谷遺跡例など、類例を集めて組み方や構造体としての機能を考えてみる必要がある。

〈古墳前期〉 丹後の古殿遺跡で多数出土しており、そのうち51点を示した。壁板や垂木、柱材など部位を特定できる事例も多く、とくに垂木はかなりの点数がある。スギ材の利用が多いなか、8にように縄文時代以来のクリの又木を使った柱材も併用していたようである。

〈古墳中期〉 丹後の浅後谷南遺跡で、まとまった出土例があり、全長4m近い板材（20）や扉関連部材、渡腮仕口を持つ板材（12）が注目される。とくに溝の合流点の護岸施設に転用された部材群は、一棟の高床建物を廃棄したのちの転用された一括性の高い一群といえ、建物の復元にも。

●

〈古墳時代〉 時期は特定できないが、水垂遺跡で長大な柱材が多数出土しており、中には全長が4mを超えるものがある。端部の加工は一様でなく、横架材のほぞも多様であったと想定される。

〈長岡京期〉 井戸の底部で組み合った状態で検出された側板であり、今回の集成対象ではないが、市田斉当坊の横桟材との比較対象として提示した。ほぞの位置に墨描きの線が残っており、板材を計画的に削り出して組み合わせた様子が分かる。

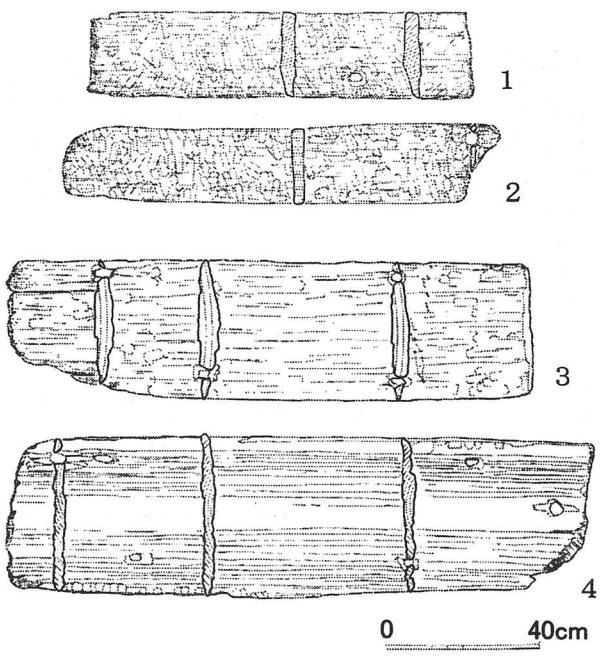
異なった時期の二基の井戸側板を比較することで、この間に製材技術や材組みの技術に生じた変化を端的に知ることができ、建築部材についても同様の変化があったと類推できる。

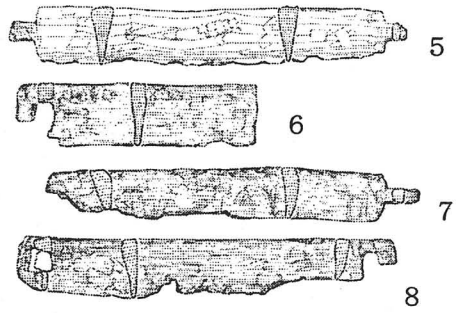
仕口総括表

時期□ 仕口	又	平ほぞ	二枚ほぞ	道きりほぞ	渡腮	欠き込み	ひぶくら接ぎ?
弥生中期	△	◎	○	○	△	○	△
弥生後期	△	◎	△	△	△	△	△
古墳前期	○	◎	△	△	○	○	△
古墳中期	△	◎	△	○	○	○	○
古墳後期	△	◎	○	△	△	○	○

遺跡名：市田斉当坊遺跡　所在地：京都府久御山町　弥生時代中期前半

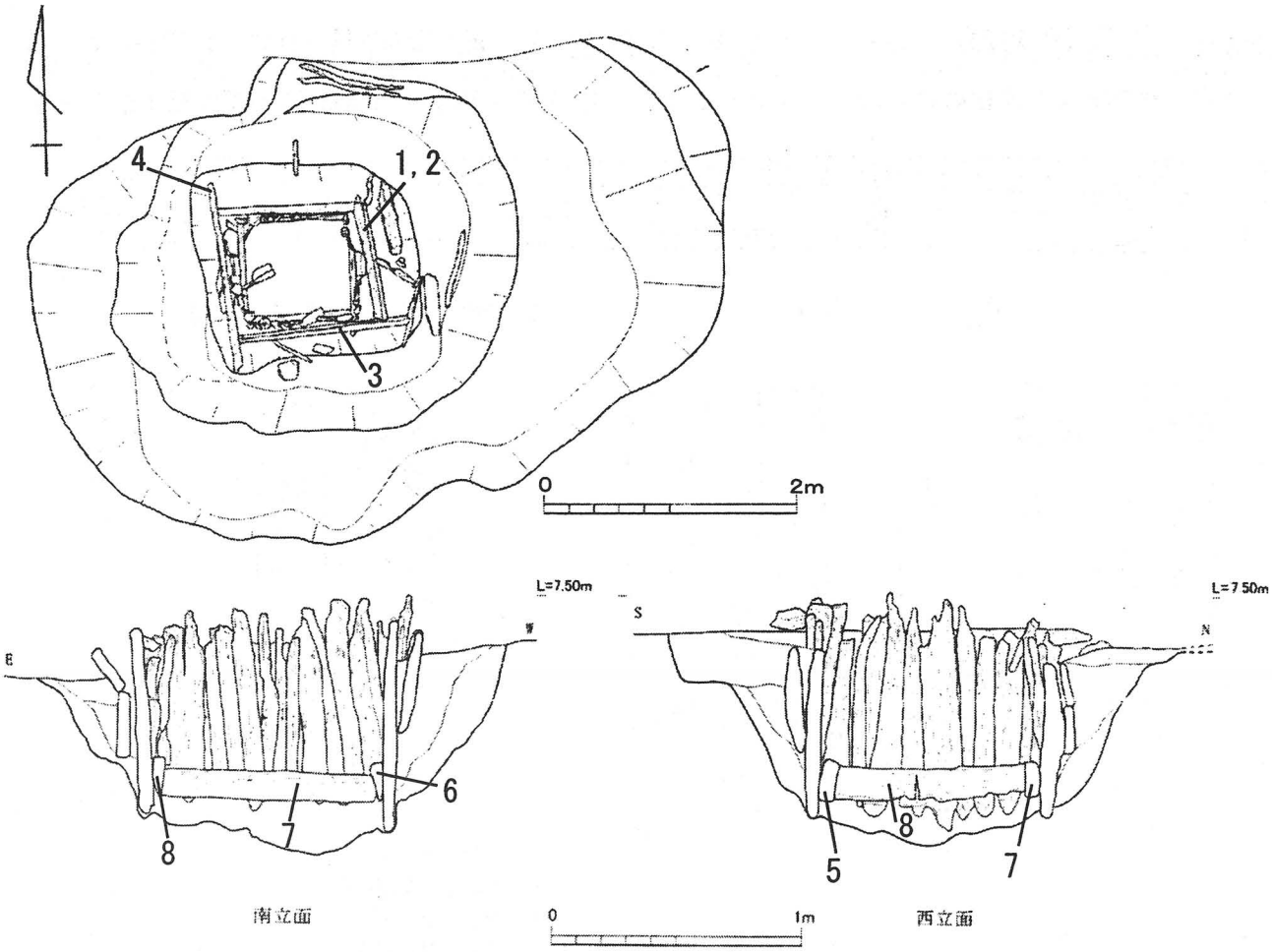
（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 2004『市田斉当坊遺跡　京都府遺跡調査報告書第 36 冊』





1．枘穴のある板材（井戸側板に転用、ヒノキ）
2．枘穴のある板材（井戸側板に転用）
3．枘穴のある板材（井戸側板に転用）
4．枘穴のある板材（井戸側板に転用、ヒノキ）
5．枘のある材　（井戸側内部の横桟材）
6．枘穴のある材（井戸側内部の横桟材，エノキ属）
7．枘のある材　（井戸側内部の横桟材）
8．枘穴のある材（井戸側内部の横桟材）

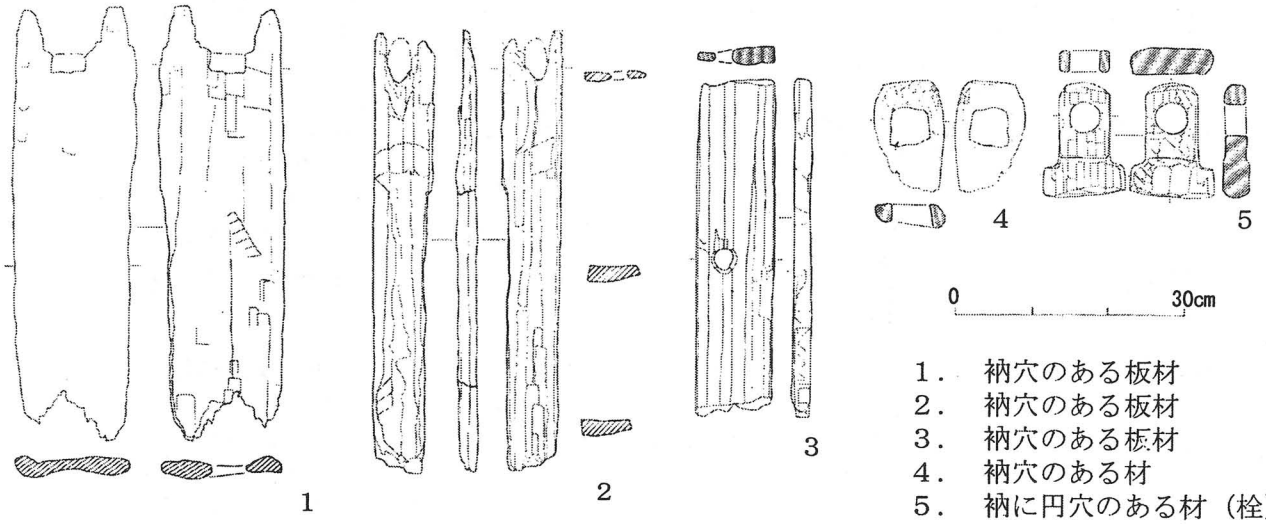
[S:1/20]



井戸SE453 側板出土状況

遺跡名：太田遺跡　所在地：京都府亀岡市　弥生時代中期前半

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1986『太田遺跡　京都府遺跡調査報告書第6冊』

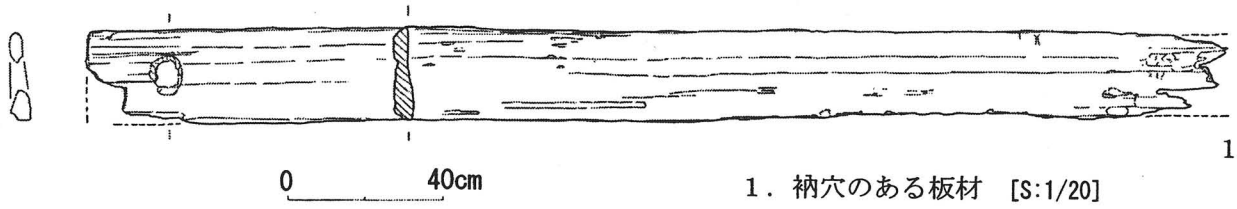


1．　納穴のある板材
2．　納穴のある板材
3．　納穴のある板材
4．　納穴のある材
5．　納に円穴のある材（栓）

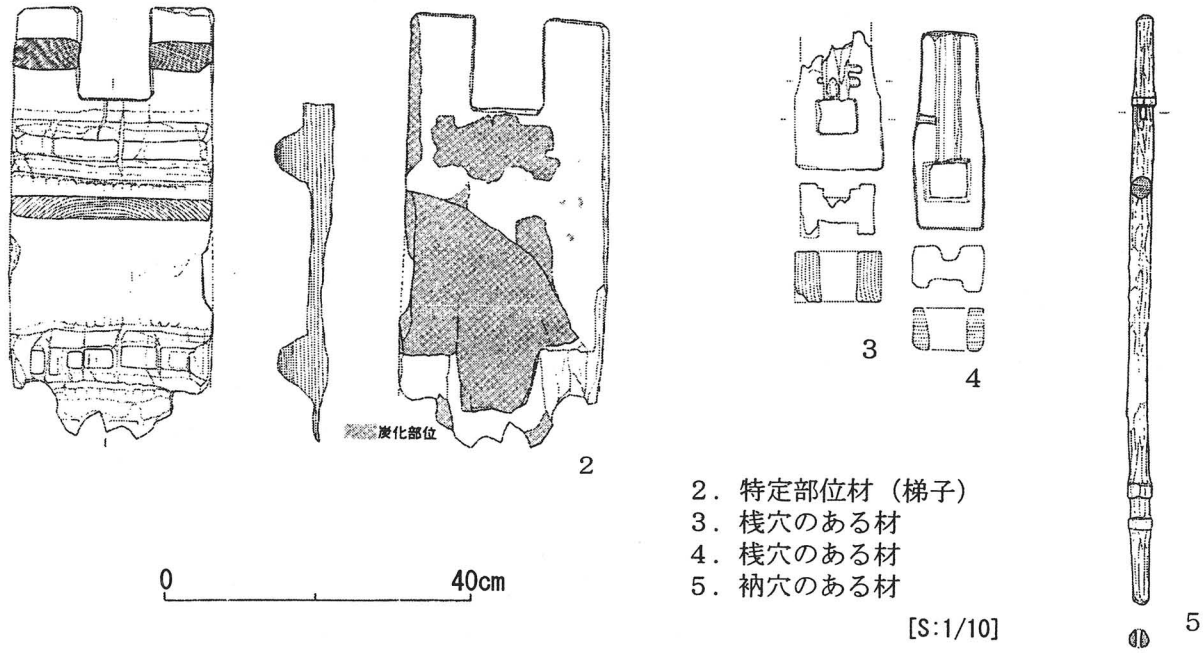
[S:1/10]

遺跡名：奈具谷遺跡　所在地：京都府京丹後市　弥生時代中期中葉～後葉

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1997「(1) 奈具谷遺跡」『京都府遺跡調査概報第76冊』



1．納穴のある板材　[S:1/20]

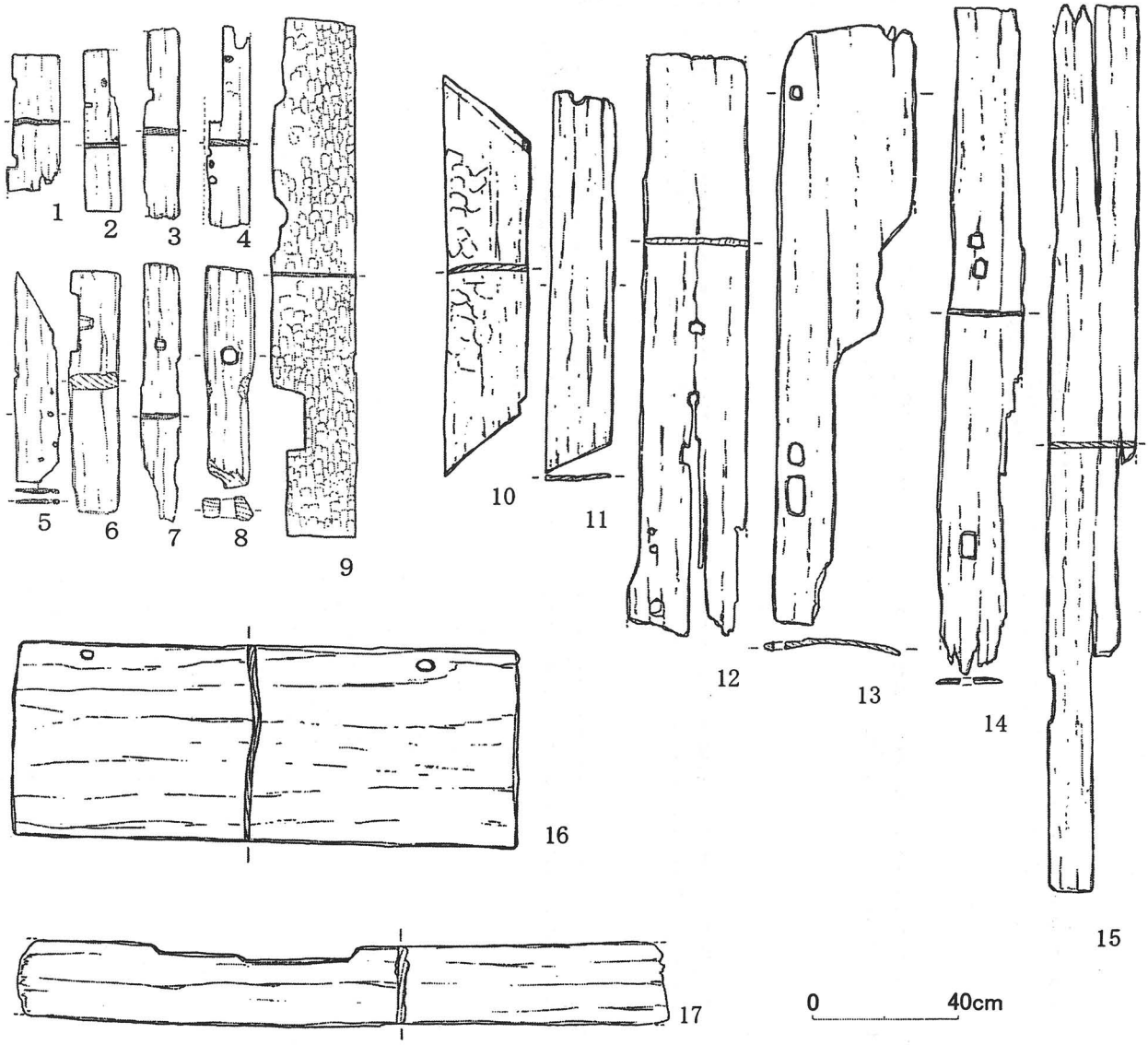


2．特定部位材（梯子）
3．桟穴のある材
4．桟穴のある材
5．納穴のある材

[S:1/10]

遺跡名：奈具谷遺跡　所在地：京都府京丹後市　弥生時代中期中葉～後葉

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1994「(4) 奈具谷遺跡」『京都府遺跡調査概報第 60 冊』



1．抉りのある板材
2．板材
3．板材
4．孔のある板材
5．孔があり端部が斜めの板材
6．抉りのある板材
7．孔のある板材
8．孔のある板材
9．抉りのある板材
10．両端が斜めの板材
11．端部が斜めの板材
12．孔のある板材
13．孔のある板材
14．孔のある板材
15．抉りのある板材
16．孔のある板材
17．抉りのある板材

[S:1/20]